

鹿児島県史料集 (29)

要用集(下)

要
用
集
(
下
)

鹿児島県史料刊行会

刊行のことば

鹿児島県史料集第二十九集として、ここに「要用集・下」を刊行いたします。

本書は、薩藩藩政の要務に関する諸制度等を事項別にまとめたもので、薩藩藩政の推移を知る基本史料の一つといわれています。

「要用集」は、全六巻からなっていますが、一巻から三巻までをまとめ、上巻として昨年度刊行し、今年度は四巻から六巻までを下巻として刊行することにしました。

県史料の刊行は、資料の保存をはかり、郷土の研究に役立てることをすすめてきた事業の一つですが、史料集の刊行が今日までとどこおりなく続けられていることは、県史料刊行委員の方々の並々ならぬご協力のお陰だと心から感謝しています。

今回は、昨年度に引きつづき、鹿児島純心女子短期大学の芳即止教授に解説・書写・校正をしていただきました。二年前にわたるお骨折りに心から御礼申しあげます。

なお、この史料が地方史の研究に大いに役立てられるよう期待します。

平成元年三月

鹿児島県立図書館長

須佐美

新

例言

- 今回嘉永七年改編の「要用集」六巻を、それぞれ三巻ずつ上下両巻に分けて刊行することにし、本書にはそのうち四巻から六巻までを取めた。
- 本「要用集」の原本は、一巻から五巻までは旧薩摩藩蘭半田領主家の薩摩郡祁答院町榊山不搖齋氏の所蔵にかかり、最後の六巻は鹿児島県立図書館に所蔵されている。元来すべて榊山氏所蔵本であつたと思われるが、それについての経緯は本巻に記す解説によって承知されたい。
- この鹿児島県史料集第一輯として刊行された「薩藩政要録」は元来原名を「要用集」と称し、文政九年の資料によつてゐるが、本書はそれから二十五、六年後の嘉永四年五年の資料によつてゐる。藩政運用の要項をまとめて座右の書とし、時折新たな資料によつて改編を行ったものである。
- 刊行にあつては第一輯「薩藩政要録」との対比の関係上、その方針にならつてつとめて原本の体裁を保持しつつ適宜改めた。ただし三九項の人名配列二段組は上巻に収めた一九項と違つて、誤解を避けるため上段から下段へと順次配列した。
- 各項の番号は本文中には記されていないが、利用の便宜上「薩藩政要録」にならつて記入した。ただ第一巻冒頭には全巻分が朱書記入されている。
- 原本に用いられている文字のうち、一部を便宜普通の文字に改め、誤りの明らかなものについては訂正した。また「島」「嶋」は「島」に統一した。
- 変体仮名はすべて普通の平仮名に改め、「者」は「ハ」、「夕」は「より」「茂」は「も」、「与」は「と」とした。
- 本書の校訂は芳 即正が當つた。

解 説

鹿兒島県史料刊行会では第一輯として「薩藩政要録」を刊行したが、その際県立図書館所蔵の「要用集」第六巻が「政要録」第六巻と同じ目録で、その中に収められている数字が嘉永四年のもので「政要録」と異なることから、それら重複しない異なる部分だけを、一種の付録として収録刊行した。しかしその際この「要用集」の来歴については十分解明されないままであった。その後校訂者の芳即正が、偶然の機会に「要用集」第一巻から第五巻までの所在を確認することができ、それを今回ようやく全文刊行する運びになった。その経緯および「要用集」と「政要録」との違いなどについて、かつて「鹿兒島県立短期大学紀要」第三十号（一九七九）に「樺山本要用集について」と題して発表したものがあるので、それを再掲することによって解説にかえたい。

樺山本の発見

「要用集」は普通「薩藩政要録」といわれ全六巻から成り、薩摩藩々政関係の重要事項をまとめた要録である。薩藩史研究上の貴重な史料で、既に昭和三十四年度に鹿兒島県立図書館内の鹿兒島県史料刊行会から出版され、よく利用されている。刊本例言に記されているように、同書原本は鹿兒島大学附属図書館所蔵の玉里文庫の中にあり、もと江田氏の蔵本だという。このほか巻六にあたる旧遠矢氏蔵本「樺山家伝家」本が、前者と相異なる点だけ追加収録されており、後者は現在鹿兒島県立図書館に所蔵されている。前者玉里本は文政十一年改編でその記載数字が文政九年（一八二六）現在の資料をもとにしているのに対し、後者は嘉永四年（一八五二）現在の資料によっており、その間二五年の年代の開きがあつて、当然数字その他に相異が生じているからである。

では後者はどこの樺山家に伝わつたもので、しかも巻一から巻五まではどうなつているのであろうか。その点については皆日見当がつかかなかつた。たまたま去る七月十二日（昭和五十四年）筆者は、平凡社の高橋洋二氏らと薩摩郡祁答院町蘭牟田の樺山不搖齋氏宅を訪れた。この不搖齋氏は例の文化朋党事件（近思録くずれ）で切腹した家老樺山主税の子孫である。同家に主税切腹の時に用いた刀があり、肖像画も所蔵されているというので、その取材のためである。ところがその時不搖齋氏から、資料も余り残っていないがこういうものがある、と見せてもらったのが数冊の筆字和本である。みるとその一冊の目録に、要用集一から六までの目録が記され、その五まで五冊がそろつているが六はない。正しく要用集五冊である。一から四は表紙なしで、五だけが表は紺、裏は黒の表紙がつけられている。保存状態は割に良好で、巻三の一枚目が破損し、同じく巻三の初め十五、六枚と巻五の初め七、八枚に相当の虫喰いがめだつ程度である。不搖齋氏は要用集は六冊あるそうだが、うちにはこれだけしかないのですと、表紙のない四冊だけを示された。しかし筆者の調査で表紙のある一冊も要用集であることを告げると驚いておられた。そこで後日県立図書館所蔵の「樺山家伝家本六」と対照してみると、まずその筆跡が似通つている点、及び巻六の（七三）「年々江戸御統米并江戸大坂行船数之事」（八九）「樟脳方御利潤銀之事」等が嘉永四年の資料と明記してあるのに対し、後述の如く今回発見の樺山本巻二の（一七）や巻三の（三七）又は巻四の（三九）等にも、嘉永四年又は同五年の資料と明記したものがある点等から、両者は全く同一系統の要用集であると断定して差支えないと確信するに至つた。即ち図書館本に記された樺山家とは、実は旧蘭牟田領主樺山氏であることが明らか

になった。刊本例言が図書館本を旧遠矢氏蔵本としたのは表紙に遠矢氏と記され、同書一頁に「鹿兒島市常盤町七八三遠矢良和」というスタンプ印及び「遠矢」の認印が押されているからであろうが、元来樺山家本なのである。遠矢良和氏は元軍人で、沖繩戦の司令官牛島満中將とは陸軍士官学校の同期生だったという（同氏には「沖繩戦に自刃せる牛島満君の面影」の著がある。昭和二十九年六月）。どうして巻六だけが樺山家から放れたのか不搖磨氏にも不明だという。樺山家は鹿兒島市下荒田町の現在八幡小学校の校地に所在し、大正九年市立鹿兒島商業学校（現鹿兒島商業高校の前身）の敷地となった。樺山家が鹿兒島市在住時代にでも貸出され、それが遠矢氏の手に入ったものである。図書館に入ったのは昭和二十七年三月である。それはともかく樺山本要用集は全六巻が完全に現存していることが確認されたわけである。

両者の内容上の異同

樺山本六については既に玉里本との相異点が紹介されているので、以下に要用集一から五について、樺山本と玉里本の両者を比較してその主要な異同を摘記してみよう。まず巻五までの全六十五項目中次の二十四項目は全くその内容に相異がない。（上の数字は樺山本・玉里本共通の朱書の目録番号で、原文も漢数字である。）

- 二 京竿以来御検地高作様之事
- 五 勅願所之事 附一國一ヶ寺之事
- 八 長日相勤寺之事
- 一〇 御元祖以来 御居城之事
- 一一 御閑狩并吉野御牧之事
- 一八 半出物米高之事
- 二一 島津周防殿島津因幡殿御取立一所之地被下置候次第之事
- 二四 御一門并独礼之面々御城代御家老を始諸士以下之者共迄妻手札帳面等書様之次第被相究候事
- 二五 御分国堅横并廻町間之事
- 二六 他領境目番所并辺路番之事
- 四〇 前々移地頭在番被 仰付置候郷并当時移地頭押等被 仰付置候郷之事
- 四二 誓詞日之事
- 四三 御家老寄合日之事
- 四四 評定所式日之事
- 四五 犬追物稽古日之事
- 四七 表方支配諸御役座等之事
- 四八 御勝手方支配諸御役座等之事
- 五〇 御役被 仰付次第之事

- 五二 諸御役人御役料米被下様之事
- 五三 諸御役座書役小役人持高依員數役料米并支度料銀等不被下候事
- 五九 琉球拝借銀之事
- 六二 達 貴聞縁与之事
- 六三 諸士子共半元服前髮取之事
- 六四 諸人訴訟之事

卷数	目録番号
一	一、六
二	七、一八
三	一九、三七
四	三八、六四
五	六五

なお各巻収載番号は右表の通りである。

右記以外の四十一項目は年代の推移に伴い種々内容に相異のあるもので、そのうち例えば(一)で將軍家育・家慶の「御判物頂戴」の如く、多少の事実を追加したものがあり、次の十六項目がそれに該当する。

- 一 御判物高并御目録高之事
- 四 諸寺門首并山伏袈裟頭之事 附神主之事
- 七 御目見寺社并山伏之事 附寺高之事
- 九 達 貴聞住職被 仰付寺院之事 附御家老承任職申渡候寺院之事
 - 一一 御城代相勤候人之事
 - 一二 貴久公以来御家老職相勤候人之事
 - 一三 家久公以来御談合役御詰役御側詰(役)若御年寄若年寄相勤候人之事(一)内は文政九年目録
 - 一四 光久公以来横日頭大御目附大目附大目附格相勤候人之事
 - 一五 津口番所之事
 - 二七 異国方番所并遠見番所之事
 - 二八 火立番之事

- 三一 御納戸御道具之事
- 三四 御数寄屋御道具之事
- 四六 御使式日之事
- 四九 御側支配并若年寄大目附支配諸御役座等之事
- 六一 諸士跡目并隱居家督嫡子成養子之儀定被置事
以上のほか文中追加量の相当多いものとして
- 六 御先祖様御菩提所并有由緒寺院之事
附御家御代々御正忌日御夫人御正忌日之事
がある。ただしこの「附」の部分は一―二行の追加である。また内容変更の多いものとして、
- 六〇 御国葉種之事

次にその変更内容が主として数字及び人名に関係しているものがある。二十五年間の歳月の歩みにより、例えば神社仏閣数が増加していたり、又地頭の交代や領主家その他での代替りによる変更の類である。まず主として数字の変更によるものをみると、そのうち次の三項目はごく少量の数字変更のあるものである。

- 三二 御馬并御馬具之事
- 三六 高式百石以上士人数并依人鉢持高員数被相究候事
- 四一 御飯屋并御茶屋之事

さらに次の十項目はほぼ全文の数字変更を伴うもので、大幅な相異のあるものである。このうち(一七)・(三七)は嘉永四年分、(三九)は嘉永五年の数字を使用することが明記されており、この樺山本要用集は少なくとも嘉永六年以後の改編にかかることを示している。玉里本が文政九年の資料を用いて二年後の文政十一年改編とすると、樺山本は或は安政元年(嘉永七年・一八五四)の改編にかかるものと推定してよさそうである。

- 三 神社仏閣寺院数之事
- 一六 御検地高之事
- 一七 諸給地出物米之事(嘉永四年資料)
- 三〇 御武具之事
- 三三 塩硝并硫碓員数之事
- 三五 置米置銀之事
- 三七 諸役座より相納寄銀之事(嘉永四年資料)
- 三九 宗門手札御改人数総之事(嘉永五年改)
- 五七 諸御役分高員数之事

- 五八 諸御役料米并御切米御扶持米其外御國中諸払銀米員數之事
- 六五 諸郷郡分地頭附并郷士人躰持高之事

附琉球道之島道程之事

最後に次の九項目は人名の変更により、ほぼ全文が変わっているものであるが、(三三八)は後半部分には余り変更はない。

- 一九 御直并 御前元服且又元服之御札御内証元服被 仰付候人数家筋連名次第之事
- 二〇 家格被相定候人并家筋連名次第之事

附家二付年頭八朔御太刀進上人数之事

- 二二 島津之御称号被下置候面々二男以下名字拝領被仰付候事
- 二三 御家之字名乗来候面々^正二男以下名乗之字拝領被 仰付候事

附実名遠慮之字被 仰渡候事

- 三八 御家老組并御小姓与番頭小番新番御小姓与人躰之事

- 五一 御城代御家老御側詰若年寄大目附大番頭寺社奉行御勘定奉行御小姓与番頭当番頭御側表御用人町奉行御側役迄御役料高并御役料米被下候人之事

- 五四 先祖之勲功且又其身依功代々御切米被下候人之事

- 五五 御扶助米被下置候人之事

- 五六 一世御養料被下置候人之事

宗門手札改人数減少の意味するもの

以上玉里本と差異のある諸項目中の資料は、それぞれ貴重なものを含んでいるが、特に(三三九)や(六六五)は文政九年から二十五年余り後の藩内総人口はもとより、各郷別の石高や郷士人数その他を知悉する上から特に貴重である。いま(三三九)の資料により玉里本との相異点を検討しながら、若干の考察を加えてみたい。

(三三九)は嘉永五年(一八五二)の宗門手札改めの結果を掲載したものである。これまで薩藩領内の国別・身分階層別等の人口総体は、文政九年(一八二六)のものが最後で、それ以来は幕末まで不明であったので、本資料はこれまで未知の全くの新資料ということになる。薩藩の宗門手札改めの実施については、嘗て桃園恵真氏が研究発表されており、それによると三十回とあるが、それは玉里本要用集に掲げられている文政九年の手札改めが抜けているので、これを加えると少なくとも三十二回に及ぶわけである。文政九年前後から幕末までの分についてみると、別表の如く文政七年以降八回にわたり、文政九年の二年目・天保二年の五年日以外すべて七年毎に行われている。

文政七年申	(一八二四)
同 九年戌	(一八二六)
天保二年卯	(一八三一)
同 九年戌	(一八三八)
弘化二年巳	(一八四五)
嘉永五年子	(一八五二)
安政六年未	(一八五九)
慶応二年寅	(一八六六)

文政九年を例外と考えれば当時は七年毎が原則となっていたのであろうか。要集の中には前回の手札改めの人数と比較した増減数が記入されているので、玉里本では前回文政七年と、樺山本では弘化二年と比較されている。ただ樺山本嘉永五年の場合、琉球については前回との比較について、次のようなことが記入されている。

但弘化二已改之節佛朗人等致来著居、依願改方被召延置候付、戌改元人数二御座候とあり、弘化二年の宗門手札改めの時にはフランス人が来ていたため、願い出によって手札改めを延期したので、今回の分との比較の元人数(基本人数)は戌年即ち天保九年の数字であるという意味である。フランス人云々というは、その前の年弘化元年(天保十五年)三月フランス軍艦アルクメーヌ号が那覇に来航し、琉球政庁に対して通信貿易布教等を要求、謝絶されると宣教師フォカード及び中国人通訳を上陸残留させて出航してしまつた。困つた琉球政庁では在番奉行汾陽光明と協議してフォカードを真和志間切天久村聖現寺に居住させ、昼夜警戒を加えると共に藩庁に報告、藩では百二十余人の兵を派遣して万一に備えるという琉球外交事件の最中であつたことを指す。このため琉球では弘化二年の手札改めなど実施する余裕はなかつたということであらう。従つて琉球に関しては対比年度が異なるわけである。

以下に嘉永五年の手札改めによる藩内人口の推移を、文政九年のそれと比較して表示したが、ここではその表示は省略する。(芳即正)

目次

薩藩政要録四

三八	御家老組并御小姓組番頭小番新番御小姓組人体躰之事	三
三九	宗門手札御改人教給之事	三
四〇	前々移地頭在番被仰付置候郷并当時移地頭押等 被仰付置候郷之事	五
四一	御仮屋并御茶屋之事	二
四二	誓詞日之事	三
四三	御家老寄合日之事	四
四四	評定所式日之事	四
四五	犬追物稽古日之事	四
四六	御使式日之事	四
四七	表方支配諸御役座等之事	四
四八	御勝手方支配諸御役座等之事	五
四九	御側支配并若年寄大目附支配諸御役座等之事	五
五〇	御役被仰付次第之事	六
五一	御城代御家老御側詰若年寄大目附人番頭寺社奉行御勘定奉行 御小姓組番頭当番頭御側表御用人町奉行御側役迄御役料高并 御役料米被下候人之事	一六
五二	諸御役人御役料米被下様之事	一八
五三	諸御役座書役小役人持高依員教役料米并支度料銀等 不被下候事	一一
五四	先組之勲功且又其身依功代々御切米被下候人之事	一一
五五	御扶助米被下置候人之事	一一
五六	一世御養料被下置候人之事	一四
五七	諸御役分高員數之事	一五
五八	諸御役料米并御切米御扶持米其外御國中諸払銀米員數之事	一五
五九	琉球拝借銀之事	一五
六〇	御國菓種之事	一五
六一	諸士跡目并隱居家督嫡子成養子之儀定被置事	一六

六二	達貴間縁与之事	三五
六三	諸士了其半元服前髮取之事	三七
六四	諸人訴訟之事	三八
	薩藩政要録五	
六五	諸郷郡分地頭附并郷士人躰持高之事附琉球道之島道程之事	四一
	薩藩政要録六	
六六	鹿兒島中諸屋敷數之事	七三
六七	濃州勢州尾州川々御普請御手伝之事	七四
六八	兩御日附衆被差越候事	七四
六九	諸座附与力并足輕御口之者御小人御広敷附足輕御敷寄屋仕坊 主其外諸座附人數之事	七五
七〇	御牧數諸郷牛馬數并御馬追日執之事	七八
七一	御船數之事	七九
七二	浦數并浦人數之事	八二
七三	年々江戸御統米并江戸大坂行船數之事	八四
七四	金山之事并金山有所之事	八四
七五	銀山有所之事	八六
七六	銅山有所之事	八七
七七	錫山有所之事	八七
七八	鑛山有所之事	八八
七九	鉛有所之事	八八
八〇	水晶有所之事	八八
八一	硫磺并明礬有所之事	八八
八二	炭粉山餅山之事	八九
八三	甌島網方之事	八九
八四	母駄他国不出事	九〇
八五	他国不出品々之事	九〇
八六	御勝手方証文を以他国出品々之事	九〇
八七	他国出御利潤有之品々之事	九〇
八八	桜島并諸所垂蠟方御利潤銀員數之事	九二
八九	樟腦方御利潤銀之事	九二

要
用
集
四

「三十八」 御家老組并御小姓与番頭小番新番御小姓組
人跡之事

一番組人跡五百式拾八人

小組一番より拾一番迄拾一組

御小姓組番頭

伊勢 雅樂
高津 藤馬
新納 主税

二番組人跡五百三拾六人

小組一番より拾番迄拾組

御小姓組番頭

川上 式部
菱刈 空之介
比志島 静馬

三番組人跡六百五人

小組一番より拾番迄拾組

御小姓組番頭

宮之原 主計
喜入 壬生
鎌田 典膳

四番組人跡四百拾七人

小組一番より拾番迄拾組

御小姓組番頭

義岡 藏人
島津 要人
郷原 軒

五番組人跡四百七拾五人

小組一番より拾番迄拾組

御小姓組番頭

伊集院 亘
島津 隼人
川上 右近

六番組人跡五百式拾四人

小組一番より拾一番迄拾一組

御小姓組番頭

末川 久馬
高橋 縫殿
小松 相馬

新番人跡式百六拾六人

小番人跡八百四人

大番頭支配
大番頭支配

右小番・新番共二御小姓組番頭致支配來候得共、天明六年午十一月新番
八大番頭・小番八若年寄支配被仰付置候処、文化六年巳三月小番・新番
共二大番頭支配被召替候事

合士人跡四千四百拾九人

御家老組人跡九拾六人

但六組御小姓組番頭人数此列相除

島津 周防殿	島津 主殿
島津 兵庫殿	島津 右門
島津 讀岐殿	島津 勘解由
島津 安芸殿	島津 左膳
種子島 彈正殿	新納 四郎
島津 下総	樺山 主殿
島津 若狹	島津 豊前
川上 筑後	桂 太郎兵衛
島津 隼見	島津 郷十郎
島津 因書	島津 求馬
島津 豊後	喜入 多門

町田 監物
 島津 与十郎
 島津 内記
 北郷 作左衛門
 島津 矢柄
 大野 多宮
 吉利 仲
 島津 内藏
 伊集院 伊膳
 島津 石見
 額娃 織部
 入来院 平馬
 肝属 左門
 諏訪 数馬
 川田 将監
 島山 藤次郎
 鎌田 凶書
 市田 友鶴
 山岡 齊宮
 島津 靱負
 島津 相馬
 末川 近江
 島津 藏人
 川上 竜衛
 川上 矢五太夫
 島津 登
 新納 内藏
 樺山 伊織
 北郷 男吏
 北郷 哲五郎

桂 内記
 島津 仲
 新納 衛守
 町田 式部
 伊集院 隼衛
 山田 軔
 平田 靱負
 仁礼 小吉
 二階堂 源太夫
 二階堂 蔀
 名越 右膳
 北条 織部
 本田 信二郎
 相良 治部
 平田 正十郎
 堀 四郎左衛門
 小笠原 徹
 河野 八郎左衛門
 赤松 主水
 渋谷 左膳
 関山 紘
 岩下 佐次右衛門
 上野 司
 猪飼 鯉太郎
 稲富 数馬
 本田 六左衛門
 堀 殿衛
 高田 十郎右衛門
 伊木 七郎右衛門
 友野 市助

右 同 平田 直之進
 右 同 豎山 武兵衛
 右 御家老組人躰之儀、宝永五子年より御城代・御家老・若御年寄・大御目
 附其外一所持并一所持格・寄合・寄合并迄被召成、最前御家老組被召入置
 候諸士之儀ハ一番組・三番組・六番組被召成候、尤當時六組之組頭被仰付
 置候面々ハ其組々ニ而御触等有之候付而相除候、且又御家老組之儀前方
 ハ組頭兩人被仰付置候得共、宝永七寅正月より御家老中繰廻承之候事
 合士人躰式千九百式拾五人
 右組分之儀、寛永二十年之比始而被 仰出、組拾番外御家老組、寺社家諸
 座組拾六組有之、以上式拾六組ニ而其以後六組并御家老組ニ被召成、寺社
 家諸座組ニ而罷在候士ハ六組御家老組之内ニ被召入、其外之者諸座附ニ而
 被召置候、右最初組頭被仰付候人数左ニ記之

一 番 島津 安芸久雄
 新納 四郎久辰
 島津 市正忠広
 佐多 又四郎久孝
 桂 又十郎忠知
 吉利 下總忠張
 島津 左近久守
 樺山 又九郎久広
 町田 出羽忠尚
 種子島 左近忠時
 伊集院 源助久朝
 島津 美作久基
 伊集院右衛門久因
 川上 上野久速
 彌 七郎重永
 川上 将監久将
 鎌田 又七郎正勝
 入来院 伯耆重尚

十番

伊勢 兵部貞昭

島津 中務久茂

御家老組

島津 彈正久慶

島津 図書久通

〔三十九〕 宗門手札御改人数総之事

嘉永五子年改

合男女八拾三万八千五百五拾壹人

内八千五拾壹人

外男女五千三百五拾五人

男女七万六千九百拾貳人

内三千四百三拾五人

八拾人

内男四千四百八拾七人

男四千九百七拾貳人

女八千七百拾貳人

男六人

女九人

男壹人

女貳人

男貳百八拾五人

内六人

男女五万八千四百三拾八人

内男七千四百九拾七人

女六千七百八拾四人

男貳千壹人

女貳千三拾九人

男六拾壹人

薩隅日琉球諸島迄

巳年札改増

穢多慶賀行脚

鹿兒島

巳年札改増

手札御免

士人躰

人躰外士

士妻子

福昌寺役人

右同妻子

妙音寺地神盲僧

右家内

出家

手札御免

鹿兒島近在

右同

三町

右同

横井野町

女六拾八人

男四拾七人

女拾九人

男女三万九千九百貳拾貳人

外男女八拾六人

男女三拾七人

内貳人

内男四人

男六人

女九人

男壹人

女壹人

男貳人

女壹人

男女拾三人

男女八人

外貳人

内男壹人

男貳人

女貳人

男女三人

男女八拾六人

内四人

内男三人

男六人

女八人

男壹人

男女六拾八人

男女五百九拾四人

右同 荒田浜

右同

右同

諸士家来并足輕諸座附寺社門前

穢多慶賀

京都居附

巳年札改増

士人躰

人躰外士

右同妻子

右同

与力格

右同

諸座附

伏見居附御屋敷守

巳年札改増

士人躰

人躰外士

右同妻子

御屋敷守

大阪居附

巳年札改増

士人躰

人躰外士

右同妻子

郷士人躰

諸座附

江戸定府

外百貳拾八人

内男八拾三人

男百貳拾壹人

女百六拾六人

男女百貳拾四人

男女拾三人

内拾貳人

内男貳人

男貳人

女三人

男女六人

男女貳拾四万七千八百四人

外三百三拾九人

内男老万九百五拾人

男老万九千五百五拾貳人

女貳万七千四百四拾七人

男貳百六拾七人

男女拾九万貳百八拾八人

内男七万五千八百七拾五人

女七万六千九拾九人

男五百九拾五人

女五百五拾六人

男老万六千九拾三人

女老万五千四百九拾三人

男千五百七拾人

女千四百三拾四人

男女七千九百四拾人

男三拾三人

巳年札改減

士人躰

人躰外士

右同妻子

諸座附

長崎居附御小人

巳年札改増

郷士人躰

人躰外右同

右同妻子

御小人

薩州諸郷三拾八ヶ所并七島三島込ル

巳年札改減

郷士人躰

人躰外郷士

郷士妻子

出家

諸在

右同

苗代川

右同

浦浜

右同

野町

右同

郷士下人并足輕中間

諸座附寺社門前

赦免居附并遠島者

外男女貳千貳百九拾七人

男女拾老万八千貳百三拾六人

隅州諸郷三拾五ヶ所并屋久島

外貳千三拾八人

内男七千六百八拾七人

男九千六百三拾六人

女老万三千九百拾三人

男百六拾九人

男女八万六千八百三拾壹人

内男三万七千七百貳拾八人

女三万三千八百拾七人

男三千三百八拾四人

女貳千九百七拾五人

男千七百六拾七人

女千五百七拾三人

男四百貳拾七人

女四百拾壹人

男百壹人

男女四千四百八拾八人

男女三拾五人

男女三拾貳人

外男女千九拾八人

男女五万四千貳百五拾九人

日州諸郷拾九ヶ所

外六人

内男四千九百九拾七人

男四千八百八拾九人

女七千三百四拾人

穢多慶賀

巳年札改減

郷士人躰

人躰外郷士

郷士妻子

出家

諸在

右同

浦浜

右同

野町

右同

笠野原

右同

半浦

右同

郷士下人并足輕中間

諸座附寺社門前

公義流人

遠島人

穢多慶賀

巳年札改減

郷士人躰

人躰外郷士

郷士妻娘

男八拾四人	出家
男貳拾貳人	飯隈山
内老一人	手札御免
男三拾人	人跡外右同
女五拾貳人	右同妻娘
男女三万七千六百四拾五人	諸在
内男老万五千六百老一人	右同
女老万三千八百八拾六人	野町
男七百老一人	右同
女六百五拾九人	浦浜
男八百八拾六人	右同
女七百九拾七人	郷士下人并居住
男女五千百拾五人	社家門前
外男女七百三人	穢多慶賀
男女拾三万貳千六百六拾貳人	琉球
但弘化二已改之節仏朗人等致来著居依願	改方被召延置候付成改元人数二御座候
外五千六百八人	戌年札改減
内男三万百貳拾老一人	按司親方并士
女老万九千九百七拾人	右同士妻娘
男女拾人	社家
男八拾四人	寺院
男女八万貳千四百七拾七人	諸在
内男女六万七千八百貳拾老一人	家来下人其外末々
男女老万四千六百五拾六人	行脚
外男拾六人	大島
男女三万七千七百拾四人	巳年札改増
内貳千貳百八拾人	郷士格
内男五百貳拾五人	

女四百九拾貳人	右同妻娘
男女三万六千三百九拾九人	諸在
男女貳百九拾八人	遠島者
男女老万八百五拾貳人	喜界島
外千三百三拾九人	巳年札改増
内男五拾貳人	郷士格
女三拾六人	郷士格妻娘
男女老万六百拾九人	諸在
男女百四拾五人	遠島者
男女貳万九百六拾老一人	德之島
内貳千三百三拾九人	巳年札改増
内男百九拾三人	郷士格
女百三拾五人	右同妻娘
男女貳万四千百貳拾九人	諸在
男女貳百四人	遠島者
男女老万四千五百九拾八人	冲之永良部島并与論島
内千五百貳拾八人	巳年札改増
内男六拾六人	郷士格
女六拾七人	右同妻子
内男女老万四千三百三拾五人	諸在
男女六人	遠島者赦免居附并借島人
男百貳拾四人	遠島者
男女六万五千七百五拾八人	薩州 私領拾三ヶ所
内三百七拾五人	巳年札改増
内男四千四百貳拾七人	家来人跡
男七千九百三拾老一人	家来人跡外
女老万千五百三拾老一人	家来妻娘
男女百三拾貳人	社家
男七拾六人	出家
男女四万六千六百六拾老一人	

内男老万五千六百四拾式人

女老万四千六拾式人

男式千七百八拾七人

女式千四百式拾九人

男式百七拾六人

女式百八拾八人

男女五千七百七拾七人

外男女六百七拾人

入来院平馬私領

男女三千七百八拾六人

内男千百三拾式人

女千百五人

男六人

男女千五百四拾三人

内男六百三拾三人

女五百四拾八人

男六拾九人

女六拾五人

男女式百式拾八人

外男女拾人

喜入多門私領

男女九千四百八拾式人

内男千四百拾五人

女千四百八拾七人

男拾式人

男女六千五百六拾八人

内男式千百式拾七人

女式千九拾五人

男千八拾八人

百姓

右同

浦浜

右同

野町

右同

家中足輕并私領居
住寺社門前末々

穢多慶賀

入来

家来

家来妻娘

出家

百姓

右同

野町

右同

家中足輕以下末々

慶賀

鹿籠

家来

家来妻娘

出家

百姓

右同

浦人

女六百八拾壹人

男女五百七拾七人

外男女八拾六人

島津右門私領

男女老万式千六拾五人

内男千九百七拾人

女千八百八拾式人

男拾四人

男女八千九百九拾九人

内男三千式百八拾式人

女三千四拾人

男七百六拾五人

女八百三拾九人

男拾三人

女式拾壹人

男女式百三拾九人

外男女式拾式人

島津主殿私領

男女三千七百三拾六人

内男千八拾八人

女九百五拾六人

男八人

男三人

男女千六百八拾壹人

内男五百八拾六人

女三百四拾八人

男拾四人

女六人

男女七百式拾七人

外男女式拾人

右同

家中足輕以下末々

穢多

知覽

家来

家来妻娘

出家

百姓

右同

浦浜

右同

野町

右同

家中足輕以下末々

慶賀

永吉

家来

家来妻娘

出家

社家

百姓

右同

浜人

右同

家中足輕以下末々

慶賀

北郷作左衛門私領

男女三千九百六拾七人

内男千五百七拾三人

女千四百四拾壹人

男五人

男女九百四拾八人

内男百五拾八人

女百七拾九人

男貳百貳拾五人

女貳百三拾貳人

男女百五拾四人

外男女拾七人

島津豊後私領

男女千八百八拾六人

内男三百九拾五人

女三百貳拾六人

男女貳拾七人

男三人

男女四百三拾五人

内男百九拾人

女百六拾貳人

男女八拾三人

島津下総私領

男女五千百三拾貳人

内男六百八拾六人

女六百七拾七人

男四人

男女貳拾七人

男女三千七百三拾八人

内男千三百九拾人

平佐

家来

家来妻娘

出家

百姓

右同

浦町

右同

家中足輕以下末々

慶賀

黒木

家来

家来妻娘

出家

社家

右同

百姓

家中足輕以下末々

右同

家中足輕以下末々

日置

家来

家来妻娘

出家

社家

百姓

家中足輕以下末々

右同

女千貳百八拾七人

男三百貳拾人

女貳百七拾九人

男女四百六拾貳人

外男女百三拾四人

肝付左門私領

男女七千六百六拾貳人

内男八百九拾八人

女八百貳拾貳人

男女拾四人

男八人

男女五千四百貳拾人

内男貳千三百貳拾人

女貳千三百貳拾人

男百拾三人

女百拾四人

男女五百五拾貳人

外男女拾五人

小松相馬私領

男女貳千九百貳拾四人

内男四百九拾三人

女四百五拾貳人

男壹人

男女千九百七拾八人

内男八百八拾三人

女七百五拾貳人

男四人

女四人

男女三百三拾五人

島津図書私領

右同

浦浜

右同

家中足輕以下末々

穢多慶賀

喜入

家来

家来妻娘

社家

出家

百姓

右同

浦浜

右同

家中足輕以下末々

慶賀穢多

吉利

家来

家来妻娘

出家

百姓

右同

浜人

右同

家中足輕以下末々

右同

家中足輕以下末々

右同

家中足輕以下末々

男女八千三百五拾七人
 内男千貳百五拾三人
 女千百六拾貳人
 男女五拾三人
 男八人
 男女五千八百拾壹人
 内男千七百九拾六人
 女千六百貳拾八人
 男百五拾八人
 女百六拾人
 男女貳千百三拾九人
 外男女三百五拾人
 島津勘解由私領
 男女千六百六拾五人
 内男三百四拾八人
 女貳百九拾五人
 男女八人
 男壹人
 男女千拾三人
 内男五百拾九人
 女四百四拾五人
 男女四拾九人
 榊山主殿私領
 男女千四百五拾九人
 内男五百九拾七人
 女四百八拾六人
 男壹人
 男女三百七拾五人
 内男百六拾四人
 女百四拾四人

宮之城
 家来
 家来妻娘
 寺社家
 出家
 百姓
 右同
 野町
 右同
 家中足輕以下末々
 穢多慶賀
 佐志
 家来
 家来妻娘
 出家
 杜家
 百姓
 右同
 家中足輕以下末々
 蘭牟田
 家来
 家来妻娘
 出家
 百姓
 右同

男女六拾七人
 高津安芸殿私領
 男女四千八百三拾七人
 内男五百拾人
 女四百四拾人
 男五人
 男女三千八百八拾貳人
 内男千五百九拾三人
 女千五百拾四人
 男三拾六人
 女四拾貳人
 男貳百五拾八人
 女貳百七拾四人
 男女百六拾五人
 外男女拾六人
 隅州
 男女三万七千五百八拾壹人
 内貳百貳拾三人
 内男三千四百貳拾貳人
 男四千百八拾九人
 女六千三百八拾五人
 男四拾貳人
 男七拾五人
 男女貳万三千四百六拾八人
 内男六千三百三拾六人
 女四千八百貳拾五人
 男貳千七百拾七人
 女貳千八拾九人
 男八拾五人
 女六拾八人
 家中足輕以下末々
 今和泉
 家来
 家来妻娘
 出家
 百姓
 右同
 野町
 右同
 浦浜
 右同
 野町
 右同
 私領七ヶ所
 巳年札改増
 家来人躰
 家来人躰外
 家来妻娘
 杜家
 出家

男三百拾九人	塩屋
女貳百拾貳人	右同
男女六千七百五拾壹人	家中足輕并中宿寺門前末々
男六拾六人	公義流人
外男女百九拾六人	穢多慶賀
島津兵庫殿私領	
男女八千拾八人	加治木
内男千七百六拾七人	家来
女千三百九拾三人	家来妻娘
男女九人	社家
男拾五人	出家
男女四千八百三拾四人	百姓
内男千三百拾九人	右同
女千八拾五人	浦浜
男九百八拾九人	右同
女八百四拾九人	家中足輕以下末々
男女五百九拾貳人	穢多慶賀
外男女九拾九人	
島津石見私領	
男女千三百貳拾人	市成
内男三百八拾八人	家来
女三百五拾五人	家来妻娘
男女三拾三人	社家
男女五百四拾四人	百姓
内男貳百三拾貳人	右同
女貳百九拾九人	家中足輕以下末々
男女百拾三人	穢多
外男壹人	
島津要人私領	
男女千四百九拾九人	新城

内男三百七拾三人	家来
女三百貳拾八人	家来妻娘
男壹人	出家
男女七百九拾七人	百姓
内男貳百八拾九人	右同
女貳百六拾五人	浜人
男百三人	右同
女七拾五人	右同
男女六拾五人	家中足輕以下末々
島津讚岐殿私領	
男女七千貳百六拾八人	垂水
内男千五百七拾三人	家来
女千貳百六拾八人	家来妻娘
男拾三人	出家
男女四千四百拾四人	百姓
内男千貳百六拾九人	右同
女八百七拾壹人	浦浜
男四百拾三人	右同
女貳百五拾九人	家中足輕以下末々
男女千六百貳人	穢多慶賀
外男女八拾人	
種子島彈正殿私領	
男女壹万三千九百三拾貳人	種子島
内男貳千四百五拾人	家来
女貳千百五拾三人	家来妻娘
男三拾九人	出家
男女九千貳百九拾人	百姓
内男千九百六拾六人	右同
女千三百九拾五人	右同
男三百拾九人	塩屋

女貳百拾貳人
 男六百六拾八人
 女四百八拾貳人
 男四拾三人
 女貳拾六人
 男女四千百拾三人
 男女六拾六人
 島津周防殿私領
 男女三千七拾五人
 內男六百八拾七人
 女五百四拾九人
 男三人
 男女千八百三拾六人
 內男五百拾八人
 女三百九拾人
 男四百五拾七人
 女三百六拾人
 男女百拾壹人
 外男女拾六人
 島津若狹私領
 男女貳千四百六拾九人
 內男三百七拾三人
 女三百三拾九人
 男四人
 男女千七百五拾三人
 內男七百四拾三人
 女六百貳拾人
 男四拾貳人
 女四拾貳人
 男八拾七人

右同
 浦人
 右同
 野町
 右同
 家中足輕以下末々
 公義流人
 重富
 家來
 家來
 家來妻娘
 出家
 百姓
 右同
 浦人
 右同
 家中足輕以下末々
 穢多
 花岡
 家來
 家來妻娘
 出家
 百姓
 右同
 野町
 右同
 浜人

女六拾四人
 男女百五拾五人
 日州私領壹ヶ所
 島津豊前私領
 男女壹万九千四百七拾六人
 內四百七拾人
 內男貳千四百三拾七人
 男貳千七百拾八人
 女四千五百七拾貳人
 男女拾五人
 男貳拾九人
 男女九千七百五人
 內男貳千三百三拾三人
 女貳千三百六拾九人
 男七百九拾人
 女七百七拾人
 男女貳千六百四拾三人
 外男女貳百八拾九人
 右同
 家中足輕以下末々
 穢多慶賀
 右同
 家中足輕以下末々
 〔四十〕 前々移地頭在番被仰付置候並當時移地頭押等
 被仰付置候郷之事
 小林 一 須木 一 飯野
 加久藤 一 諸原郡 一 吉田 一 勝岡
 高尾野 一 阿久根 一 山之口
 高江 一
 但前々ハ久見崎御船奉行壹人御切米百俵被下被召移置候、當時ハ御船奉

行之勤方迄ニ而御当地より繰廻被遣候

右諸所前方移地頭被仰付候得共、当時ハ被召止候、御引取相成候年簡相糺候得共、不相知候

一 大口 地頭代々人御役料高百石被下被差置候

一 出水 右同断

一 高岡 右同断

元文元辰年より 押寄人横目兼役ニ而被遣、主従三人御扶持米被下候

右同 穆佐 右同断

右同 山之口 右同断

一 綾 右同断

一 隈之城 隈之城押寄人、向田御仮屋守兼役、役料米九石被下被差置候

一 梶山 在番被相止、島津筑後江御預被仰付置候得共、明和二酉八

月中馬源太夫江在番被仰付、御役料高六拾石被下置候得共、

明和七寅閏六月引取被仰付、又ニ御預被仰付候

移地頭當時被仰付置候郷

一 長島 移地頭寄人、御役料高百石、附役寄人、役料米九石被下被

一 甕島 右同断

右式ケ所移地頭御役料高 光久公御家督始比より式百石ツ、被下置候処

其以後百五拾石ツ、被下、当時ハ右之通被下候

〔四十二〕 御仮屋並 御茶屋之事

一 横井 伊集院之内 苗代川

市来 湊

延享元年焼失以後地頭飯屋取繕 御上下之節相済居、安永四未五月御座之間、御造次有之候処、天明六年午閏十月別段御仮屋御造立ニ而右御座之間、御造次之場所ハ御取除相成候

隈之城内 高城郡高城之内

一 向田 一 西方 一 阿久根

出水 一 麓 一 横山 一 田布施

右之外御造立又ハ御解除相成候御仮屋

一 潮ヶ水 寛政三亥年御造立

指宿之内 一 永井 寛政九巳年御造立有之候処、天保二卯年御取除相成候

山川之内 一 尻ヶ水 一 加久藤 一 串良

右三ヶ所御仮屋享和元酉年御解除相成候

一 有村 安永八年亥十月燃之節焼失

御茶屋

一 尾畔 一 磯 一 築地

一 米之津 一 武五本松 天保四巳年御取除相成候

一 郡山東俣御支度所 寛政四子年御造立

一 中村 寛政七卯年御造立有之候処、弘化二年巳十一月御解除、水上御茶屋江御引直相成候

一 錦崎 文政三辰年右同断有之候処、弘化四年未五月御解除、指宿二月田御末廻江御引直相成候

右文政三辰年御造立ニ而唐湊御茶屋と被抑渡置候処、天保九戌年御栖居

替御作添等有之右之通唱被相替候

指宿之内

一 二月田 天保二卯年御造立

一 玉里 天保五年御造立

一 花倉 弘化二巳年御造立

合拾八ヶ所

「四十二」 誓詞日之事

- 一 誓詞日ハ細不及吟味 公義并御手前之御精進日外ハ何日ニ而も誓詞可申付旨、宝永八年卯二月被 仰出候、且又此以前ハ式日被定置候得共 當時ハ右之通候事
- 但一 六月十八日ハ 忠久公御正忌日ニ付誓詞不被仰付候
- 一 二月廿三日ハ 琴月様御正忌日付誓詞不被仰付候
- 一 御先祖様御忌日又は御正忌日ニ誓詞被仰付間數旨、以前より段々被仰 渡置候も有之候得共、向後毎月十七日計り誓詞不被仰付、其外ハ都而 御精進日ニも誓詞被仰付候旨、寛保三亥十二月被仰渡候事

〔朱〕
「四十三」 御家老寄合日之事

- 一 二日 十六日 廿三日

〔朱〕
「四十四」 評定所式日之事

- 一 三日 九日 十四日
 - 一 廿二日 廿七日
 - 一 六月 廿一日
- 毎月

右評定所当分吟味日之外、以来右之通式日相定、御家老一同退出より 直ニ可相越候、右付大目附を初、掛人数等ハ平日式日之節之通出席吟 味可有之旨、天明七年未七月被仰渡候事

「四十五」 犬追物稽古日之事

- 一 四日 八日 十一日 十八日
 - 一 廿一日 廿六日
- 此以前ハ右之通稽古日被定置候処、其以後稽古日と申儀無御座候 右之通有之候処、当分ハ左之通稽古日被相定候
- 一 犬追物稽古日
 - 一 二日 五日 九日 十三日
 - 一 十七日 廿一日 廿五日
 - 一 犬追物射形稽古日
 - 一 二日 六日 十二日 十六日
 - 一 廿二日 廿六日
- 右之通寛延元年辰十一月被仰付候事
- 一 犬追物稽古日
 - 一 二日 六日 十一日 十六日
 - 一 廿一日 廿六日 廿九日
 - 一 犬追物射形稽古日
 - 一 三日 七日 十三日 十七日
 - 一 廿三日 廿七日
- 右之通安永四年未八月被仰付候事

「四十六」 御使式日之事

- 一 毎月 御国許より江戸五十日御使、廿四日飛脚江戸より 右ハ江戸御国許共 御国許九日御使廿三日飛脚
- 毎月兩度ツ、被差立来候得共、向後式日被相替、右之通被仰付候、飛脚 之儀ハ御用無之節ハ不被差立候、可成程江戸御国許共御使一度ニ而急 成御用之節ハ右外ニも飛脚可被差立候、左候而御使被仰付候節、飛脚

八一所ニ不申渡、式日差掛御用之程見合、時々可申渡旨、安永三年午六月被仰渡候事

式日御使一度ツ、被仰付置候得共、御子様方互之御左右も御間遠、第一御用之支ニも相成候付、一往一ヶ月ニ二度、一度ツ、隔月ニ被仰付候旨、安永四年末六月被仰渡置候処、御差支之儀有之、以前之通一ヶ月兩度ツ、被差立候旨、寛政十年午七月被仰渡置候得共、一往被相止、右式日通兩度ツ、飛脚被差立候旨、享和元年酉五月被仰渡、同七月每月一度廿九日被差立候段、被仰渡候、然処文化十二年亥六月毎月一度十九日被差立候旨、被仰渡置候処、文政四年巳七月毎月廿九日被差立候旨被仰渡候

「四十七」 表方支配諸御役座等之事

- 大身分触役所
- 大番頭座
- 当番頭詰所
- 御用人座
- 江戸京大坂御留守居
- 御使番役所
- 道奉行所
- 御裁許方
- 宗門改役所
- 長島移地頭
- 琉球在番
- 大目附座
- 寺社奉行所
- 六組触役所
- 町奉行所
- 御兵具所
- 長崎御附人
- 御目附役所
- 御祈念方
- 異国船掛
- 飢島移地頭

「四十八」 御勝手方支配諸御役座等之事

- 御勘定所
- 御作事方
- 物奉行所
- 郡方
- 御細工所
- 御代官所
- 御器屋
- 喜界島代官
- 沖永良部島代官
- 御船手
- 高奉行所
- 山奉行所
- 金山方
- 屋久島方
- 御台所
- 徳之島代官
- 大島代官

「四十九」 御側支配并若年寄大目附支配諸御役座等之事

- 御側御用人座
- 御納戸
- 造士館
- 御供目附
- 御鳥見役所
- 御庭方
- 御側廻
- 明時館
- 若年寄支配
- 誓詞方
- 月番廻
- 御庭方
- 御能方
- 御用部屋
- 御広敷
- 御記録所
- 御右筆
- 御栗園方
- 尾畔方
- 御鳥方
- 御近習通

御葉園方
御数寄屋方

島津右門

御島方

御麿方

御鷹方

屋畔方

島津求馬

大目附支配

公義御用人數改方

川上矢五太夫

「五十」 御役被 仰付次第之事

御城代 御家老
御側詰 若年寄

右御役被 仰付候節ハ 御直

大目附 大目附格

大番頭 寺社奉行

御勘定奉行 御小姓組番頭

当番頭 御側御用人

表御用人 町奉行

御側役 江戸御留守居

京大坂御留守居 御納戸奉行

物頭 御船奉行

御使番 御小納戸頭取

御広敷御用人 教授

御右筆頭

右御役被 仰付候節ハ御家老より直申渡候

「五十二」 御城代御家老若年寄大目附大番頭寺社奉行御勘

定奉行御小姓組番頭当番頭御側表御用人町奉行

御側役迄御役料高并御役料米被下候人之事

高式千石 御家老御役分地

島津下野守久元・同図書頭久通前々御借銀過分相増候節千石ツ、兩
度差上置、久竹・久供御家老職相勤候節も不致拜領候事

種子島藏人久時御役分地ハ不被下、御心付為御役料米千式百俵、元
禄八支年より被下置候、彈正伊時事引次御家老職被仰付候得共、御
役料ハ不被下候事

北郷作左衛門久嘉家御家老職相勤候節ハ佐渡惣次郎二代御役料高千
石ツ、被下置候、作左衛門事御役料不被下候事

高千石 御旅御家老御役分地

島津中務久茂御旅御家老初より式千石ツ、被下置候事

高千五百石 島津豊後

高千石 川上筑後

高千石 島津石見

高千石 末川近江

右御家老為御役料高被下置候事

但喜入多門^五ハ御役料高不被下候事

高六百石 樺山伊織

高三百石 島津求馬

右若年寄為御役料高被下置候事

但島津右門^五ハ御役料高不被下候事

高式百石 鎌田 図書

高三百石 川上 矢五太夫

高百八拾石 島津 隼見

高百四拾石	御勘定奉行勤	町田 監物
高百八拾石	御側役勤	新納 内蔵
高百八拾石	右大番頭為御役料高被下置候事	吉利 仲
高百四拾石		島津 藏人
高百八拾石		川上 竜衛
高百八拾石		島津 靱負
高百八拾石	右寺社奉行為御役料高被下置候事	北郷 男吏
高百八拾石		本田 六左衛門
高百八拾石		穎娃 織部
高百八拾石	御勘定奉行格御側御用人勤	平田 直之進
高百八拾石	御趣法掛	
高百八拾石	右御勘定奉行為御役料高被下置候事	
高百八拾石		島津 相馬
高百八拾石	御小姓組番頭御軍役方惣頭	川上 式部
高百八拾石	取兼務	
高百八拾石		川上 式部
高百八拾石		伊集院 巨
高百八拾石	御小姓組番頭表御用人兼務	島津 登
高百八拾石	御小姓組番頭表御用人兼務	宮之原 主計
高百八拾石		菱刈 空之介
高百八拾石		郷原 軫
高百八拾石	御小姓組番頭表御用人兼務	高橋 縫殿
高百八拾石	御役料米貳百俵	新納 主税
同	貳百俵	喜入 壬生
同	御小姓組番頭御用人兼務	島津 隼人
同	御小姓組番頭御用人兼務	島津 隼人
同	御小姓組番頭御用人兼務	島津 藤馬
同	御小姓組番頭御用人兼務	末川 久馬
同	御小姓組番頭御用人兼務	川上 右近

高百四拾石		島津 左膳
高百四拾石		伊集院 隼衛
高百四拾石		仁礼 小吉
高百四拾石		嶋田 九十九
高百四拾石		大野 多宮
高百四拾石		平田 靱負
高百四拾石		比志島 静馬
高百四拾石		島津 内記
高百四拾石		赤松 主水
高百四拾石		町田 式部
高百四拾石		島山 藤次郎
高百四拾石		諏訪 数馬
高百四拾石		桂 太郎兵衛
高百八拾石		関山 織部
高百八拾石		北條 織部
高百八拾石		平田 正十郎
高百八拾石		川田 将監
高百八拾石		嶋津 健
高百八拾石		倉山 作太夫
高百八拾石	当番頭表御用人勤	小笠原 轍
高百八拾石	当番頭表御用人勤	井上 逸作
高百八拾石	御趣法掛	
高百八拾石	当番頭御側御用人勤	高田十郎右衛門
高百四拾石	当番頭御側御用人勤	猪飼 鍊太郎
高百八拾石	当番頭御側御用人勤	伊木七郎右衛門
高六拾四石	当番頭御勝手方掛御用人勤	二階堂 源太夫
高百八拾石	当番御側御用人勤	豎山 武兵衛
高百八拾石	当番頭神職御側御用人勤	本田 加賀守
高百八拾石	当番頭御側役兼務御趣法掛	友野 市助
高百八拾石	当番頭格神職勤	井上 駿河守

御役料米貳百俵	樺山 權十郎
御役料米貳百俵	町田 四書
御役料米貳百俵	吉利 右平太
右御小姓組番頭・当番頭御役料高并為御役料米被下置候事 但義岡藏人・嶋津要人・伊勢雅樂・鎌田空之丞・島津勘解由 北郷哲五郎・小松相馬・肝付左門 <small>江</small> 八御役料高不被下候事	
高百四拾石	森川 利右衛門
高百四拾石	山口 直記
高百四拾石	名越 彦太夫
高百四拾石	東郷 左太夫
高百四拾石	早川 男破魔
高百四拾石	猿渡 牧太
高百四拾石	奥 四郎
御側御用人格江戸御留守居勤 長崎御附人 <small>江</small> 一往掛	半田 嘉藤次
御役料米千五百俵	
右御側御用人并御側御用人格御役料高并為御役料米、被下置候事 但種子島加治右衛門 <small>江</small> 者御役料高不被下候事	
高百四拾石	伊集院善左衛門
高百四拾石	谷川 次郎兵衛
高九拾石	肥後 八右衛門
右御勝手方掛御用人為御役料高、被下置候事	
高九拾石	和田 助太夫
高九拾石	田原藤太左衛門
高九拾石	蒲生 郷右衛門
右町奉行為御役料高被下置候事 但汾陽次郎右衛門・坂本休左衛門 <small>江</small> 者御役料高不被下候事	
高九拾石	有馬 舍人
高九拾石	得能 彦左衛門
高九拾石	岡田 小藤次
御側役格御広敷御用人勤	

右御側役并御側役格為御役料高、被下置候事
但三原藤五郎・山口右源太江者御役料高不被下候事

〔五十二〕 諸御役人御役料被下様之事

御役被仰付候節御役料可被下儀ハ御用人・町奉行御側ニ而之御役相勤候者ハ伺可申候、其外之諸役人・御小姓坏ハ例を以伺ニ不及、可申付旨、宝永二年西九月被 仰出候事

大番頭 寺社奉行 御勘定奉行 御小姓組番頭当番頭

右御役料不被下候得共、小身ニ而難統、御役料被下事ニ有之候ハ、高三百石敷、貳百石敷之間、依人御見合次第可被下旨、被定置候得共、其後貳百石宛ニ被相定置候事

但右之通被定置候得共、新役よりハ御役料高百八拾石被下、依人ハ本行之通貳百石被下候

御側 御用人 表

右持高五百石以下貳百五拾石以上ハ御役料高百石、持高貳百五拾石以下御役料高百五拾石被定置候事

但右之通被定置候得共、新役よりハ持高五百石以下貳百五拾石以上

ニ而候ハ、御役料高九拾石被下、依人ハ本行之通百石被下、且又持高貳百五拾石以下ハ御役料高百四拾石被下、依人ハ本行之通被下候

町奉行 御側役

右百五拾石以下御役料高百石

但右之通被定置候得共、新役よりハ御役料高九拾石被下、依人ハ本行之通百石被下候

江戸御留守居

右一詰分御役料米千百三拾六俵、妻子養料米七拾五俵被下候

京大坂御留守居

右一詰分御心附銀七貫九百五拾目、妻子養料米七拾五俵被下候

御軍役奉行

右百石以下御役料米七拾三俵被下候

御納戸奉行

物頭

右百石以下御役料米七拾五俵

但右之通被定置候得共、新役よりハ御役料米七拾三俵被下、依人ハ

本行之通七拾五俵被下候

御船奉行 御使番 御小納戸頭取 御広敷御用人

右百石以下御役料米五拾俵

但右之通被定置候得共、新役よりハ御役料米四拾八俵被下、依人ハ

本行之通五拾俵被下候

教授

右御役料米貳拾石被下候

御右筆頭

右百石以下御役料米五拾八俵被下候

御作事奉行

右五拾石以下御役料銀七枚被下、筋被定置候

但右之通被定置候得共、新役よりハ御役料銀六枚三拾目被下、依人ハ

本行之通七枚被下候

御記録奉行

右百石以下御役料米六拾五俵

但右之通被定置候得共、新役よりハ御役料米六拾三俵被下、依人ハ

本行之通六拾五俵被下候

長崎御附人

右御当地ニ而御役料米七拾五俵、長崎詰之節ハ御賦飯米之外為御役料

銀、壹貫六百目被下候

長崎御附人格

右御役料米拾壹石六斗被下候

高奉行 物奉行 道奉行 御馬預

右五拾石以下御役料銀七枚

但右之通被定置候得共、新役よりハ御役料銀六枚三拾目被下、依人ハ

本行之通七枚被下候

御小姓頭取

御側目附

右百石以下御役料米四拾八俵被下候

御小納戸

右百石以下御役料米五拾俵

但右之通被定置候得共、新役よりハ御役料米四拾八俵被下、依人ハ

本行之通五拾俵被下候

御供目附

右百石以下御役料米五拾俵

但右之通被定置候得共、新役よりハ御役料米四拾八俵被下、依人ハ

本行之通五拾俵被下候

御目附

右五拾石以下御役料銀七枚

但右之通被定置候得共、新役よりハ御役料銀六枚三拾目被下、依人ハ

本行之通七枚被下候

御軍賦役

右百石以下御役料米三拾五俵被下候

御裁許掛

右百石以下御役料米六拾俵

但右之通被定置候得共、新役よりハ御役料米五拾八俵被下、依人ハ

本行之通六拾俵被下候

御右筆

右百石以下御役料米五拾俵

但右之通被定置候得共、新役よりハ御役料米四拾八俵被下、依人ハ

本行之通五拾俵被下候

御右筆格

右御役料米九石六斗被下候

御広敷番之頭

右百石以下御役料米四拾五俵

但右之通被定置候得共、新役よりハ御役料米四拾三俵被下、依人ハ

本行之通四拾五俵被下候

山奉行

郡奉行

右五拾石以下御役料銀貳枚

但新役江も本行之通貳枚被下候

金山奉行

右五拾石以下御役料銀三枚被下候

御細工奉行

右五拾石以下御役料銀四枚

但右之通被定置候得共、新役よりハ御役料銀三枚三拾目被下、依人

ハ本行之通四枚被下候

屋久島奉行

右五拾石以下御役料銀三枚被下候

但新役江も本行之通三枚被下候

宗門改

右五拾石以下御役料銀三枚被下候

但書同断

右御役料米七石被下候

御鳥見頭

右五拾石以下之人江被仰付候ハ、本役同前可被下置哉、其節御吟味次第被下等候

御鷹匠頭

右御役料米七石被下候

右御役料米拾四石被下候

御同朋頭

御隱居御附

右御役料米五拾俵御役料銀三枚三拾貳匁被下候

御記録方添役

右百石以下御役料米三拾五俵被下候

御作事奉行見習

物奉行見習

右御役料銀五枚三拾目被下候

御馬預見習

右御役料米貳拾七俵被下候

唐船改

寺社方取次

御勘定方小頭

右五拾石以下御役料銀六枚

但右之通被定置候得共、新役よりハ御役料銀五枚三拾目被下、依人

ハ本行之通六枚被下候

御栗園奉行

右御役料米三拾俵被下候

御庭奉行

右御役料米貳拾七俵被下候

尾畔奉行

右御役料米五拾俵被下候

御鳥預頭取

右御役料米三拾五俵被下候

御膳所頭

右御役料米五拾八俵被下候

御代官

右五拾石以下御役料銀六枚

但右之通被定置候得共、新役よりハ御役料銀五枚三拾目被下、依人

ハ本行之通六枚被下候

御台所頭

御春屋役

右五拾石以下御役料米六拾五俵

但右之通被定置候得共、新役よりハ御役料米六拾三俵被下、依人ハ本行之通六拾五俵被下候

御裁許掛見習

右御役料米貳拾九俵被下候

山奉行見習

郡奉行見習

右御役料米銀壹枚半被下候

御敷寄屋頭

右五拾石以下御役料米五拾俵

但右之通被定置候得共、新役よりハ御役料米四拾八俵被下、依人ハ本行之通五拾俵被下候

奥御同朋

右五拾石以下御役料米四拾五俵、支度料銀三枚三拾貳匁

表御同朋

右御役料米四拾五俵

但持高五拾石以下御役料米本行之通被下候訳、御規模ハ相見得不申候

御記録奉行見習

右御役料米五石被下候

御右筆見習

右御役料米六石八斗被下候

助 教

右御役料米拾五石被下候

助 教 格

右御役料米八石被下候

学校目付

右御役料米七石被下候

御曆者

右御役料米八石被下候

御鷹匠頭見習

右御役料米貳拾七俵被下候

諸御役人部屋栖ハ此以後御役被仰付候節、時々伺候而以其例可相極候
右付宝永八年卯正月被 仰出置候処、其以後御役名等相替候も有之
候付、享保二年被相改、其以來又々為相替儀も有之、右之通書改候
事

〔五十三〕 諸御役座書役小役人持高依員數役料米并支度料

銀等不被下候事

一 諸役座筆者・小役人之内、持高五拾石以上之者ハ役料米并支度料銀
等被下間敷候、部屋栖ニ而も親持高百石以上ニ而候ハ、役料米被下間
敷候、只今迄被下置候者ハ此内之通被下之、自今以後相勤候者ハ右
之通不被下等候由、正徳二年辰七月被仰渡候
一 高百石以上之家督之人、貳百石以上之部屋栖之人ハ支度料銀御扶持
米不被下候
一 但高五百石以下三百石以上之部屋栖、親御奉公相勤候ハ、支度料銀
三枚三拾貳匁被下候

一 高三百石以下貳百石以上之部屋栖、親御奉公相勤候ハ、支度料銀三枚
三拾貳匁并御扶持米被下候

一 高貳百石以下百石以上之部屋栖ハ支度料銀、三枚三拾貳匁可被下候
但親御奉公相勤候ハ、部屋栖ハ支度料銀、御扶持米共被下候
一 高百石以下五拾石以上家督之人ハ支度料銀三枚三拾貳匁被下候
一 高百石以下五拾石以上部屋栖ハ支度料銀三枚三拾貳匁御扶持米被下
候

「本文高百石以下五拾石以上之部屋栖之人親御奉公有無無構、支度料銀御扶持米被下候御規模ニ而候」
 高五拾石以下家督部屋栖共支度料銀三枚三拾式勾御扶持米共被下候
 右之通享保十三年申十二月御規模帳を以被仰渡置候

「五十四」先祖之勲功且又其身依功代ニ御切米被下候人之事

御切米五拾俵	川上 左太夫
御切米六拾俵	有馬 岩熊
御切米六拾俵	新納 四郎兵衛
御切米四拾俵	蘭田 新右衛門
御切米拾八俵	野崎 丑之助
御切米貳拾五俵	中村 与右衛門
御切米四拾五俵	入田 次右衛門
御切米百五拾俵	奥山 八左衛門
御切米九拾俵	川内 織右衛門
御切米貳百五拾俵	石原 加右衛門
御切米拾五俵	宮之原 強八
御切米拾五俵	救仁郷等党院
御切米百九拾五俵	伊勢 十兵衛
御切米四拾俵	富山伝内左衛門
御切米三拾俵	穆佐郷士 柚木崎平右衛門
御切米五拾俵	高岡郷士 入田七郎右衛門
御切米貳拾五俵	植木 甚左衛門
御切米百俵	伊佐岡伊右衛門
御切米四拾俵	志布志 即心院

御切米五拾俵
 御切米三拾七俵
 御切米四拾俵

高岡本永寺
 國分本立寺
 遠壽寺

「五十五」御扶持米被下置候人之事

御扶持米百貳拾五俵	吉利 主馬
御扶持米七拾五俵	山田 吉之進
御扶持米貳拾五俵	星野賀 七郎
御切米六拾五俵	羽田 宗之進
御扶持米百五拾俵	東郷 藤兵衛
御扶持米百五拾俵	連 長院
御扶持米三拾五俵	野田之内 寺
御扶持米貳拾俵	入江 十郎太
御扶持米百貳拾五俵	龜山 勇
御扶持米百五拾俵	本田 久米
御扶持米貳拾七俵	新納 源左衛門
御扶持米貳拾俵	加藤 権兵衛
御扶持米貳拾俵	高田 猛八郎
御切米七拾五俵	東郷 左七郎
御扶持米貳拾五俵	山口 直次郎
御扶持米貳拾俵	田中太郎左衛門
御扶持米貳拾俵	東次郎左衛門
御切米五拾俵	鈴木 弥藤次
御切米貳拾俵	木上 矢太郎
御切米貳拾俵	海老原 庄藏
御切米百貳拾五俵	井上 駿河守
御切米貳拾俵	蘭田 但馬輔

御切米貳拾俵	有屋田 美作輔
御切米貳拾俵	湊川 源左衛門
御扶持米三拾五俵	白尾 金左衛門
御扶持米三拾五俵	平田 平六
御切米五拾俵	林 小十郎
御切米五拾俵	佐野 善次郎
御切米百俵	本田 加賀守
御切米三拾俵	松村 乾
堪忍料米三拾俵	柳元 十藏
御扶持米貳拾俵	伊集院半五右衛門
堪忍料米三拾俵	安藤 清右衛門
御切米拾八俵	西 小十郎
御切米拾八俵	坂口 源七兵衛
御切米拾八俵	山元 彦右衛門
御扶持米貳拾俵	篠崎七郎左衛門
御切米七拾五俵	町田 左平次
御切米貳拾七俵	堀 殿衛
堪忍料米拾八俵	江川 小仲太
御切米拾八俵	矢野 休次
御切米貳拾俵	児玉源五右衛門
堪忍料米五拾俵	小山田 真藏
御切米三拾五俵	朝倉 佳藤次跡
御切米貳百五拾俵	早川 男破魔
御切米拾八俵	松 脇 弥兵衛
御切米拾八俵	小牟田十左衛門
御切米百七拾五俵	瀧 聞 今 太
御扶持米貳拾俵	鈴木 定 熊
御扶持米貳拾俵	田代 宗次郎
御扶持米貳拾俵	有川 彦左衛門

堪忍料米三拾俵	桜井 半藏
堪忍料米貳拾俵	伴 準左衛門
堪忍料米貳拾五俵	田中 要助
御扶持米貳拾俵	田中 清右衛門
御切米七拾五俵	高橋 甚五兵衛
御切米三拾五俵	伴 斧二
堪忍料米三拾俵	大橋 三次太郎
御切米貳拾俵	満喜 勇助
堪忍料米貳拾俵	小出 恭純
堪忍料米五拾俵	伊木七郎右衛門
御切米九拾俵	小幡 甚太夫
御切米九拾俵	税所 七之丞
御切米百俵	池田 市次郎
御切米九拾俵	片岡 喜藤太
御切米九拾俵	三島 弥五郎
御切米三拾五俵	森 八郎次
御切米百貳拾俵	中西 賀一郎
役料米九拾俵	有川 設樂之助
御切米三拾五俵	和出 乗助
御切米九拾俵	柏 百喜
御切米貳拾俵	小野 強右衛門
御切米貳拾俵	大山後角右衛門
御切米百俵	猪飼 柳太郎
御切米四拾俵	今井 平九郎
御切米五拾俵	花 謙藏
御切米七拾五俵	仙波 市左衛門
御切米五拾俵	成田 正右衛門
御切米拾八俵	中村 甚左衛門
御切米拾八俵	隈元 猪之助
御切米拾八俵	森 喜平太

御切米拾八俵	平川 武兵衛
御切米拾八俵	白石 喜平太
御切米三拾俵	山下 出右衛門
御切米貳拾俵	坂口 善左衛門
御切米百五拾俵	大龍 寺
御切米三拾俵	隆盛 院
御切米拾八俵	照山 院
御切米五拾俵	慶連 院
御切米拾八俵	快昌 院
御切米五拾俵	東之坊
御切米百俵	野村 左衛記
御切米貳拾俵	曾山 良潤院
御切米百俵	有馬 衛守
御切米五拾俵	稅所 普門院
御扶持米貳拾七俵	酒匂次郎左衛門
一代堪忍料米貳拾五俵	早川 連
堪忍料米貳拾五俵	園田八十右衛門
堪忍料米貳拾五俵	清水 周吉
堪忍料米貳拾五俵	立花 直記
堪忍料米貳拾五俵	吉村 助作
堪忍料米貳拾五俵	押川 乙五郎
御切米三拾五俵	郷原 轉
御切米三拾五俵	種子島次郎右衛門
堪忍料米三拾五俵	仙波 市左衛門
御扶持米拾八俵	岩田 喜左衛門
堪忍料米拾八俵	西田 儀作

「五十六」 一世御養料米被下置候人之事

御扶持米三拾五俵	梅田 勘十郎
御扶持米百俵	川上 十郎
御切米貳拾俵	吉村 九郎
一世御養料米九俵	本御挾箱持鳥津大学殿家来 金助
一世御養料米九俵	奥村浅右衛門 養妹
一世御養料米九俵	本御駕籠者 四郎助
一世御養料米九俵	右同 清助
一世御養料米九俵	本御駕籠者 伊助
一世御養料米九俵	右同 助八
一世御養料米九俵	右同 藤右衛門
一世御養料米九俵	本御挾箱持 長次郎
一世御養料米九俵	本御駕籠者 作左衛門
一世御養料米九俵	本御挾箱持 武右衛門
一世御養料米九俵	本御駕籠者 勇助
一世御養料米拾八俵	瀬崎 こと
一世御養料米貳拾五俵	静尾院
一世御養料米貳拾四俵	法華院
御養料米拾五俵	田上百二姉 こと
一世御養料米拾五俵	青木休右衛門娘 浦江
一世御養料米九俵	本御駕籠者 甚右衛門
一世御養料米九俵	本御挾箱持 新助
一世御養料米九俵	右同 有右衛門
一世御養料米九俵	本御挾箱持 四郎
一世御養料米九俵	本御駕籠者 伊右衛門
一世御養料米九俵	本御挾箱持 市兵衛
一世御養料米九俵	本御駕籠者 熊助

- 一世御養料米九俵 右同 勘右衛門
- 一世御養料米九俵 右同 庄八
- 一世御養料米九俵 右同 周助
- 一世御養料米九俵 右同 下町之松元鉄袈裟
- 一世御養料米九俵 右同 庄右衛門
- 一世御養料米九俵 惣太郎
- 一世御養料米九俵 傅右衛門
- 一世御養料米九俵 袖浦
- 一世御養料米九俵 藤江
- 一世御養料米九俵 崎野

〔五十七〕 諸御役分高員數之事

高卷万四千八百九拾三石

右御役料高太抵右員數二而御座候事

〔五十八〕 諸御役料米并御切米御扶持米其外御国中諸払銀

米員數之事

- 米式万八千式百式石卷斗九升六合 万私
- 右御役料米并役料米御切米御扶持米 万私
- 錢式千百拾貳貫五百文 右同
- 銀二して式拾老買百貳拾五匁 右同
- 右御役料銀并御扶持銀払 右同
- 大判金三枚 万私
- 小判金式万七百三拾八匁 万私
- 老歩金百九拾切 右同

- 式朱銀四万四千八百式拾五切 右同
- 銀式百貳拾五貫三百六拾目 右同
- 錢八千七百六拾貫八百三拾八文 右同
- 米八千三百七拾式石三斗四升五合 右同
- 右嘉永四亥年中諸払右之通御座候

〔五十九〕 琉球拝借銀之事

銀六百四貫目 隔年 進貢船式艘之時
 銀三百貳貫目 隔年 左右聞船壹艘之時

右ハ金銀慶長年中被定候法之通被改候間、琉球より大清^ニ差越候銀料其數を被掛候様ニと從 公義被仰渡趣有之、元禄之正銀と慶長之正銀増之賦を以、元禄銀進貢料八百四貫目之内式百貫目、接貢料四百貳貫目之内百貫目被減候而も元禄銀と正銀と量數相並積付、未十二月三日井上河内守様^ニ被仰上趣有之候処、被仰出候通同十二日減方之儀被仰渡候、依之進貢料新銀六百四貫目、接貢料新銀三百貳貫目、正徳六年申七月十六日被相定候事

但右銀高之内半分ツ、ハ琉球方より差渡候事
 右ハ先年從 公義段々被仰渡趣有之、貞享四年進貢船料銀八百四貫目接貢船料銀四百貳貫目、被相極置候処、其以後金銀吹替ニ付而正徳年間右之通被相極候事

〔六十〕 御国藥種御利潤有之品之事

- 柴胡 楊梅皮 海人草
- 茯苓 桂辛 縮砂
- 紫根 莪木

右御国用外大坂御仕登之上御弘二相成品二御座候

白蘇皮	一	半夏	一	巴豆
貝母	一	石斛	一	和肉桂
島肉桂	一	朝鮮種人參	一	真防風
防葵	一	防己	一	へそべ
山へそべ	一	杜中	一	当帰
釣藤鈎	一	知母	一	地黄
地榆	一	竜眼肉	一	黄芩
黄土	一	黄柏	一	何首廡
刈やす	一	橄欖	一	并遂
薏苡仁	一	沢瀉	一	大棗
瞻八樹	一	蒼木	一	埋霍香
爪呂実	一	爪呂根	一	益母草
決明子	一	桂根皮	一	荆芥
呉茱萸	一	厚朴	一	香附子
天門冬	一	山茱萸	一	山帰来
山香子	一	枳実	一	枳殼
金銀花	一	桔梗	一	蜜
芍薬	一	小茴香	一	辛夷
真珠	一	白芷	一	白朮
白欵	一	木瓜	一	青木香
川芎	一	牛青蒿	一	湯之花
右諸人申請相成候品御座候				
和人參	一	薄荷	一	紫根
海人草	一			

右四品去ル西年より御製藥方支配ニ被仰付候

文銀貳百三拾九貫貳拾六匁六分九厘貳毛

但此老行藥種申請代并諸御礼銀

内六拾貳貫百七拾四匁三分八毛

右老行御藥園掛役々被下方其外諸雜費料御物江返銀致引結候様天

保八年酉八月被仰渡候付本行通御物江返銀相成申候

拾九貫七百九拾九匁三分四厘貳毛

右老行御藥園方諸雜費料差引殘高

右嘉永四亥年分

「六十一」諸士跡目并隠居家督嫡子成養子之儀被定置候事

- 一 諸士相果候後、直子有之候而も繼目之儀可被仰付も未相知候処、不達貴聞親跡職利運相統仕儀不可然候、向後ハ親相果候跡、致 御目見候子雖有之、無異儀跡目可被仰付哉と相伺、其上を以致家督候様可申渡旨、寛文八申七月廿四日被 仰出候事
- 一 諸士跡目無之人ハ親存生内、跡目之願可申出、親死去以後二一門中より雖申出候、願之通被仰付問敷候、以御見合可被仰付候、乍然不意之仕合ニ而親死去候人ハ跡目之願被成御取揚可被下旨、延宝五年巳四月十九日被 仰出候事
- 一 麻兒島之士逼迫仕、外城養子願申出、相叶候人ハ外城ニ而二男三男被成御免許候、惣領ハ外城ニ而直親跡相統仕事候間、御免許無之旨、延宝五年被 仰出候事
- 一 御直子嫡子死去、又ハ何ぞ付、二男嫡子被仰付候節ハ末々之子共迄、右ニ相付申出、御免之上可相直旨、正徳二年辰三月被仰渡候事
- 一 組中嫡子成之儀ハ以前之通願出、被成御免許候、二男三男之儀ハ右ニ準管候間、帳内於組所相直、高所ニ時々其旨可致問合旨被仰渡候事
- 一 組中之士、嫡子相果候節ハ二男嫡子成之願申上、被仰付候事候、二男三男之儀右ニ準、男上り之願申出候節、与頭承届、此跡より差免来候、且又二男相果、又ハ養子參候者別立候者有之候節ハ其跡ハ二男成、三男成願申出次第、是又差免来候、然共別立候者ハ本家之二男之儀ハ不相通事候得ハ相果候者養子參候者と同前男上り不差免管、元文三年午五月被仰渡候事

一 御咎目被仰付置候内、相果候者之子、不案内ニ而継目之願申出候も可有之候間、組頭并小組頭よりも氣を付、其沙汰可致候、尤右躰之子共継目申上様之儀御内意可申出候、御吟味次第御差圖可有之旨、享保二年酉十二月被仰渡候事

一 諸士二男三男家ニ而二三代も別立罷在候者、嫡家又ハ二男家跡職無之節自分之家を禿、致相統候儀有之候、此儀家相統之為ニハ尤之儀候得共代々別立罷在候家ヲ禿候儀ハ如何之事候間、向後右躰之者ハ被仰付間敷候、其身代別立候者、又ハ子孫之内ニ男三男有之者、又ハ一類之内より致相統者有之候ハ、其者を跡職願可申出候、若右類之者も無之、家及断絶事候ハ、代々別立罷在候者ニ而も跡相統不致候而不叶候も有之候ハ、其身之跡を仕居可申候間、相統御免被仰付度旨、願可申出候、尤外城養子ニ而も願可申と存候者ハ是又願可申出候、依其趣御沙汰次第可被仰付候

一 組中之者死人有之節ハ早速申出、組頭可承置候、家督之者相果候時ハ忌明次第法様之書付を以、継目之願可申出候、何そ仔細も無之、致延引候ハ、名跡被相立間敷候条、時々沙汰可致候、急ニ跡職之儀願難申出候相立候儀有之者ハ向後月数十二ヶ月を限、可申出候、若無拠子細も有之、右月数之内、跡職之儀難申出者有之、延引仕候誤候ハ、其趣無油断、可申出候、勿論以御見合、跡職被仰付者ハ格別ニ而候

(朱)

一 与中之諸士、家督之者相果、跡相統之者無之、与帳ニ何某跡と記付未跡職之願をも不申出者共多々有之候、右之者共跡職願申出事候ハ、其訳月限ニ可申出候

一 右之通親類中ニも跡相統之者無之、外城養子をも可致と存候者、又ニ蒙御免、人柄等見合候付而不致延引候而不叶候も有之候ハ何月限相極願可申出通、是又五日限可申出候

一 右之通与帳跡付ニ而有之候者共之親類中ニ可被申渡候
直子無之、親類中ニも跡相統之者無之、外城養子之願申出等之者も右同断可相心得候、急々相極難申出候候ハ、依其趣、御沙汰之上、御取訳も可有之候、乍此上致大形御断をも不申、致延引候者於有之ハ名跡被相立間敷候

(朱)
以後ハ其跡職願申出候者之儀十二ヶ月限ニ申出候様ニと御触流を以此節被仰渡候、尤此跡付之面ニハ無御構、向後之事候間、左様ニ可被相心得旨、戌三月被仰渡候事

一 右之通享保三戌三月被仰渡候事
家督之者相果、継目之願別而及延引申出事多有之候、公義之御法ニハ時刻致延引候得ハ不相立事候処、いつ願申出候而も相洛候と存延引仕候、且亦継目之儀ハ其子共可被仰付候哉、又ハ他之者ハ相統可被仰付哉、思召次第之儀候処、嫡子之儀ハ自家相統仕等と存居候儀、是又心得違ニ而候、依之左之通被相定候事

一 組中之者死人有之候節ハ組所ニ早速申出事候間、可承置候、家督之者相果、直子ニ継目遺言書仕置候ハ、相果候段、組所ニ申出候節、遺言書追而可差出旨をも可申出置候、左候而宛書之親類共より五日中ニ無延引組所ニ法様之通遺言書可差出候、直子共之儀、継目願之遺言書差出候儀ハ忌中之考可仕候得共、当人忌中ニ而も遺言書ハ親類共より申出事候故、御構無之候、何そ子細も無之、継目之願致延引候ハ、名跡被相立間敷候、尤御見合を以、被仰付継目之儀ハ格別候事

一 右ニ付与中家督之者相果跡職願五日中可申出由被仰渡置候処、何之訳も無之、五日過候而願書差出候も有之候、右躰之節ハ被相立候而願書被致候得ハ猶以相滞等候条、継書之儀ハ早速右延引被致候儀ハ別立而相立、其訳可被申出旨、被仰渡候事

一 幼少又ハ不時相果候者遺言書無之筈候、相果候段組所ニ申出候節、遺言書無之候継目之儀ハ相極追而可申出旨をも組所ニ親類共より其節可申出置候、左候而直子又ハ親類共之内相立之者相極、継目之儀親類共より可申出候事

一 遺言書、又ハ遺言書無之跡職願之儀、五日中ニ難申出儀ニ候ハ、何様之訳ニ而差出候儀支有之段、有筋組所ニ無延引可申出候、其趣次第ニ御取分も可有之候

一 直子無之親類中、又ハ鹿兒島士ニ而も継目願可申出相立之者無之、家相禿候様ニハ難申出候ハ、勿論御格之通、外城養子之願可申出候、左

候而御免之後、急人柄相極候事難成訳も候ハ、何ヶ月程被差延置度旨於申出ハ依其訳、何分ニも可被仰渡候事

(朱)
一 押札ニ而此内月延願申出、御免被成置候者又ハ其段申出ニ不及候、尤御免之月数著合候節、又ハ月延願不申出候而不叶訳有之候節ハ無延引御法之通可申出候

一 長ハ病氣有之候者相果、遺言書をも不致置、死後親類共より継目之願申出候而も其身油断之儀候条、御取揚有之間敷候、勿論御見合を以可被仰付儀ハ格別候事

一 家相統之儀ハ第一之事候処、願申出候儀致延引、縁組之儀ハ若年之者ニハやく取組不急儀を折角申出候者有之候、縁組之儀屹と申出候人、又ハ願申出ニ不及幼稚之内より内ニ而致契約置候者有之候、縁組はやく取組候儀不入事候、且又妻致離別候者多ク有之、不宜候間向後左様無之様ニと奇、可申通旨、先年被仰渡候、猶以右之趣相守可申候、家ニ付訳有之候歎、又ハ無拠問柄ニ而縦令内ニ申合ハ仕候得共、願相立候儀ハ無用可仕候、尤致縁組、婿礼をも相整、家相統可仕程之者、縁組之儀ハ御法様之通、願可相立候、勿論右式訳も無之若年之者ハ縁組之願申出問敷候事

一 右之通御格式被相立候間、無緩疎相守候様組中之面、ハ堅被申渡置、尤右之願申出候節ハ於組所も猶無間違様可被致沙汰旨、享保五年子正月被仰渡候事

一 組中之面、家督之人相果、嫡子遺言書親類宛書仕置候間、親類より五日中跡職願之儀、右遺言書次書を以申出付、右親類忌掛ニ而も本人さへ乍忘中、跡職被仰付被下渡出願出候儀御免之事候条、親類忌中ニ而も継書仕候儀ハ被差免候条、次書仕候而差出候節ハ忌中ニ而候得共名代ニ而可差出旨、享保五年子二月被仰渡候事

一 家督之者相果、跡職延之願申出候節、月数を以願出来候得共、紛敷候条、右跡延之願申出候者、口数を以申出候様時、可被致差函旨、享保十七年子十二月被仰渡候事

一 養子罷成、致家督候者、不縁付、違変之儀、今迄ハ養父方家断絶無構致違変来候得共、向後ハ違変不致候而不叶訳有之候節ハ跡相統之者を

見立、其跡仕居置、隱居之願可申出候、其以後依申分ハ本家立掃候様ニも可被仰付旨、被仰出候間、被奉承知、組中地頭所ニ可被申渡旨、正徳元年卯十月被相定候事

一 養子罷成、致家督候者、不縁付、違変之儀、養父方家断絶無構致違変来候得共、向後ハ違変不致候而不叶訳有之候ハ、跡相統之者を見立、其跡仕居置、其身ハ隱居之願可申出候、其以後依申分ハ本家ニ立掃候様ニも可被仰付旨、去年被 仰出、其節右之旨申渡置候、弥其通相心得可被申出候、且又養子取組之儀ハ互ニ納得之上、親子取結事候処、為差儀も無之、不致違変候而相済程之儀ニも及違変、又ハ養子罷成候者、諸事之慎無之、致違変儀も有之由候、右跡之事ニ而致違変候儀ハ不義理之事候間、無拠訳有之兎角不致違変候而不叶訳有之候ハ、親類中ニも得と申談、同意候ハ、熟談之上、申出儀候ハ、取揚可申候、内ハ不義之筋ニ而表向ハ不縁有之、致違変など、申出儀共有之候而ハ不

一 宜事候、違変ニ付而ハ其子細申出儀ハ難成訳も有之候条、委細之儀ヲ被聞届候ニハ不及候得共、右心得を以、組頭中氣を附、可被申出旨、正徳二年辰三月被相定候事

一 依願養子被仰付候者、無拠訳有之、養子難遂旨有之候ハ、双方親類共申談、同意之上、違変之願御法様之通双方より書物ヲ以可申出候、右養父方之願書ニ実方之親類連名ニ而可願出候

一 養子被仰付置候者、家督以後相統難成訳有之候者ハ双方親類ニ申談、同意之上、養子之養子可仕旨見立置、自分事ハ家督相統難仕訳有之候間、隱居被仰付、何某を養子被仰付被下度旨、可奉願、右願書ハ双方親類連名ニ而双方より可願出候事

一 右養子之儀ハ傍輩之子を内約相極置、願之通屹と被仰付、縁を結罷在事候処、御当地之儀、諸国之格式相替、養子違変之願申出候者多有之候、屹と奉願、為被仰付置事候条、弊々敷其恐を不存、亦ハ互ニ不義之至ニ相聞得、旁以風俗不耳候、依之先比為被 仰出旨も有之候間、猶奉得其意、違変之願申出候者可有之時ハ右件を以相改候上、可遂披露候、右之旨趣不相違候哉、此間多々問違之儀有之候付而ハ此節亦ハ被仰渡候由、正徳三巳七月被仰渡候事

一 養子罷成候者、無契訖ニ而養子於難逐ハ御法様之通、書物を以、申出跡相統之養子ハ養父方より見合可申出候、養父死後ニ而候ハ、其家之親類より見立可申出候、願之通違変被仰付候ハ、本家ニ立帰候様、被仰付度旨可申出候

一 願之通被仰付候ハ、於本家、最前之通、二男三男之誤帳面記置、何某先養子と肩書可致置候

一 初而之、御目見不致者、養子罷成、於養父家、養子成之、御目見相濟候者違変之後、於本家初而之、御目見奉願度旨於申出ハ本家之家督より組頭ニ可願出候、左候ハ、組頭中委逐吟味候上、右之者兼而之行跡等宜有之、被召仕候而も相応相勤、器量又ハ何そ芸能等も有之候段、無別条旨承届候ハ、其訳を以、組頭より、御目見願可申出候、尤所行忠數何れの芸能も無之、不相応之者候ハ、御目見願組頭より申出間敷候、

一 但本家立帰候以後、御目見不被仰付内ハ尤何れの御奉公も申付間敷候於本家、初而之、御目見相濟候者、養子違変之後、本家立帰候節、又ニ於本家、御目見被仰付不及候条、右相違候通、何某先養子と帳面可記置候

一 養子違変之者、本家立帰候以後、兼而之行跡等宜被召仕候而も相応相勤、器量亦ハ芸能も有之段無別条旨承届候ハ、時節を以、其訳組頭より可申出候、其後吟味之上、御奉公方可申出候、尤組頭より申出無之内ハ何御奉公も申付間敷候

一 養父并養子よりハ可及違変子細も無之候得共、養父子之妻、氣儘之仕形有之、何様異見を加候而も不致承引、夫故夫婦之縁難逐、養子違変之筋罷成候者も可有之候、右躰之女ニハ親類中より折角異見、可申聞事候、乍其上氣儘之申分差通候ハ、縦血筋断絶候共、右女為致隠居、養子之儀致相統候様可有之候

右之通正徳三年巳八月御格式被相定候事

一 養子罷成候者、無契訖ニ而養子違変御免被仰付、本家立帰候節、養父方ニ而致、御目見候而本家ニ而初而之、御目見不相濟者ハ組頭しらへ之上、御目見願申出候様、正徳三年巳八月御格式被相定候得共、本家并養父方ニ而も一度初而之、御目見相濟候者、本家ニ立帰候以後、亦

一 初而之御目見願申出不及、此外之儀ハ先例相替儀無之旨、元文三年午十月被仰渡候事

一 養子家督違変不致候而不叶訳有之候節ハ跡相統之者を見立、其跡ニ仕居置、其者ハ隠居之願可申出候、以後依申分、本家ニ立帰候様ニも可被仰付旨、正徳三年被仰渡置候得共、向後養子難逐者於有之ハ双方親類熟談之上、致異見何れの筋ニも違変不致候而不叶訳有之候節、其身隠居之願、不及違変、於御免ハ跡養子之儀ハ親類見合、追而可願出趣之書物を以、可申出旨、延享五年辰四月被相定候事

一 養子違変願申出候節、今ニ往致異見、難逐段承届、願出候様申渡、書物相返御格候得共、最初願出候節、難逐承届候上ニ而願出等候条、向後一度願出候節之書物、取揚差出候様延享五年辰二月被相定候事

一 外城養子之事、芸能之儀、諸人致師匠候程之者、多クハ無之積候、別而不至芸能ニ而も大抵御用相達候を具承届、尤算算之儀相達候哉、手跡之儀見届候程仕候而御格式相当之者ハ可相伺候、算算又ハ何之芸能も無之者ハ養子被仰付間敷候間、向後右之通相心得、一湊入念しらへ可申旨、享保三年戊五月被相定候

一 御当地上、外城より養子仕候儀ハ差立候家柄名跡を被立置候迄之儀、其外血筋ニ付而無契申立、又ハ紛も無之及繼命候者ハ為差立家筋ニ而無之、逼迫之者ハ御当地中より養子罷成者も無之、一門中之儀も当分無之ハ補候而も養子相応之者無之、且又及老年候迄無妻之者ハ跡目断絶可罷成候間、右躰之者ハ外城より養子御免ニ而跡目相統可被仰付候、依之委曲左ニ相違候

一 其身之儀、別立候者より外城養子御免之願申出候共、被取揚間敷候但別立付而子細も有之者ハ依其訳、御取分可有之候

一 士不似合所行、其外付而御勘氣を家候歟、又ハ御詮儀之旨有之、牢舎・遠流・遍塞等被仰付置、末何様共不相極内、相果候者ハ外城養子追而願出候共、被取揚間敷候

一 但御詮儀埒明、遠流・寺入・遍塞・遠慮等之御咎目被仰付、未被召直迄之内相果候者之跡目願出候ハ、時々可被得内意候

一 外城養子罷成居候者、外城より致養子、跡目相統為仕度由申出候者、

願出候者之家筋等相札可被得内意候

一 士ニ御赦免被仰付候者、其身代外城より養子御免之願申出候共被取揚間敷候

一 数十年前禿候而名書組帳無之者之名跡、外城より養子願出候共、被取揚間敷候、組帳名相殘罷在候人之名跡ニ而候ハ、右格式を以、相札候上、取次可被申出候

一 但組帳ニ名無之候而も歴々之筋目、又ハ忠節之筋目由緒等有之者ハ可被得内意候、右之外難心得儀有之候ハ、幾度も可被得差図候事

一 養子願出候者、芸能之儀、諸人致師匠候程之者、多ハ無之積候、別而不至芸能ニ而も太底御用相違候程を具承届、尤筆算之儀相違候哉、手跡之儀見届程ニ仕候而御格式相当之者ハ可被申出候、乍然右通之者ニ而も人躰不宜、又ハ素性不宜者ハ差免間敷候、向後右通相心得、一涯入念相調可被申出候

一 一往外城養子御免之願申出候者、其節御免無之候処、多年を経候而初而申出躰ニ願出候ハ別而不宜事候間、右式之有無可被承届候、後家娘共よりとして願出候節、表方無案内之者ニ頼合候得ハ筋違之儀も可有之候間、此段可被入念候

一 表向ハ無高ニ而難統由申立者之内ニも内々ハ渡世相違者共も有之由候間、此段可被入念候事

一 一家筋付而無摠親類中相統可仕者、偶乍有之、外城より致養子候得ハ合力をも致由候付而類中も相応之者無之躰申出者も有之由候間、此段時々入念可被相改候事

一 外城養子被成御免候先例を以願申出候者有之候節、書面迄ニ而ハ同前相心得、其身之実儀相替事も可有之候間、可被入念候事

一 座附士之者を表方士養子ニ願申出候ハ、右外城養子之格を以、相調可被申出候事

一 右之通被相心得、入念相調候上、可被遂披露候、初而地頭職被仰付候人、委細之儀不存、所役人共申口ニまかせ証文出儀も可有之候間是又可被入念候、少も疑敷儀於有之ハ時々可被得内意候、尤比趣帳面書留置候迄ニ而ハ後年吟味之不足も可有之候間、同役被仰付候節、

時々比旨可被申伝候、若大形之儀於有之ハ組頭中可為越度候条、緩々無之様可被相心得候、右に付而ハ諸地頭所申渡候書付被相渡置候旨、享保三年戊七月被仰渡候事

一 座附士を表方士之養子願出候節ハ外城養子之格を以相調可申出旨、先年被仰渡置候、右格式を以相調候得ハ申出様ニ付而難致事も有之候故、此節左之通被相極候

一 座附士を表方士之養子願出候節ハ養子罷成候者之行跡、又は何方之座附ニ何比御赦免被仰付候事、且又筆算等も相応有之、其外一往ニ而も下輩之仕業不仕儀共、外城養子之格ニ相札、其趣を以近所并其座支配之肝煎証文ニ奉行承届、無別条之旨添書証文養父方江相渡、其節外城養子願申出候致格式組相付可申出候

一 養子成候者之実父方より私^{二男}何某事、表方士何左衛門養子内ニ申談候間、其御座御暇之願申上候処、何某御取次ニ而願之通御暇被下候条御法之通願可申出旨、支配頭より被仰渡候、依之御法之通、証文取捕何左衛門方^ニ遣候間、願之通被仰付度旨、組相付可申出候

一 右之通享保九年辰二月被仰渡候事

一 鹿兒島士養子罷成候者無之付、外城養子願出者、先祖代差立候勤方仕候者ハ勿論、軽キ勤方ニ而も代々御奉公勤来候者、又ハ勤方無之候得共、代々家相統いたし来候者、外城養子願出候ハ、可被取揚候

一 差而故も無之、別立候者、外城養子之願、四代目よりハ被取揚、三代迄ハ不被取揚候、右躰之者願申出、不被取揚者^ニ外城養子ハ不被仰付候間、何分片付申出候様可被申渡候

一 近代別立候者ニ而も外城衆中、又ハ家中者之内、無摠由緒有之者ハ其訳を以、養子願出候儀ハ格別候間、有来通可有之候

一 右之通元文二年巳三月被相定候事

一 外城より鹿兒島士養子罷成候者、向後之儀、外城ニ而持高致所持、直其高持越候者迄を御免可被仰付候、無高ニ而も無摠血筋、又ハ為差立訳有之願之依趣ハ被仰付儀も可有之旨、元文二年巳五月被相定候事

一 外城養子願申出候者、先外城養子之儀願出、蒙御免、其後人柄願申出御法候得共、向後兩度申出不及、内々養子罷成候者承立候上ニ而願之

越御当地土之内、養子罷成候者無御座候付、外城養子被仰付度候、於御免ハ何方外城、何某願、存候高何程持來候訳、一紙書記、願書可差出候、外城より高不持來者ハ養子御免不被成候、乍然無由緒有之者ハ被仰付者も可有之旨、此内被仰渡置候、右躰之者願出候節も是又由緒之訳、委細同前可書出旨、元文二年巳十一月被相定候事

一 有馬休右衛門より小根占衆中大迫正藏高石持越候間、外城養子取組度元文元年申閏七月願申出候処、高石石ニ而ハ縦令迄之様有之、願難取揚旨、同年八月被仰渡候事

一 小番冢格之者ニ血筋ニ而も大番之者、他家より養子參候願ハ取揚間數旨先年申渡置候得共、向後左之通被相定候事

一 小番筋之者養子、且又聳養子願之儀、親類之内無之、他家大番二男三男家内罷居候者を願出候ハ右同断、養子願、養父を致介抱候養子ニ而無之候得ハ難成者、親類之者相心之者有之候得共、致介抱、貯無之者候ハ、他家之者ニ而も致介抱者を養子願出候儀、大番小番無差別候其身代別立居候者、依願養子參候者、養父方ニ持高等も持越、自分跡日ハ不被召立様願出候者、又ハ養子參、自分跡日は致養子旨申出候者、右通之願ハ致次書可被差出候事

右之通元文四年末十月被相定候事

一 不別立候而相果候者之子、別立願出候節、高并屋敷ニ而も壹ヶ所致附屬、別立御奉公為仕度由願出候者ハ願之通可被仰付候、無高無屋敷ニ而別立迄を願出候者ハ御免被成間敷候

一 親類共より養子罷成候者無之候間、跡相禿可申由申出候者ハ願之通可被仰付候

一 不別立罷居候者、訳有之、一世御奉公不被仰付者ハ子孫至而も御奉公被仰付間敷候、尤別立願出候而も被仰付間敷候、乍然子孫之依器量ハ御吟味之上別立并御奉公可被仰付候

右之通被 仰出候間、被得其意、入念相調、可遂披露候、少も疑數儀有之候ハ、時々可被得内意旨、享保三戌七月被仰渡候事

一 家督之者二男三男類別立之願申出候節、部屋栖之嫡子被処遠流候者有之、右者之子共有之候而も遠流御赦免以後嫡子又は嫡孫家督不被仰付

儀も可有之候、然時は家内ニ罷在候二男三男之内、家相統可致事候得共、右躰之者別立等之願申出候節ハ氣を付、遂吟味、其件委被申出候様可被相心得旨、元文元年辰六月被仰渡候事

一 御側支配勤之内、相果候者、継目願出候節ハ伴表方勤、亦ハ勤方無之者候ハ、表方ニ相付、願書可差出候、申渡之儀も表方に而有之管候由延享二年丑八月被相定候事

一 木原戸右衛門事、座附士橋口渡兵衛二男橋口仁左衛門養子願出候、座附士養子願出候節ハ外城養子之格を以相調候様被仰渡置候、然ハ戸右衛門事、其身代別立為申者候得ハ右之願難取揚、然共右之訳難決候旨段、内意を以被申出候、座附士養子願出候儀、外城養子願之格被仰付事候間、戸右衛門事、其身代別立候得ハ座附士之者養子ニハ御免不被成管候間、左様可被相心得候、此段可申渡旨、享保九年辰十月被仰渡候事

一 養子願之書物、組頭継書ニ而親類より御用人ニ差出申事候得共、何ぞ訳相替、組頭吟味之趣有之候得ハ外ニ添書相認、御用人ニ差出二重之首尾相掛候間願書次書之内ニ吟味之趣委相記、組頭より直ニ差出筋被仰付候旨、延享五年辰二月被仰渡候事

一 直子無之者、親類共見合を以願申上候様遺言致置、五日中相統之者難相極、日數延之願申上候節、遺言書致置候段申上置、重而人柄見合跡職申出候節、遺言書差出候筋、享保十三申七月被仰渡候有之、其通致來候処、享保二十卯五月大藏殿より中野駒右衛門御取次に而右通申七月被仰渡候趣ハ無用ニ相成候筋被仰渡候付、享保五子正月奎殿より被仰渡置候趣を以左之通相伺候

一 本文被仰渡置候趣を以申談候者、跡職相統之者無之、親類共見合を以申上候様遺言致置、早速難相究候ハ、日數延御免之願五日中申出候御遺言書差出候筋被仰渡置候、左候而右遺言書ハ被返下候様有之度候、重而人柄見合遺言書を以跡職之儀奉願候付、無左候得ハ願書物等差出候御格式相替候付、此通被仰付度候、享保二十卯六月

右之通御格式相当候間、向後其通可有之旨、大藏殿より被仰渡候事

御城下士直子無之者、外城養子之願、外城ニ而高致所持、直其高持出候者迄を被成御免儀ニ候、右高永相地、又ハ持留高等ニ而無納之高持越候而も詮無之候間、右躰之高持出候者ハ向後被成御免間敷候、宝曆十三末八月被仰渡候事

一 御城下士直子無之、由緒之訳を以て外城衆中并座附士を養子ニ願出候者

(米) 一 引札ニ而本行付諸座附士より外城養子願出候節、御城下上同前父方之統迄御免被仰付候」

向後父方從弟之統迄を養子御免可被仰付候、且亦所高直ニ持出候者ハ有来通可被成御免候、銀子等持越養父方借銀相弁、養子取組度由願出候而も被取揚間敷候、組中之諸士跡職願、直子無之養子承立候内、延之願申出候節、高屋敷所持之者、又ハ無高無屋敷之者、段々月延被極置三度迄ハ被召延、其上月延申出候而も何ぞ訳無之者ハ願不被取揚候、然其家之功、又ハ其身之依訳合ハ吟味次第被召延儀も候処、近年ハ及四度、延之願申出候者多々有之、月限被定置候詮無之候間、近代別立候歟、輕キ家筋之者ハ四度日月延之願ハ向後一切被取揚間敷候、乍然格別之訳有之者ハ御見合を以て可被召延置候

右之通此節被相究候條、可承、御役ハ申渡、組中江も申渡候様組頭江可申渡候、宝曆十三末八月

一 御城下士末子之内より依願、座附士養子被仰付候者ハ格式相下候付、養子難遂訳有之、致違変候者ハ向後御城下士掃參不被仰付候、本家之家内ニ被入置、本何方座附士何某先養子と帳面等記置、以後座附士同前之御奉公仕候儀、又ハ座附士養子願出候儀ハ勝手次第可有之候

右之通被仰付候條、此旨組中并支配有之而、江可申渡候、明和二酉十月被仰渡候事

一 渡辺佐左衛門儀、本渡辺名字之權右衛門叔父ニ而權右衛門家内ニ罷居候処、權右衛門事、依科名跡被召禿、佐左衛門儀ハ無御構段、被仰渡置候間、此間別立之願申出候得共、不被仰付段、先達而申渡置候、右躰之者、向後別立不被仰付候條、右躰之願申出候節ハ右之心得を以て被致吟味候様可申渡候

(米) 一 本渡辺名字之權右衛門家内叔父

渡辺佐左衛門

右權右衛門事、依科名跡被召禿候右佐左衛門家内ニ而親族御咎目無之者ニ候得共、右躰之者ハ別立并養子成御奉公方而後不被仰付候、以後士名跡被召禿候者之家内ニ罷居候者ハ親族御咎目有無不依、与帳高帳可被相除候、右次第二候得ハ親類家内ニ入置、家来同前之者ニ候名字名乘候儀ハ無御構旨、被仰渡候條、諸事如斯可被申渡旨、延享二丑六月被仰渡候事」

一 家督繼目養子別立、又ハ初而高持成、高上り等之願申出候者有之節ハ其当人何その役儀相動候儀有之、願も無之役儀被差免候儀無之哉之旨組頭被承届、若右躰之者有之候ハ、以前何役相勤候処、御免之願も不申上候得共、被差免候段、別紙書付可被差出候、右躰之儀無之者も其段書付可差出候、此儀屹と申渡儀ニ而無之、右ニ付而ハ追而何分ニも被仰渡儀も可有之候、先当分組頭右之心得被致候様有之可然と申談内意申達候

一 嫡子を養子ニ遣候事、無掬申立願出候吟味之上、被仰付事候処、内々之訳合ニ而致違変、本之通嫡子ニ相立男上り致居候本家嫡子を二男ニ而男下り願出候儀甚以自由ケ間敷事候條、向後右躰違変後嫡子相立又ハ嫡子を養子ニ遣候儀御免被成間敷候、本家相統之儀格別候得共、是以其節、吟味次第可被仰付旨、安永六酉六月仰被渡候事

一 組中之面々、繼目養子、又ハ違変等之願申出候節、妻子召列候人ハ其訳申出候是迄之振合候得共、妻之儀ハ白夫江相付事候間、以來ハ妻之文字相除、子共召列候儀迄を願出候様、安永七年戌四月被仰渡候事

一 家督之者相果、直子等無之、依願及三度跡職差延置、内々養子等申談置候得共、難決儀有之、相究願難申出、御法之月数答合候付、及四度延之願申出候者近年多定之様ニ相見得、甚以心得違候、跡職之儀ハ格別成儀ニ而御法も有之事候処、畢竟親類共大形ニ相考候処より右次第ニも成立、甚不可然事候條、以來ハ右躰願申出候共、御取揚有之間敷候、乍然至而無掬趣ニ候ハ其節、御吟味之上、可被仰付旨、安永八年亥四月被仰渡候事

一 嫡子相果候歟、又ハ養子ニ遣候節、二男を嫡子ニ願申出、右準シ三男以下男上り相願、二男以下右同断之節も依願男上り御免被仰付儀候得共向後左之通被仰付候

一 嫡子相果、亦ハ養子ニ遣候節、嫡子成願之儀ハ只今之通ニ而三男以下男上り不被仰付候、乍然右之内御支族亦ハ為差立家筋ニ而二男三男ニ男上り有之候得ハ家格進上物等宜相成候家筋之面、ハ是迄之通男上り願申出、家格進上物等ニも不相掛家筋之嫡子成之外、男上り願不及申出生之なりにて被差置候

一 家格進上物等ニ不相掛嫡子養子違変ニ而立、版候者ハ本家之長子ニ被入置以後別立をも願出候節ハ諸事其家之二男格式ニ被仰付候、尤男上り之儀、前条之通被仰付候付、二男以下養子違変ニ而立婦候者ハ自分本之生之次第ニ入來管候

一 嫡子以下進上物等格式宜者、養子ニ遣候跡、致男上り居、違変ニ而罷版候ハ、本之姿ニハ不被仰付、其家之末子格式ニ而本家之内ニ被入置、別立願出候ハ、諸事其家之末子同様之格式被仰付候、乍然二男三男ニ男上り無之者ハ違変以後二男又ハ三男之場ニ可被仰付候

右之通御格式被相替候旨、安永八年亥四月被仰渡候事

一 男子無之、幼少之娘有之候者、相果候以後、継目養子之願申出、於御免ハ往、右娘ニ取合度旨願申出候儀も有之、又ハ頭より継目養子之願申出、娘幼少故、先様取合度趣願申出候も有之、不相并候間、向後右跡之者ハ響之字相除、幼少之娘ニ往、取合度趣を以継目養子と相願、且亦存生内幼少之娘有之、養子願申出候節も右之振合可被相心得旨、御小姓与番頭ニ天明元年丑四月被仰渡候事

一 山田次郎右衛門事、先年龜山次郎左衛門躰養子相成、龜山家相統内、直子無之、龜山甚之丞致養子置候處、其後次郎右衛門実家揚山田八太夫相果、跡相統仕候者無之、依願其之丞儀ハ養家ニ残置、実家ニ為致婦參者候故、次郎右衛門儀ハ龜山系図世代面相除、甚之丞儀ハ次郎左衛門躰目養子之筋被仰付候、尤以來右跡無摺合ニ而実家婦參之者も養子違変之者同前、養家系図世代面相除候様被仰付候旨、天明三年卯五月被仰渡候事

一 男上之儀被仰渡置候趣有之候處、二男を養子等ニ遣置、三男 御目見願等申出候節、考違二男之筋申出候類之儀有之候、右跡之儀ハ頭人より氣を付、組中不及迷惑様可取調被 仰出候旨、天明五年巳五月被仰渡候事

一 直子無之人、跡職不被召立筋、親類共願出候儀、以來何某何男家等之訳迄も相糺、其本家より可願出候、尤本家無之者ハ是迄之通、親類共より可願出候、天明五年巳七月被仰渡候事

一 嫡子を他家之養子ニ遣候儀ハ実家之訳を以願申出候而も向後御免被仰付間敷被 仰出候旨、天明五年巳八月被仰渡候事

一 諸士二男三男、家付二三代も別立罷在候者、嫡家又ハ二男家跡職無之節自分之家を禿致相統候儀有之候、此儀家相統之為ニハ尤之儀候得共、代々別立罷在候家を禿候儀ハ如何之事候条、向後右跡之者被仰付間敷候、其身代別立候者、又ハ子孫之内ニ二男三男有之者、又ハ一類之内より致相統者有之候ハ、其者を跡職願可申候、若右類之者も無之家及断絶事候ハ、代々別立罷在候者ニ而も跡相統不致候而不叶訳も有之候ハ、其身之跡を仕居可申候間、相統御免被下度旨願申出候、尤外城養子ニ而も願可申と存候者ハ是又願可申出候、依其趣御沙汰次第可被仰付候

一 別立被仰付置候人、他家養子願之節、其身家跡ハ不被召立助申出候者是迄御免被仰付候得共、以來は為差立訳合無之家筋迎も本家ハ格別、他家を統自分家跡を禿候儀不可然候、依之向後御免被仰付間敷候、尤別立居候而も、差迫等ニ而御奉公難相勤躰罷成本家ニ引取、其家跡不被召立筋願出候者ハ御免可被仰付候、其者本家内罷成候上ニ而他家養子願出候ハ、其節ハ御免可被仰付候、天明五年巳十二月被仰渡候事

一 家督之者、他家養子ニ差越候儀、且嫡子之儀さへ部屋栖ニ而候得共、本家等之訳合無之外ハ御免不被仰付候付、其身代別立家督罷在者、嫡子又ハ二男等家跡ニ残置、他家之養子ニ罷成候儀不相成、尤其者之嫡子迎も同前之儀ニ候間以來心得違之儀共無之様、天明六年午十一月被仰渡候事

一 養子ニ参り候者致家督候後、養子違変之儀、是迄願出來候得共、向後

御免被仰付間敷候、且又実家相統のため如元立滞候儀も同断之事ニ候、於養家部屋栖ニ而罷在候ハ、依託合ハ養子違変之儀可被成御免候、是迎も実家為相統立滞候儀ハ自由ケ間敷儀故、被成御免間敷旨、天明七年未七月被仰渡候事

一 芸道を以被 召出候者之子孫、其芸道を以致相統事候間、家督継目等願出候節、其頭ニ随分可氣付旨、天明七年未七日被仰渡候事

一 家督継目等願出候節、芸道を以被 召出候者之家之儀ハ都而被 召出候節願書ニ可相認旨、天明七年未八月被 仰渡候事

一 御小姓組之二男以下別立候者、是迄御小姓組ニ被入來候得共、向後高五拾石以下分地之者ハ小十人ニ可被召入候、其余ハ有來通可有之被 仰出候旨、天明七年未七月被仰渡候事

一 小十人より養子遣候儀、小番・新番・御小姓組不苦候、其身代卑賤より被 召出候躰之者、子共養子ニ遣候儀ハ是迄卑賤之者より御小姓組ニ被 召出候通可相心得候、其外是迄之通、尤郷士より小十人ニ養子罷成候儀、是迄御小姓組家之養子ニ罷成候通、父方從弟之統、又ハ所高五石以上持出候者ハ御吟味次第御免可被仰付旨、天明七年未七月被 仰渡候事

一 先年小十人等被相建候御趣意ハ諸士之無祿之面ニ多候処、猶又分地之沙汰も無之、別立之願過分有之、其通被 仰付來候処、其内ニハ無祿之事故、格式相当之儀難取統、本家ニ引取候躰、或致零落、終ニハ下賤之産業をもいたし候而当日を凌候様成立候向多、第一右躰之所より士風高下之差別薄成行候事故、御小姓組以士ハ屹と士風相立候様との厚 思召を以、新規ニ小十人等被召建、御小姓組二男以下、高五拾石以上分地無之、別立候者ハ右等ニ被入置候旨被究置候処、其後御小姓組二男以下、小十人相願候者無之、右之格式一等相劣候方ニ而新規之儀故、人ニ迷惑之儀ニ而猶又御吟味之筋被為 在、此節小十人等御引取被仰付候、然ハ以前之通、分地無之、別立候而ハ格式相当之儀も難取統、右次第事候間、以來御小姓組二男以下別立之者ハ本家持高之内現高五石以上致附屬候者ハ御小姓組二男以下別立被仰付、分地無之、別立願出候者ハ勿論往々買地等之約束ニ而申出候共、一切御免被仰付間敷候

石之通被究置候旨、被 仰出候改、寛政二戌九月被 仰渡候事

一 別立被仰付置候者、差迫等ニ而本家引取候儀願出候向も有之候得共、容易御取揚難被成事候、然処右之内ニハ 仰出無之、以前別立居、往々養子成等之致内約居候者も有之候様相聞得候、其分ハ右之趣を以、此涯可願出候、尤当年中を相過願書差出候面ニハ御取揚有之間敷候、

一 格別之御取分を以、右通被仰付事候間、取違有之間敷候、左候而以來本家持高等も少しも扶助不相調、無拠託ニ而一家立難成者迄を時々吟味次第御免可被仰付旨、寛政四年子七月被 仰渡候事

一 嫡子初而之 御目見相濟、又ハ手札等申請候以後相果、或ハ本家致相統等候節、二男初而之 御目見不相濟者ハ嫡子成之願不申出も有之候得共、向後右躰之者ハ二男初而之 御目見不相濟候而も嫡子成之願可申出候旨、寛政四年子七月被 仰渡候事

一 諸向跡職不相定内、家跡并名跡と有之候得共、以來ハ家跡と可相唱旨享和二年西三月被 仰渡候事

一 諸芸練熟之上被召出候家之儀、其芸を請次、至子孫其道を御用立候様可心掛、若取違芸道取止候者ハ本之俗生ニ可被仰付候旨、先年被仰渡置候処、心得違其芸道打捨、致外勤等居候者も有之哉ニ相聞得、別而如何之至候条、以來屹と芸道相統可致候、乍此上不守之者も有之候ハ、屹と可及沙汰候、併有躰家筋之者差迫、一旦之勤方等ニ而も不致候而ハ却而其家業之芸道難取統躰之者も候ハ、其誤合申出候ハ、依事吟味も可有之旨、文政二年卯正月被 仰渡候事

一 芸道并功等之御取訳を以、代々御小姓等被召出候家筋之者、二男以下別立之儀、向後願出候共、三代迄ハ被成御免間敷、乍然四代ニもおよひ候ハ全躰之御小姓と同様、分地之依程合ハ別立被仰付候、且又學問武芸御用立候御取訳を以、代々御小姓等被召出候家筋之者、二男以下別立候儀ハ數代連統之御小姓等家筋同様之御取扱可被仰付、被仰出候旨、文政二年卯十月被 仰渡候事

一 郷養子家筋ハ二男以下別立之儀、及四代ニも候ハ、代々御小姓等被召出候者同様、別立可被仰付被仰出候旨、文政九年戌八月被 仰渡候事
一 繼目家督等被仰付候節八歳より以下之者共ハ、名代を以、家筋之進上

物差上御礼申上度旨、一類より可願出との趣、享保五年被仰渡置候処、其後九歳以上之者親類より願出候も有之候間、以来享保之度仰渡通、八歳以下之者迄親類より可願出旨、文政十年亥十二月被仰渡候事
諸向養子之儀、是迄年輩不相当之願モ候間、向後家督之者ハ四拾歳、部屋栖者ハ五拾歳以上ニ而、願出候様可相心得旨、天保三年辰五月被仰渡候事

但病身又ハ芸道等ニ付、無拠依訊願出候向ハ、是迄之通可有之候養子願出置何分申渡無之内、養父致死去候節ハ、最初之願書是迄申下
来候得共、以来ハ不及其儀、右之訊追訴を以可申出旨、天保十亥六月被仰渡候事

〔六十二〕 達 貴聞縁組之事

一 持高貳百石以上縁組之儀ハ願申出候上可致之、月次御礼罷出候御役人以上ハ高之不依多少可願出之、無役ニ而も奇合并以上ハ是又可為同前
尤一方式百石以上致所持候歟、又ハ月次ニ罷出候御役人以上ニ而候ハ、双方より可願出之、勿論其家内子并孫ニ而も縁組仕候ハ、双方親類共より右同前可申出之旨、宝永七年寅閏八月被 仰出候事

但幼少より縁組申合置候儀仕間敷由、正徳元年卯十月被仰出候事
依御免縁組仕居候者、無拠訊有之、縁組難遂者ハ双方親類共申談、同意之上、双方親類連名ニ而双方より願申出等ニ正徳三年巳七月被相定候事

右縁組之儀、傍輩之子を内約相極置、願之通屹と被仰付、縁を結罷在事候処、御当地之儀、諸国之格式相替、女房離別願申出候者多有之候、屹と奉願為被仰付事候条、軽々敷其恐を不存、又ハ互ニ不義之至ニ相聞得、旁以風俗不宜候、依之先頃為被 仰出旨も有之候間
猶奉得其意、離別之願申出候者可有之時ハ右件を以相改候上、可逐披露候、右之旨趣不相違候哉、此間多々間違之儀有之候付、此節又申渡事候旨、正徳二巳七月被 仰渡候事

一 月次御礼罷出候御役人縁組仕候節ハ持高有無ニ無構申出等之処、願をも不申出、内ニ而縁組仕候人も有之由、此段ハ心得違ニ而候間、向後月次御礼罷出候御役人ハ不及申、其家内之者迄も縁組仕候節ハ支配頭ニ相附、願可申出候、尤縁組願申出候儀付而ハ先年被 仰出趣有之旨聞八月申渡置候得共、其内末ニ而取違之儀も有之候故、此節別紙之通、又申渡事候間、可得其意候、右外之儀ハ先年申渡置候通、別ニ相替儀無之候間、左様相心得、自今以後取違不仕様組中ニ可被申渡置旨、正徳五年末十月被 仰渡候事

一 初而之 御目見不致者、縁組之願申出候而も取揚間敷旨、正徳五年末十月被仰渡候事

一 御一門・一所持并一所持格・組頭・番頭・組頭列以上、御家老・直觸格迄ハ無役ニ而も月番御家老ニ双方より願可申出候

一 但聲方父無之者ハ近キ親類より願可申候、舅方も同断
右格之人ニ而も御役相勤候者ハ其御役之頭ニ相附願可申出候

一 聲成候者、無役ニ而も親右之御役相勤候ハ、親御役之頭ニ相附、可申出候

一 縁組之儀、一方ハ申出ニ不及者ニ而も一方申出格之者候ハ、双方より可申出候、支配違ニ而も其頭ニ願書可差出候、御家老方ニ而双方之願書取揃可申上候

一 願申上縁組仕候者、致離別候ハ、其段頭ニ可申出候

一 右之通向後相心得候様ニと被 仰出候事

一 親御側方ニ相勤、伴表方ニ勤候者、縁組之願申出候節、前以親支配頭御側方ニ親より其届可申出候、尤其後表方ニ願書親より可差出候

一 親表方ニ相勤、伴御側方ニ相勤候者、伴縁組之儀願申出候節、右願書物親より可差出候

一 不依御側表、右準願可申出候

一 娘縁組之儀申出候節ハ伴縁組申出候次第ニ相替、早晚親支配頭ニ書物可差出候

一 右ハ縁組願、其外何角付願申出候次第、先年段々被仰渡置候得共、末々ニ而ハ取違有之、向後右之通相心得、間違無之様可被致沙汰旨

享保二酉八月被仰渡候事

一 月次之御礼罷出御役人ハ其頭ニ常ニ致願事候格式可致候、無役ニ而も寄合并以上ハ高之不致多少、其外ハ式百石以上其頭ニ可願出旨、正徳五年未十月被仰渡候事

一 縁組願之儀付而ハ兼而御格式被定置候、高式百石以上之人之家内罷居候而も縁組之願申上候節ハ達 費聞管候付、右御格式向後可被相心得旨正徳六申二月被仰渡候事

一 御隠居様御方相勤候人、縁組願申出候節、一方ハ願不申出格式之人ハ願申出不及、御免被成管候、尤双方より申出格式之人ハ勿論申出管、先頃被相極候条、此旨被承置、此以後右躰之願申出候節ハ右格式を以時々相調、間違無之様可致旨、享保九辰正月被仰渡候事

一 表方之儀ハ此内之通可被相心得旨、被仰渡候事
一 御一門より寄合并、御役人ハ納殿役人以上縁組有来通、右外之御役人并無役式百石以上、向後縁組願申出不及旨、延享五年辰二月被相定候事

一 縁組離別願申出候節、今一往致意見難遂段承届、願出候様申渡、書物相返御格候得共、最初願出候節、難達承届候上ニ而願出管候条、向後ハ一度願出候節之書物取揚、差出候様、延享五辰二月被仰渡候事

一 上原雪阿弥^五田原喜藤次妹御免之上致縁組居候処、雪阿弥相果、子共も無之候付、喜藤次方^五妹引取申度旨申出趣有之候、引取候儀勝手次第致候様可被申渡候

一 縁組離別之儀、最初縁組願相立候者ニ而も以後願相立不及格ニ罷成候ハ、願立ニ不及旨、先年申渡置候、前条喜藤次妹事も離別同前之儀候条、向後右躰之儀、親類共申談、願申出者有之候ハ、組頭より願之通可被申渡旨、延享元年子九月被仰渡候事

一 智養子并違爰
一 本文ケ条願申出候節、御側支配之者ニ而も小役人躰之者ハ 御内意申出与所^五申出、与頭繼書ヲ以表方^五申出管候

一 繼目養子并違爰
一 繼目智養子并違爰

一 別立
一 嫡子成
一 縁組并離別
一 外城養子

一 右願御側支配之者より申出候節、書物差出候様、又ハ御内意申上候儀ハ此内之通ニ而御側方承候御家老^五取次、御側御用人より遂披露承届候上、直右取次より表方月番御家老^五遂披露、書物之儀ハ差回数第、若御年寄^五可相渡候
一 右之通御側方^五相附願申出候者も誰人ニよらず願之通被仰付候節ハ於數舞台、表御用人を以申渡管候
一 御側支配勤之内相果候者、繼目願出候節、俸表方勤、又ハ勤方無之者候ハ、表方^五相附、願書可差出候、申渡之儀も表方ニ而有之管候
一 右ハ支配分ニ而只今迄首尾有之候得共、此節より右之通被相改候条組頭并御側表御用人^五可申渡候

「六十三」 諸士子共半元服前髮取之事

一 諸士子共半元服之儀、式拾歳定置、其内ニ而も平生より勢も大キ有之尋常ニ生立候者共ハ月番御家老・大御目附見分之上、致免許候様ニと被仰付置候得共、此以後ハ於組所組頭致見分、可相濟候、左候而時、其首尾大御目附^五申出候様ニと宝永五年子正月被仰付候事

一 前髮取之儀も廿三歳極置、勢大キ有之候者共ハ前条同断被仰付置候得共、向後ハ半元服同前、組頭見分之上、令免許、其首尾大御目附^五申出候様ニと宝永五年子正月より被仰付候事

一 角入前髮取、以前より被仰付儀共有之候得共、比日ニも未勢大キ無之者角入前髮取候者多相見得候、御見合を以被仰付儀ハ格別、大身小身共向後十七之五月角入、十八之二月前髮取可申候、此御定之通、少も不相替様可致由、正徳六年申四月被 仰出候事

一 組中之面々角入前髮取之儀、此内ハ年生無構、見分之上差免事候得共此節より被相改、十七歳之五月角入、十八歳之二月前髮取被差免客候条、角入前髮取願出候者共致吟味可被申出候、尤見分其外之儀ハ此内之通、諸事可被相心得旨、享保十二末十月被仰渡候事

一 角入前髮取之儀付而ハ年生被定置候通ニ候、然共若年之御より行跡能徒夜行等も不致、行跡宜者御定年生一年早ク候而も角入前髮取之儀、吟味之上、相調可被申出候、右次第ニ而組頭より一度も呵杯ニ逢不申勢比相応相見得、行跡も宜段被承届候者ハ御定之年生二年ニ而も早ク角入之儀、相調可被申出候、右通ニ而一年又ハ二年も早ク角入御免之者、弥以律儀罷成、行跡宜者ハ吟味之上、一年又ハ二年ニ而も早ク前髮取之儀も吟味之上、相調可被申出候、左候ハ、御家老中見分之上、何分も可申渡候、当分角入罷居候者も右之趣を以相しらへ、行跡宜者ハ御定之年月不能成候而も前髮取之儀可被申出旨、元文元辰五月被相定候事

一 角入前髮取之儀、向後初而之 御目見相濟候以後可願出旨、今日拙書を以申渡候、右ニ付而ハ角入前髮取願書物之内ニ初而之 御目見相濟

候訳、書加候様可被申渡旨、延享四年卯七月被仰渡候事

一 諸士子共角入前髮取願、年生被極置候得共、向後之儀ハ年生之不及極初而之 御目見相濟、勢比相応相見得候者ハ組頭より可被申出候、見分之上何分ニも可申渡候

一 諸所ニ勤方付、引越居候者、出舎入御暇被下置候者之子共、角入前髮取之願初而之 御目見相濟、勢比相応相見得候者ハ御当地不及差越、其所より組頭^五相附、願可申出候、不及見分、何分も可申渡候

右之通延享五年辰四月被仰渡候事

一 角入前髮取之儀、不及年生之趣、勢長ケ相応之者ハ角入前髮取被差免事候処、角入ハ拾三四歳、前髮取ハ拾五歳相成候節、差免候節被究置候事

一 小番之儀、若年寄支配之事候間、角入前髮取願申出候節ハ月番若年寄宅^五对客ニ罷越、其後右之願可差出候、尤对客前右舍之段内意^五申込置候

(末) 本文ニ付而ハ支配之事候故、角入前髮取候様若年寄手前より申渡、月番御家老^五ハ右之段届可申出置旨、被仰付候事

右之通以来被仰付候旨、天明七年末二月被仰渡候事

一 新番之面々角入前髮取之願申出候節ハ前以右舍之段、内意申込置、月番大番頭宅^五罷越、面会相濟、其後右願可差出候、尤支配之事候間、角入前髮取候様大番頭より相達、月番御家老^五も右之段ハ届可申出置候

一 御小姓与之面々右同断之願申出候節、御小姓与番頭宅ニ而前条同断之始末ニ可致候、尤支配之事候間、角入前髮取候様御小姓組番頭より相達、月番御家老^五も右之段ハ届可申出置候

右之通被 仰付候旨天明七年末二月被 仰渡候事

「六十四」 諸人訴訟之事

一 諸人より訴訟申出候節八月番之御家老出勤前、於宅承之候様ニと宝永
三戌三月被 仰出候事

右之通被仰渡置候得共、御家老申之分ハ向後月番御用人ニ相附、可
申出旨、享保十五戌十月被 仰渡置候事

要
用
集
五

「六十五」 諸郷郡分地頭附升郷士人躰持高之事

薩摩国拾三郡

鹿兒島郡

式拾五ヶ村

坂元村

中 村

荒田村

田上村

原良村

岡之原村

皆房村

花棚村

比志島村

但小山田村比志島村八日置郡之内

鹿兒島

高式万四千三百八拾五石壹斗式升八合壹勺壹才

用夫五千九人

野町用夫三拾八人

浦用夫四拾人

赤 松 主 水

吉 田

郷士惣人数五百四拾式人

郷士人躰式百式拾五人

高五千七百六拾壹石六斗壹升九合七勺壹才

高千三百九斗六升七合三勺六才

内拾壹石八斗四升七合九勺式才

五ヶ村

本城村

草牟田村

西別府村

西田村

犬迫村

永吉村

花野村

下田村

塩屋村

上伊敷村

武 村

郡元村

小野村

下伊敷村

川上村

吉野村

小山田村

西佐多浦村

用夫四百六拾六人

野町用夫式拾八人

鹿兒島より四里半

東佐多浦村

谿山郡

島 津 右 門

谷 山

郷士惣人数千式百六拾七人

郷士人躰六百式拾八人

高壹万三千九百式拾石三斗七升壹合三才

高千九百七拾三石四斗式合九才

内百拾八石三斗八升六合四勺六才

九ヶ村

上福元村

平川村

宇宿村

用夫式千式百八拾八人

浦用夫千六百八拾三人

鹿兒島より式里半海路式里半

給黎郡

肝付主殿私領

喜 入

家中士惣人数八百九拾八人

家中士人躰式百七拾八人

高四千八百八拾三石四斗七升九勺七才

高九百八拾八石七斗四升五合四勺壹才

内百拾壹石八斗三升三合式勺九才

式ヶ村

上 村

用夫千五百拾式人

中 村

五ヶ別府村

塩屋村

所惣高

郷士高

寺 高

所惣高

家中高

寺 高

郷士高

所惣高

家中高

寺 高

郷士高

所惣高

家中高

寺 高

郷士高

所惣高

家中高

寺 高

郷士高

所惣高

本名村

宮之浦村

浦用夫百拾五人

鹿兒島より七里海路七里

島津 右門私領

知 覽

家中士惣人数千九百五拾壹人

家中士人隸五百四拾七人

高五千四百五拾九石六斗式升九合六勺五才

高千五百五拾壹石五斗七才三勺九才

内六拾壹石五斗式升七合四勺五才

六ヶ村

東別府村

厚地村

用夫式千貳百貳人

野町用夫九人

浦用夫八百四人

鹿兒島より八里拾九町海路貳拾壹里余

揖宿郡

喜 入 多 門

指 宿

郷士惣人数五百六拾八人

郷士人隸三百人

高八千三百拾五石七斗五升壹合四才

高貳千八百八拾壹石三升八合五勺五才

内拾八石

四ヶ村

拾貳町村

西方村

用夫貳千五百五拾七人

浦用夫千四百四拾九人

鹿兒島より拾里海路拾里

郡 村

永里村

所惣高

家中高

寺社高

島津安芸殿私領
今和泉

家中士惣人数五百四拾四人

家中士人隸貳百八拾八人

高三千三百貳拾九石三斗四升四合三勺七才

高九百貳拾石

内百三拾石

五ヶ村

小牧村

池田村

用夫千拾五人

野町用夫拾八人

浦用夫貳百七拾五人

鹿兒島より九里半海路九里半

名 越 彦太夫

山 川

郷士惣人数百四拾五人

郷士人隸八拾貳人

高四千四拾五石貳斗貳升貳合壹勺七才

高九百三拾壹石貳斗七升四合壹勺五才

内三拾九石貳斗八合三勺四才

四ヶ村

福元村

岡兒ヶ水村

但大山村岡兒ヶ水村ハ穎娃郡之内

用夫千三拾八人

浦用夫六百九拾壹人

鹿兒島より拾三里海路拾三里

穎娃郡
島津 藏 人

新西万村

所惣高

家中高

寺 高

大山村

所惣高

郷士高

寺社高

穎 娃

郷士惣人数九百七拾九人

郷士人躰四百四拾七人

高九千六百拾式石三斗七升式合四勺

高千四百九十九斗九升六合五勺壹才

内式百三拾五石壹斗四升六合八勺四才

六ヶ村

郡 村

牧之内村

用夫式千四百七拾七人

野町用夫拾人

浦用夫千三百九拾三人

鹿児島より拾式里半

河辺郡

明 所

川 辺

郷士惣人数九百貳拾九人

郷士人躰三百五拾三人

高壹万三百三拾五石壹斗五升七合式勺六才

高千五百五拾壹石四斗七升壹合五勺

内七拾三石壹斗式升式合七勺壹才

拾三ヶ村

清水村

永田村

古殿村

田部田村

今田村

用夫式千貳百七拾五人

野町用夫八拾式人

鹿児島より七里半

別府村

拾町村

御領村

仙田村

所惣高

郷士高

寺 高

所惣高

郷士高

寺 高

平山村

野崎村

高田村

神殿村

野間村

両添村

野崎村

野崎村

小野村

野崎村

野崎村

野崎村

野崎村

川 上 筑 後

加世田

郷士惣人数貳千九百貳拾七人

郷士人躰九百三拾四人

高壹万三千五百七拾四石八斗式升壹勺三才

高三千七百八拾七石式斗六升九合六勺九才

内四百六拾四石九斗壹升六合六勺六才

拾四ヶ村

唐仁原村

地頭所村

津貫村

益山村

小湊村

用夫四千七百八人

野町用夫四拾人

浦用夫式千七百壹人

鹿児島より伊作筋九里半川辺筋九里半

高 津 登

山 田

郷士惣人数五百七拾六人

郷士人躰百六拾七人

高式千八百拾八石三斗六升七合壹勺八才

高三百五拾三石四斗五升三合壹勺四才

内式石

三ヶ村

上山田村

用夫五百三拾六人

鹿児島より九里

喜人 多門私領

鹿 籠

片浦村

宮原村

川畑村

大浦村

武田村

村原村

赤生木村

別府田間村

内山田村

所惣高

郷士高

寺 高

所惣高

郷士高

寺 高

所惣高

郷士高

寺 高

下山田村

下山田村

下山田村

下山田村

下山田村

家中土惣人数千五百六人
家中土人躰三百貳拾九人

高三千三百三拾石八斗壹升三合貳勺六才
高七百三石七斗六升四合八勺八才

内百貳拾三石五斗五升壹合七勺七才
壹ヶ村

鹿籠村

用夫千三百拾八人

浦用夫千四拾四人

鹿兒島より拾三里海路貳拾五里

穎 娃 織 部

坊 泊

郷土惣人数貳百六拾六人

郷土人躰九拾人

高五百拾貳石四斗三升六合壹勺三才

高七百三拾四石七斗九升七合壹勺四才

内貳百九拾六石七斗五升壹合壹勺七才

貳ヶ村

坊 村 泊 村

用夫五百四拾貳人

浦用夫三百五拾八人

鹿兒島より川辺筋拾三里加世田筋拾四里半

伊 集 院 亘

久志秋目

郷土惣人数三百四拾八人

郷土人躰百拾七人

高六百三拾石三升九合八勺

高貳百六石八斗三升四合三勺七才

貳ヶ村

久志村

秋目村

所惣高

家中高

寺社高

所惣高

郷土高

寺 高

用夫三百六拾八人

浦用夫六百六拾八人

鹿兒島より加世田筋拾三里川辺筋拾三里半

御船奉行支配

硫 磺 島

高三拾六石五斗六升五合六勺貳才

壹ヶ村

硫 磺 島

用夫百拾三人

鹿兒島より海路三拾壹里

御船奉行支配

竹 島

高貳拾石六斗八升九合五勺八才

壹ヶ村

竹 島

用夫拾八人

鹿兒島より海路貳拾八里

御船奉行支配

黒 島

高四拾五石壹斗六升四勺壹才

貳ヶ村

大 里 村

用夫百貳拾人

鹿兒島より海路四拾壹里

御船奉行支配

七 島

口 之 島

高百拾石八斗壹升三合壹勺貳才

用夫三拾貳人

鹿兒島より海路七拾壹里

所惣高

所惣高

所惣高

所惣高

中之島

高八拾貳石三斗五升四合壹勺七才

所惣高

用夫五拾貳人

鹿兒島より海路七拾六里

臥蛇島

高三石九斗九升六合八勺七才

所惣高

用夫貳拾六人

鹿兒島より海路八拾壹里

諏訪瀨島

但諏訪之瀨島之儀文化十四年大燃ニ付相禿年貢等御免

高百貳拾七石五斗貳升九合壹勺七才

所惣高

用夫七人

但燃以後都而中之島ニ移居候

鹿兒島より海路八拾四里

悪石島

高三拾五石貳升貳合九勺壹才

所惣高

用夫四拾人

鹿兒島より海路九拾里

平島

高七拾五石八斗三合壹勺貳才

所惣高

用夫三拾壹人

鹿兒島より海路八拾九里

宝島

高三百九拾五石六斗四升四合七勺九才

所惣高

用夫百貳拾人

鹿兒島より海路百拾四里

高八斗八升九合五勺八才

右七島中寺高

阿多郡

田直之進

阿多

郷土惣人数七百七拾壹人

郷土人躰三百三拾七人

高四千八百九拾六石六斗壹升七合五勺壹才

高九百九拾壹石壹斗六升三合三勺

内三拾八石四斗八升九合五勺八才

六ヶ村

新山村

花瀨村

用夫千四百拾三人

野町用夫三拾五人

鹿兒島より八里半

伊木 七郎右衛門

田布施

郷土惣人数七百六拾九人

郷土人躰三百七拾三人

高六千四百八拾五石九斗貳升九合五勺四才

高六百九拾八石七升三合貳勺七才

内百三拾六石

四ヶ村

大野村

尾下村

用夫八百四拾六人

野町用夫三拾六人

浦用夫貳百貳拾貳人

鹿兒島より七里半

山口直記

伊作

郷土惣人数千三百五拾四人

郷土人躰六百六拾壹人

宮崎村

中津野村

所惣高

郷土高

所惣高

郷土高

池辺村

高橋村

高六千九百八拾五石卷斗五升八合式勺九才
高千八百式拾石八斗三升八合八勺八才
内百九拾九石式斗四升五合八勺四才
拾ケ村
所惣高 郷土高 寺社高

中原村 入来村 与倉村
中里村 今田村 湯浦村
和田村 小野村 田尻村

花熟里村

用夫千式百九拾人

野町用夫百式拾人

浦用夫三百三拾七人

鹿兒島より六里半

日置郡

小松 相馬私領

吉利

家中土惣人数四百九拾三人

家中土人躰百八拾四人

高式千百拾九石式斗式升八合六勺三才

高五百九拾石五斗八升六合七才

内百五拾八石式斗六合三勺三才

卷ケ村

吉利村

用夫五百七拾三人

浦用夫四人

鹿兒島より六里半海路三拾九里半

島津 主殿私領

永吉

家中土惣人数七百九拾人

家中土人躰三百拾四人

高式千三百七拾七石式斗四升九合式勺四才

所惣高

高八百拾五石卷斗式升九合式勺八才
内百八石三斗六升七合九勺式才
卷ケ村
所惣高 家中高 寺社高

永吉村

用夫三百拾人

浦用夫拾五人

鹿兒島より七里半海路四拾里

島津 下総私領

日置

家中土惣人数千五百七拾人

家中土人躰七百拾四人

高三千百六拾八石卷斗三升式合式勺九才

高千四百九拾七石六斗八升三合式勺八才

内百五拾三石七斗四升六合八勺五才

式ケ村

日置村

用夫九百拾六人

浦用夫式百七拾七人

鹿兒島より六里半

樺山 伊織

伊集院

郷土惣人数九百六拾七人

郷土人躰四百式拾五人

高式万五千五百九拾六石八斗七升八合五勺

高式千五百八拾八石式斗四升九合七勺四才

内六百七拾卷石七斗

式拾九ケ村

上神殿村

土橋村

麦生山村

下神殿村

入佐村

苗代川村

徳重村

郡村

人田村

所惣高 郷土高 寺高

所惣高 家中高 寺社高

福山村 中川村
 石谷村 有屋田村
 寺脇村 恋之原村
 上谷口村 下谷口村
 飯牟礼村 桑畑村
 神之川村 清藤村
 春山村 猪鹿倉村
 用夫式千八百四拾九人
 野町用夫百貳拾壹人
 浦用夫八拾九人
 鹿兒島より四里半
 郷原 郷
 山 郷
 郷士惣人数九百五拾五人
 郷士人隼三百七拾八人
 高五千六百八拾四石貳合貳勺五才
 高六百三拾八石五斗四升五合八勺八才
 内貳石
 六ヶ村
 厚地村 東俣村
 川田村 油須木村
 用夫五百三拾四人
 鹿兒島より三里半
 明所
 市来
 郷士惣人数千四百六拾貳人
 郷士人隼四百四拾八人
 高壹万千六拾石五斗三升三合九勺
 高千八百貳拾石五斗八升五合三勺三才
 内八拾四石壹升四勺壹才
 嶽村
 直木村
 宮田村
 野田村
 古城村
 竹之山村
 所惣高
 郷士高
 寺高
 所惣高
 郷士高
 寺高

八ヶ村
 長里村 湯田村
 大里村 神之川村
 川上村 湊村
 用夫式千九百八拾四人
 野町用夫三拾五人
 浦用夫八百四拾八人
 鹿兒島より六里
 豎山 武兵衛
 串木野
 郷士惣人数七百拾貳人
 郷士人隼三百貳拾五人
 高八千貳百四拾七石四斗八合壹勺四才
 高貳千三百五拾五石六斗九升五合四勺貳才
 内四拾四石八斗貳升八勺
 四ヶ村
 上名村 下名村
 羽島村 荒川村
 但羽島村ハ薩摩郡之内
 用夫式千三百九拾五人
 浦用夫式千百壹人
 鹿兒島より九里
 薩摩郡
 大迫源七
 百次
 郷士惣人数百八拾六人
 郷士人隼六拾八人
 高千貳百五拾九石貳斗貳升五合三才
 高三百三拾石八斗八升五合四勺五才
 内三石六斗
 湯田村
 養母村
 伊作田村
 所惣高
 郷士高
 寺高
 所惣高
 郷士高
 寺高

式ケ村

百次村

田崎村

用夫百五拾七人

鹿兒島より拾壹里

澁谷 左 膳

山 田

郷士惣人数貳百九拾五人

郷士人躰百八人

高千四百貳拾壹石七斗八升九合七勺九才

高三百九拾九石八斗四升貳勺三才

内五石三斗

壹ケ村

山田村

用夫九拾六人

鹿兒島より拾壹里半

伊 勢 雅 楽

隈 之 城

郷士惣人数九百九拾五人

郷士人躰四百五人

高六千六百六拾九石九斗八升八合三勺四才

高千四百六拾貳石八升三合貳勺五才

内四拾七石六斗貳升五合

三ケ村

宮里村

東手村

西手村

用夫七百五拾壹人

浦用夫三百八拾貳人

鹿兒島より拾壹里

北郷 作左衛門私領

平 佐

家中士惣人数千五百八拾三人

家中士人躰六百三拾八人

高貳千五百七拾八石七斗七升九合八勺九才

高千八百五拾四石九斗九升五合壹勺壹才

内百六拾壹石四斗八升七勺三才

式ケ村

平佐村

天辰村

用夫九拾四人

鹿兒島より拾貳里海路五拾五里

島 津 要 人

高 江

郷士惣人数四百貳拾四人

郷士人躰百六拾五人

高三千三百八拾七石貳斗八升壹合五勺四才

高三百四拾石貳斗六升八合八勺九才

内貳石

三ケ村

高江村

久見崎村

寄田村

用夫三百五拾貳人

鹿兒島より拾三里半

島 津 内 記

中 郷

郷士惣人数百八拾六人

郷士人躰七拾貳人

高千三百拾五石八斗六合五勺五才

高百拾七石七斗貳合七勺五才

内貳石

壹ケ村

中郷村

用夫貳百八人

鹿兒島より拾貳里半

所惣高

家中高

寺社高

郷士高

寺 高

所惣高

郷士高

寺 高

所惣高

郷士高

寺 高

所惣高

郷士高

寺 高

本田 六左衛門
東 郷

郷士惣人数九百六拾式人
郷士人隸三百四拾式人

高七千九百九拾式石五斗式升式才
高千百壹石三斗三升八合六勺

内拾四石
八ヶ村

宍野村 田海村
斧淵村 山田村
鳥丸村 白浜村

用夫九百拾八人
野町用夫百三拾四人

浦用夫五拾七人
鹿兒島より入來筋拾式里

入來院平馬私領
入 來

家中士惣人数千八百八拾四人
家中士人隸四百式拾四人

高五千三拾三石四斗七升六合七勺六才
高千四百五拾式石九斗九升七合八勺壹才

内式百拾壹石九升七勺
式ヶ村

浦之名村 副田村
用夫四百壹人

野町用夫四拾八人
鹿兒島より八里

新納 主 税
樋 脇

郷士惣人数六百五拾人

所惣高
郷士高
寺 高

南瀬村
藤川村

郷士人隸式百七拾五人

高五千六百八拾四石式合式勺五才
高千百三拾壹石九斗式升五合三勺四才

内七石三斗
六ヶ村

桶元村 久住村
塔之原村 市比野村
用夫九百七拾人

野町用夫五人
鹿兒島より拾里

伊佐郡

明 所
山 崎

郷士惣人数式百九拾三人
郷士人隸百拾六人

高四千八百式拾八石壹斗九升八合四勺七才
高七百六拾三石四斗九升五勺七才

五ヶ村
久富木村 山崎村
白男川村 二渡村

但泊野村白男川村二渡村薩摩郡之内
用夫千拾九人

野町用夫拾七人
鹿兒島より拾里半

島津 図書私領
宮之城

家中士惣人数式千五百式拾壹人
家中士人隸千三百拾式人

高八千七百五拾五石九斗四升九合五勺七才
高三千九百六拾三石壹斗五合六勺三才

所惣高
郷士高
寺 高

倉野村
中 村

所惣高
郷士高

泊野村

所惣高
家中高

内四百九拾四石九斗三升四合九才

寺高

八ヶ村

屋地村

平川村

柘野村

時吉村

求名村

船木村

湯田村

虎居村

用夫千九拾壹人

野町用夫百六人

鹿児島より拾壹里半

田原 藤太左衛門

鶴田

郷士惣人数四百貳人

郷士人躰貳百拾人

高五千五百五拾六石八斗八升五合三勺五才

高千貳百八拾四石貳斗八升八合四勺四才

内貳石六斗四升六合四勺七才

四ヶ村

紫尾村

神子村

鶴田村

柏原村

用夫六百拾六人

野町用夫三拾四人

鹿児島より拾壹里半

島津 左 膳

大 村

郷士惣人数五百八人

郷士人躰貳百貳拾貳人

高六千五百五拾四石壹斗六升六合四勺六才

高千三百三拾六石八斗壹升貳合三才

内九石

四ヶ村

南方村

北方村

上手村

下手村

用夫六百五拾貳人

野町用夫拾貳人

鹿児島より拾里半

島津 豊後私領

黒 木

家中士惣人数七百五拾貳人

家中士人躰四百九人

高千七百拾四石三斗七合貳勺九才

高貳百九拾九石

内五拾六石

壹ヶ村

黒木村

用夫百五人

鹿児島より九里半

島津 勘解由私領

佐 志

家中士惣人数三百四拾壹人

家中士人躰百三拾九人

高貳千五百六拾貳石七斗五升六合五勺七才

高五百八石貳斗九升五合三勺貳才

内三拾壹石六斗三升八合貳勺

貳ヶ村

広瀬村

田原村

用夫三百三拾七人

鹿児島より拾壹里

榊山主殿私領

蘭牟田

家中士惣人数六百拾四人

家中士人躰百五拾人

所惣高

家中高

寺 高

所惣高

家中高

寺 高

高千六百九拾四石六斗八升九合六才
高貳百五拾石七斗六升九合壹勺貳才
内四拾六石九斗貳升四勺壹才

所惣高
家中高
寺社高

壹ヶ村
蘭牟田村
用夫九拾四人
鹿尻島より八里

鳥津豊後差引

大 口
郷士惣人数七百六拾六人
郷士人躰三百九拾三人

高壹万七千七百七拾九石貳斗四升壹合六勺五才
高貳千七百六拾壹石九斗八升壹合九勺七才
内三拾六石

拾五ヶ村
里 村
牛尾村
篠原村
瀨辺村
大田村
但市山村花北村八隅州菱刈郡之内
用夫六百七拾貳人
町野用夫五拾五人
鹿尻島より拾五里半内海路五里
山口 右源太

青木村
渡田村
平出水村
原田村
市山村
目丸村
木之氏村
小木原村
小川内村
花北村

郷士高
郷士高
寺 高

郷士惣人数三百六拾六人
郷士人躰百三拾七人
高六千拾七石壹斗六升四合三勺七才
高五百六拾六石四斗五升八合五勺六才

所惣高
郷士高

羽 月

内三石五斗
九ヶ村
田代村
金波田村
宮人村
用夫三百拾壹人
野町用夫三人
鹿尻島より拾五里加治木筋内海路五里
九良賀野 巨

所惣高
郷士高

山 野
郷士惣人数貳百五人
郷士人躰九拾八人
高貳千六拾九石九斗八升六合三勺九才
高四百三拾壹石壹斗九升六合貳勺六才
内貳石
壹ヶ村
山野村
用夫百壹人
野町用夫拾九人
鹿尻島より拾七里内海路五里
出水郡
鳥津 豊 後
出 水
郷士惣人数貳千九百六拾三人
郷士人躰千百拾貳人
高貳万貳千百拾六石貳斗壹升六合六勺五才
高八千八百八拾五石九斗四升四合八才
内百拾八石八斗三升四合三勺八才
拾壹ヶ村
庄 村
六月田村
西目村

所惣高
郷士高

江内村	上知識村	下知識村
武元村	上鯖淵村	下鯖淵村
上大河内村	下大河内村	
用夫貳千六拾六人		
野町用夫五拾五人		
浦用夫七百五拾壹人		
鹿兒島より紫尾筋拾七里半		
加治木筋貳拾貳里内海路五里		
川内筋貳拾三里		
三原 藤五郎		
高尾野		
郷士惣人数七百八拾六人		
郷士人鉢三百四拾七人		
高五千五百拾貳石四斗三升壹合七勺九才	所惣高	
高千五拾七石六斗壹升貳合七勺壹才	郷士高	
内拾三石七斗貳合八才	寺 高	
六ヶ村		
大窪田村	柴引村	下高尾野村
唐笠木村	上水流村	下水流村
用夫三百五拾九人		
野町用夫貳拾八人		
鹿兒島より貳拾貳里		
猪 飼 鋤太郎		
野 田		
郷士惣人数三百八拾三人		
郷士人鉢百七拾七人		
高四千八百八拾八石三斗七合七勺三才	所惣高	
高五百拾石四斗四升六合七勺	郷士高	
内四石	寺 高	
貳ヶ村		

上名村	下名村
用夫三百七拾五人	
野町用夫拾四人	
鹿兒島より貳拾壹里	
藤 井 綴 喜	
長 島	
郷士惣人数千五百拾三人	
郷士人鉢四百拾人	
高三千六百七拾五石六斗三合壹勺	所惣高
高千三百六拾九石六斗六升八合四勺三才	郷士高
内拾石	寺 高
拾貳ヶ村	
平尾村	川床村
鷹巢村	下山門野村
城川内村	蔵之元村
山門野村	獅子島
用夫六百五拾五人	
浦用夫八百六人	
鹿兒島より貳拾三里	
高 津 求 馬	
阿久根	
郷士惣人数五百五拾九人	
郷士人鉢百三拾八人	
高八千七百八拾三石四斗六升八合五勺九才	所惣高
高千六百拾三石五斗五升三合壹勺貳才	郷士高
内三石貳斗七升八勺四才	寺 高
八ヶ村	
西目村	大川村
多田村	波留村
山下村	赤瀬川村
	鶴川内村
	折口村

用夫貳千七拾九人

浦用夫百七拾人

鹿兒島より拾九里

高城郡

町田 監物

高城

郷士惣人数千五百六拾八人

郷士人跡四百三拾壹人

高五千六百拾三石四斗九升八合七勺九才

高千四拾九石九斗三升三合九勺五才

内六石

五ヶ村

湯田村

用夫千三拾三人

野町用夫三拾三人

浦用夫百五拾四人

鹿兒島より拾三里

高田 十郎右衛門

水引

郷士惣人数五百七拾人

郷士人跡貳百八人

高七千百三石四斗九升八合七勺九才

高七百三拾六石九斗七升八合六勺貳才

内三拾五石三斗六升九合七勺九才

五ヶ村

大小路村

草道村

用夫千三百貳拾三人

浦用夫五百五拾三人

城上村

麦之浦村

麓村

郷士高

郷士高

郷士高

鹿兒島より拾貳里半

甑島郡

追水 善左衛門

甑島

郷士惣人数千九百五拾貳人

郷士人跡六百三人

高三千五百八拾壹石貳斗八升貳勺

高千六拾六石三斗貳升五合五勺三才

内貳石六斗

拾四ヶ村

上甑湊四ヶ所

小村八ヶ村

用夫千四百八拾人

浦用夫貳千五百五拾貳人

下甑湊三ヶ所

小村六ヶ村

用夫千六百八拾六人

浦用夫六百拾七人

上甑迄貳拾壹里内海路拾三里市来湊より

鹿兒島より

下甑迄貳拾九里内海路貳拾壹里市来湊より

合薩州諸郷五拾壹ヶ所

内拾三ヶ所私領

外硫磺島竹島黒島七島

合郷士惣人数三万七千七百七人

合郷士人跡万貳千四百貳拾七人

合惣高三拾貳万五千九百七拾七石九斗五升三合四勺四才

中甑村

江石村

桑浦村

小島村

里村

平良村

中野村

瀬上村

手打村

長浜村

片之浦村

青瀬村

蘭牟田村

瀬瀬之浦村

郷士高

郷士高

郷士高

合郷士高五万式千六百六拾五石三斗九升壹合八勺七才

内寺社高式千七百六拾四石三斗九升五合式勺三才

合家中士惣人数壹万四千七百四拾七人

合家中士人躰五千八百式拾六人

合家中士高壹万五千三百八拾六石六斗四升式合壹勺

内寺社高千七百四拾九石式斗九升七合七勺三才

合用夫六万七千七百五拾四人

合野町用夫千三百三拾五人

合浦用夫式万六百四拾五人

合諸島用夫五百五拾九人

但七島三島

大隅国八郡

大隅郡

有馬 舍人

桜 島

郷士惣人数千三百六拾式人

郷士人躰六百式拾七人

高式千六百拾壹石九斗壹合三勺

高七百拾四石式斗式升六合六勺

拾九ヶ村

武 村

西道村

白浜村

瀬戸村

野尻村

小池村

沖之島

用夫千九百六拾三人

鹿兒島より海路壹里

島 山 藤次郎

古里村

松浦村

脇 村

黒神村

赤水村

赤生原村

湯 村

二俣村

高免村

有 村

横山村

藤野村

所惣高 郷士高

牛 根

郷士惣人数三百九拾八人

郷士人躰三百九拾五人

高千式百六拾七石九斗六合九勺壹才

高百七拾九石八斗壹合式勺式才

三ヶ村

麓 村

用夫四百四拾八人

浦用夫式百式拾五人

鹿兒島より海路五里陸路拾四里半福山筋

高津讚岐殿私領

垂 水

家中士惣人数千三百六拾人

家中士人躰七百式拾人

高六千七百式拾三石三斗三升八合四才

高五千三百拾五石五斗五升式合九勺四才

内式百六拾三石八斗九升九合九勺四才

九ヶ村

田上村

中俣村

本城村

用夫八百式拾人

浦用夫三百五拾五人

鹿兒島より海路五里陸路拾六里福山筋

川 上 式 部

大根占

郷士惣人数三百三拾壹人

郷士人躰式百式人

高五千六百九拾九石壹斗四升壹合五勺五才

高式百式拾三石四斗四升六合三勺七才

境 村

所惣高 郷士高

海瀉村

浜平村

柁原村

所惣高 家中高 寺社高

所惣高 郷士高

内式石

三ヶ村

城元村

用夫八百九拾六人

浦用夫百壹人

鹿兒島より 占江筋拾三里内海路八里海路拾貳里
陸路貳拾五里福山筋

鎌田 圖書

小根占

郷士惣人数五百五拾人

郷士人隸三百壹人

高七千四百拾六石六斗壹升貳合壹勺九才

高五百六石壹斗三升貳合八才

内三拾七石

五ヶ村

辺田村

川北村

用夫千四百六拾壹人

浦用夫百拾八人

鹿兒島より 占江筋拾四里内海路八里海路拾三里
陸路貳拾六里福山筋

川上 龍衛

佐多

郷士惣人数貳百九拾五人

郷士人隸百八拾四人

高三千八百貳拾三石七斗九升壹合四勺四才

高九拾壹石壹斗三升六勺四才

内式石

四ヶ村

伊座敷村

馬籠村

郡村

寺高

神之川村

馬場村

所惣高
郷士高
寺高

山元村

横別府村

川南村

川南村

川南村

川南村

川南村

川南村

川南村

川南村

川南村

川南村

川南村

川南村

川南村

辺塚村

用夫七百貳拾人

浦用夫四百九拾壹人

鹿兒島より 占江筋拾八里半内海路拾八里海路拾
八里半陸路三拾里半福山筋

種子島 加次右衛門

田代

郷士惣人数貳百貳拾八人

郷士人隸百三拾人

高貳千五百七拾石九斗九升五合七勺貳才

高三百九拾壹石八斗七升九合壹勺五才

内五石

式ヶ村

麓村

用夫三百八拾五人

鹿兒島より 小根占筋拾五里内海路拾三里古江筋拾六里
内海路八里陸路貳拾七里福山筋

肝属郡

得能 彦左衛門

内之浦

郷士惣人数貳百三拾五人

郷士人隸百拾貳人

高四千四百九拾七石壹斗八升五合六勺九才

高三百貳拾貳石七斗九升五合八勺九才

内式石

三ヶ村

北方村

用夫貳百八拾壹人

浦用夫三百拾壹人

鹿兒島より古江筋拾九里内海路八里陸路貳拾八里福山筋

南方村

岸良村

所惣高
郷士高
寺高

所惣高
郷士高
寺高

島津隼 見
高山

郷士惣人数五百九拾五人
郷士人隼三百貳拾貳人

高老万貳百八拾五石九斗九升三合九勺四才
高貳千五百四拾八石壹斗貳合壹勺壹才

内四拾六石七斗八合
七ヶ村
所惣高
郷士高
寺高

後田村 宮下村

野崎村 波見村

前田村 富山村

用夫千八拾九人

野町用夫八拾四人

浦用夫八拾七人

鹿兒島より古江筋拾三里内海路八里陸路貳拾五里福山筋

和田 助太夫
始 良

郷士惣人数百八拾壹人

郷士人隼百貳人

高六千九百三拾六石五斗五升四合六才

高七百拾四石七斗壹升四合七才

内七拾貳石九斗四升三合七勺五才

三ヶ村

麓 村

上名村

下名村

用夫五百三拾四人

野町用夫三拾貳人

鹿兒島より古江筋拾貳里半内海路八里

陸路貳拾四里半福山筋

新納 内 蔵

大始良

郷士惣人数貳百三拾三人

郷士人隼百貳拾八人

高七千四百八拾七石四升九合六勺

高四百八拾六石八斗三升七合四勺壹才

内式石

七ヶ村

南 村

大始良村

横山村

用夫七百六拾壹人

鹿兒島より古江筋拾壹里内海路八里陸路貳拾三里福山筋

島津 要人私領

新 城

家中士惣人数七百貳拾八人

家中士人隼三百九拾七人

高千貳百八拾九石六斗四升八合三才

高三百拾八石壹斗三升五合四勺六才

内四拾石

壹ヶ村

新城村

用夫百七拾四人

浦用夫百六人

鹿兒島より海路七里陸路拾八里

島津 若狭私領

花 岡

家中士惣人数三百四拾貳人

家中士人隼百八拾人

高千五百五拾三石八斗三升壹合八勺九才

高七百拾八石八斗七升四合八勺五才

内八拾壹石壹斗

所惣高

郷士高

寺 高

野里村

浜田村

西俣村

獅子目村

所惣高

家中高

寺 高

所惣高

家中高

寺社高

式ヶ村

木谷村

白水村

用夫五百六人

野町用夫貳拾貳人

浦用夫九拾人

鹿兒島より八里陸路貳拾里福山筋

吉利 仲 鹿屋

郷士惣人数三百四拾七人

郷士人躰百八拾五人

高九千八百三拾石八斗貳合八勺貳才

高千九百六拾四石壹升八合九勺七才

五ヶ村

上名村

中名村

南高洲村

北高洲村

用夫千百九拾人

野町用夫七拾貳人

浦用夫百貳拾七人

鹿兒島より 古江筋拾里内海路八里 陸路貳拾貳里福山筋

明所 串良

郷士惣人数四百五拾七人

郷士人躰貳百拾三人

高壹万八千貳拾六石貳升三合五勺貳才

高九百七十七斗五升貳合四勺九才

内七石四斗貳升壹合三勺五才

拾ヶ村

有里村

上小原村

岩弘村

川西村

下名村

所惣高 郷士高

所惣高 郷士高 寺高

岡崎村 池之原村

細山田村

新川西村

下小原村

川東村

用夫千五百五拾六人

野町用夫三拾三人

浦用夫百貳拾八人

鹿兒島より 古江筋拾三里海路八里 陸路貳拾五里福山筋

比志島 静馬 高隈

郷士惣人数九拾九人

郷士人躰六拾貳人

高三千貳百拾四石壹斗四升六合四勺貳才

高五百拾九石八斗七升六合壹才

内貳石

式ヶ村

上高隈村

下高隈村

用夫貳百六拾七人

鹿兒島より 古江筋拾三里内海路八里福山筋拾五里半 内海路九里陸路拾三里半福山筋

二階堂源太夫

百引

郷士惣人数三百拾貳人

郷士人躰百九拾八人

高三千三百拾三石八斗壹升壹合四勺

高九百八拾六石七升壹合九勺貳才

内四石五斗九升

式ヶ村

百引村

平房村

用夫貳百八拾貳人

所惣高 郷士高 寺高

所惣高 郷士高 寺高

鹿兒島より 拾四里内海路九里牛根筋九里内海路五里
陸路拾四里半福山筋

嶺嶽郡

島津石見私領

市 成

家中土惣人数三百三拾式人

家中土人躰百六拾三人

高式千三百五拾七石九斗七升九合壹勺三才

高九百拾七石九斗壹升壹合壹勺九才

内式拾六石五斗八升三合式勺五才

式ヶ村

市成村

用夫百三拾六人

諏訪原村

鹿兒島より 牛根筋拾四里内海路八里
陸路拾三里福山筋

平田 鞆 買

恒 吉

郷土惣人数式百拾五人

郷土人躰百式拾四人

高三千六百六石七斗四升九合九勺

高八百五拾式石三斗六升式合五勺五才

内式石

四ヶ村

坂元村

大谷村

用夫三百六拾壹人

野町用夫拾六人

鹿兒島より 福山筋拾三里内海路九里牛根筋拾式里
半内海路九里陸路拾三里福山筋

友野 市 助

須田木村

永江村

所惣高
郷土高
寺 高

末 吉

郷土惣人数九百八拾九人

郷土人躰五百三拾人

高壹万七千四百五拾六石九斗七升九合式勺三才

高三千九百五拾壹石九斗九升壹合六才

内三拾六石

七ヶ村

岩崎村

諏訪方村

南之郷村

但南之郷村日州諸県郡之内

用夫千四百式拾壹人

野町用夫五拾七人

鹿兒島より 拾四里半内海路九里
陸路拾五里福山筋

北郷 男 吏

財 部

郷土惣人数九百三拾九人

郷土人躰四百四拾四人

高八千九百三拾七石七斗五升七合六勺式才

高式千七百七拾三石三斗七合七才

内拾五石式斗

三ヶ村

北俣村

但下財部村ハ日州諸県郡之内

用夫六百八拾四人

野町用夫式拾八人

鹿兒島より 拾四里半内海路九里陸路拾五里

福 山 明 所

南俣村

所惣高
郷土高
寺 高

郷士惣人数五百三拾八人
郷士人躰貳百五拾貳人
高貳千七百三拾三石四斗七升四合三勺七才
高千六百六拾五石八斗壹升六合八勺七才
内貳拾三石三斗貳合四才
貳ヶ村
福山村 佳例川村
用夫貳百四拾八人
浦用夫貳百八拾壹人
鹿兒島より陸路九里半海路九里
谷川 次郎兵衛
敷根
郷士惣人数四百拾貳人
郷士人躰百四拾五人
高三千貳百六拾六石九升壹合四勺
高四百三拾六石九斗四升九合四勺
内貳石
三ヶ村
麓村 湊村
用夫貳百八拾人
浦用夫九拾八人
鹿兒島より陸路八里半海路八里半
川上 矢五太夫
国分
郷士惣人数千八百四拾壹人
郷士人躰八百八拾八人
高貳万四千百貳拾壹石三斗九合六勺三才
高四千九百三拾四石貳斗三升四合三勺六才
内百三石三斗四升貳合七勺壹才
拾九ヶ村
所惣高
郷士高
寺高
所惣高
郷士高
寺高
上之段村
郷士高
寺高

新町村 川内村 上井村
下井村 住吉村 向花村
府中村 上小川村 小村
松之木村 野口村 小浜村
福島村 内村 内山田村
真孝村 見次村 小田村
野久美田村
但小村松之木村野口村小浜村小田村野久美田村
福島村内村内山田村真孝村見次村八
桑原郡之内
用夫貳千七拾八人
野町用夫三百七拾壹人
浦用夫千八拾六人
鹿兒島より八里海路七里
明所
清所
郷士惣人数千百拾六人
郷士人躰四百六拾壹人
高五千六百六拾六石貳斗八升壹合三勺
高千六拾九石四斗貳升九勺壹才
内拾九石四斗八升九合五勺八才
五ヶ村
所惣高
郷士高
寺高
姫城村 川原村 弟子丸村
山之路村 郡田村
用夫四百四拾六人
鹿兒島より八里海路七里
北郷多仲
嚙喉郡
郷士惣人数千五拾八人
郷士人躰四百四拾五人

高五千三百八石式斗四升五合壹勺四才
所惣高
高千三百式拾石壹斗八升三合三勺八才
郷士高
内四拾壹石
寺高

五ヶ村
田口村
大窪村
松永村

重久村
川北村

用夫三百拾五人
鹿兒島より八里半内海路七里

東 郷 左太夫

桑原郡
郷士惣人数三百九拾式人
郷士人隸百六拾九人
所惣高
郷士高

高五千八百八拾式石五斗壹升三合四勺式才
内式石
寺高

高六百六拾壹石九斗八升八合三勺壹才
内式石
寺高

六ヶ村
持松村
上中津川村
三鉢堂村

中津川村
宿窪田村
万膳村

用夫貳百五拾式人
野町用夫拾三人
鹿兒島より拾壹里半内浜之市筋海路七里
陸路拾壹里半加治木筋海路五里

明 所
日当山
郷士惣人数三百五拾四人
郷士人隸百六拾式人
所惣高
郷士高

高貳千五百七拾壹石九斗六升壹合貳勺九才
高五百三石七斗九升五合八勺七才
内拾三石
寺高

四ヶ村
朝日村
西光寺村
東郷村

佳例川村
用夫百九拾九人
鹿兒島より八里半内海路七里

鎌田 哲二郎
横川

郷士惣人数五百七拾壹人
郷士人隸百九拾六人
所惣高
郷士高

高四千貳百八拾五石三斗八升貳合三勺七才
高八百石四斗七升九合七勺壹才
内式石
寺高

三ヶ村
上之村
中之村
下之村

用夫貳百七拾九人
野町用夫六拾五人
鹿兒島より拾里内海路五里

坂元 休左衛門
栗野

郷士惣人数四百拾六人
郷士人隸百六拾三人
高八千貳百八拾八石八斗壹升三合七才
高千三百四拾八石六斗八升五合四勺
内式拾壹石
所惣高
郷士高
寺社高

七ヶ村
恒次村
北方村
木場村

幸田村
田尾原村
米永村

稲葉崎村
用夫四百七拾人
野町用夫貳拾人

寺高

鹿兒島より拾弍里内海路五里
伊集院 周右衛門

吉 松

郷士惣人数四百拾九人

郷士人隸弍百三拾七人

高五千百拾六石九斗四升壹勺三才

高八百八拾九石六斗壹升七合八勺

内弍石

五ヶ村

川西村

川添村

用夫百五拾壹人

野町用夫七人

鹿兒島より拾四里内海路五里

菱刈郡

小 笠 原 轍

湯之尾

郷士惣人数弍百四拾六人

郷士人隸百三拾五人

高三千百三拾三石壹斗七勺九才

高四百弍拾八石壹斗五升弍合七勺九才

内弍石

式ヶ村

用夫百弍拾八人

野町用夫九人

鹿兒島より拾三里内海路五里

伊集院 隼衛

馬 越

郷士惣人数弍百四拾五人

鶴丸村

所惣高
郷士高
寺 高

所惣高
郷士高
寺 高

川北村

川南村

郷士人隸百四拾三人
高三千八百壹石八斗六升弍合七勺九才
高三百五拾五石九斗
内八石五斗六升九合六勺八才
三ヶ村
前目村 田中村 徳辺村
用夫百弍拾八人
野町用夫三拾六人
鹿兒島より拾三里半内海路五里
諏訪 數 馬
曾 木
郷士惣人数弍百九拾九人
郷士人隸九拾七人
高四千七百三拾壹石八斗壹升五合三勺三才
高五百弍拾七石六斗八升九合八勺九才
内七石八斗九升六勺弍才
三ヶ村
里 村 針持村 永野村
但永野村ハ薩摩郡之内
用夫弍百七拾人
野町用夫弍拾五人
鹿兒島より拾四里内海路五里
鎌 田 典 膳
本 城
郷士惣人数三百六拾人
郷士人隸百八拾七人
高五千六百五拾四石六斗弍升八合二勺四才
高八百拾六石七斗四升三合壹才
内弍石
四ヶ村
所惣高
郷士高
寺 高

重富村 下手村 荒田村
 南瀬村 用夫三百拾貳人
 野町用夫貳拾五人
 鹿兒島より拾三里内海路五里
 始羅郡
 富山半蔵
 溝辺
 郷土惣人数三百四拾七人
 郷土人躰百五拾壹人
 高四千五百四拾五石五斗九升壹合八勺三才
 高五百五拾壹石四斗八升壹合六勺壹才
 内貳石
 五ヶ村
 麓村 三繩村 竹子村
 有川村 崎森村
 用夫貳百八拾五人
 野町用夫五人
 鹿兒島より八里内海路五里
 島津兵庫私領
 加治木
 家中土惣人数千八百拾八人
 家中土人躰八百拾五人
 高壹万七百七拾貳石九斗九升五合五勺五才
 高七千三百拾五石五斗八升九合四勺三才
 内四百九拾三石九斗三升九合四勺六才
 六ヶ村
 反土村 木田村 日本山村
 小山田村 西別府村 高井田村
 用夫八百五拾七人

浦用夫八百六拾八人
 鹿兒島より海陸共五里
 島津周防殿
 帖佐
 郷土惣人数九百六拾三人
 郷土人躰四百三拾五人
 高壹万七拾石四斗貳升壹合貳勺七才
 高千三百壹石九斗壹升九合六勺三才
 内九拾石壹斗四升三合
 拾壹ヶ村
 深水村 三十町村
 中津野村 鍋倉村
 増田村 住吉村
 東餅田村 寺師村
 用夫四百三拾五人
 野町用夫貳拾四人
 浦用夫三百貳拾五人
 鹿兒島より四里半海路四里
 島津周防殿私領
 重富
 家中土惣人数七百三拾六人
 家中土人躰三百六拾八人
 高三千七百五拾四石貳斗壹升九勺三才
 高八百九拾七石五斗四升三合九勺八才
 内百拾五石
 四ヶ村
 平松村 船津村 春花村
 触田村
 但触田村ハ薩州鹿兒島郡之内
 用夫三百三拾五人

浦用夫四百五拾八人

鹿兒島より四里脇元迄海路三里半

倉山 作太夫

山田

郷士惣人数四百四拾四人

郷士人隸百九拾九人

高五千百拾四石九斗六升三合九勺五才

高七百貳拾石六斗七升壹合貳勺五才

内貳石六斗

六ヶ村

木津志村

大山村

用夫三百四拾壹人

野町用夫六人

鹿兒島より五里半内海路五里

菱刈 李之介

蒲生

郷士惣人数千五百五拾貳人

郷士人隸七百六拾八人

高九千三百八拾壹石貳升八合七勺九才

高三千貳百拾五石五斗三升三合八勺

内八拾三石九斗五合三勺三才

八ヶ村

西浦村

上久徳村

米丸村

用夫四百九拾四人

野町用夫八拾四人

鹿兒島より五里半

熊毛郡

種子島彈正殿私領

種子島

家中士惣人数四千貳百三拾六人

家中士人隸九百九拾八人

高壹万六拾七石六斗五升六合六勺貳才

高三千五百三拾石壹斗九升貳合五勺

内四百三拾五石三斗四升貳合六勺九才

拾八ヶ村 湊三ヶ所

中之村

現和村

納官村

安納村

増田村

西之村

用夫千貳百五拾壹人

野町用夫拾九人

浦用夫六百拾七人

鹿兒島より 海路三拾九里内貳拾壹里

佐多之内大泊より

馭謨郡

屋久島奉行支配

屋久島

高千三百八拾四石貳斗五升四合壹勺七才

四ヶ村

宮之浦村

安房村

湊五ヶ所

一湊村

小瀬村

右四ヶ村宮之浦支配

所惣高

家中高

寺社高

野間村

古田村

住吉村

西之表村

油久村

上里村

安城村

坂井村

基永村

国上村

島間村

平山村

野間村

古田村

住吉村

西之表村

油久村

上里村

安城村

坂井村

基永村

国上村

島間村

平山村

野間村

古田村

住吉村

西之表村

油久村

上里村

安城村

吉田村
 右老ヶ所長田村支配
 中間村 湯泊村
 小島村 椎野村
 右六ヶ所粟生村支配 恋泊村
 尾間村 原村
 船行村 黒石野村
 右五ヶ所安房村支配 麦生村
 用夫千七百七拾六人
 鹿兒島より四拾八里内三拾五里八山川より
 屋久島之内
 口之永良部島
 高百八拾四石八斗老升四合五勺八才
 老ヶ村 所惣高
 口之永良部村
 用夫八拾人
 鹿兒島より四拾五里内三拾貳里八山川より
 合隅州諸郷四拾貳ヶ所 内七ヶ所私領 外屋久島
 合郷士惣人数老万九千三百三拾七人
 合郷士人跡九千七百六拾六人
 合惣高貳拾六万八千八拾三石七斗三升九合七勺四才
 合郷士高三万八千七百七拾六石六斗貳合貳勺
 内寺社高六百六拾七石老斗六合九才
 合家中土惣人数九千五百五拾貳人
 合家中土人跡三千六百四拾老人
 合家中土高老万九千九拾三石八斗三勺五才
 内寺社高千四百五拾五石八斗六升五合三勺四才
 合用夫貳万五千六百八拾九人
 合野町用夫千百六拾四人

合浦用夫五千九百七拾八人
 合島用夫千貳百五拾六人
 日向国五郡之内老郡
 諸県郡
 島津 鞆 負
 大崎
 郷士惣人数八百三拾貳人
 郷士人跡三百八拾七人
 高老万八百六石八斗五升四合六才
 高千六百六拾三石四斗三合五勺三才
 内五石
 拾ヶ村
 野方村 横瀬村
 神領村 永吉村
 岡之別府村 井俣村
 菱田村
 用夫千三百五拾人
 野町用夫六拾六人
 浦用夫八拾四人
 鹿兒島より 拾四里半内海路九里陸路 拾八里福山筋
 外高老石老斗九升七合九勺貳才
 末川 近江
 志布志
 郷士惣人数九百拾九人
 郷士人跡四百六拾九人
 高老万三千五百六拾三石七斗老升貳合四才
 高三千九百貳拾六石五斗貳升三合八才
 内七百四拾三石六斗七升五合六勺貳才
 拾ヶ村
 益丸村
 狩宿村
 持留村
 大崎志布志 境論地
 所惣高
 郷士高
 寺 高

蓬原村 町畠村
 伊崎田村 原田村
 野上村 月野村
 帖村 安楽村
 用夫千六百三拾式人
 浦用夫八百式人
 鹿兒島より 福山筋式拾里内海路九里古江筋拾七里
 内海路八里陸路式拾里半福山筋
 北郷 哲五郎
 松山
 郷士惣人数式百四拾人
 郷士人隸百三人
 高式千四百七拾九石式斗八升七合卷勺九才
 高六百九拾五石八斗四升七合八勺卷才
 内式石
 三ヶ村 尾野見村 泰野村 新橋村
 用夫式百八拾五人
 野町用夫八人
 鹿兒島より拾五里内海路九里
 島津 豊前私領
 郡 城
 家中士惣人数五千四百式人
 家中士人隸式千三百七人
 高三万四千五拾九石式斗壹合八勺六才
 高壹万三千式百九拾六石六斗三升壹合四勺式才
 内千三百七石五斗五合
 式拾六ヶ村
 後久村 田部村 鷺巢村
 早水村 郡元村 川東村

夏井村 田之浦村 内之倉村 野井倉村
 所惣高 郷士高 寺高
 宮丸村 安久村 寺柱村
 前川内村 下長飯村 木之前村
 高木村 金田村 水流村
 山田村 梅北村 上長飯村
 野之美谷村 横市村 五拾町村
 西嶽村 中霧島村 岩満村
 石寺村 丸谷村
 用夫千三百五拾八人
 野町用夫五百拾三人
 鹿兒島より拾六里内海路九里
 宮之原 主計
 勝岡
 郷士惣人数四百六拾四人
 郷士人隸百三拾七人
 高三千五百四拾七石壹斗式升式合式勺七才
 高七百五石三斗三升六合八勺卷才
 内式石
 三ヶ村 餅原村 花山村 蓼池村
 用夫四百五拾三人
 鹿兒島より拾七里内海路九里陸路拾七里半
 福山筋
 伊集院 喜左衛門
 山之口
 郷士惣人数式百九拾三人
 郷士人隸百式拾八人
 高四千三百式拾八石九斗七升式合七勺卷才
 高九百七拾七石六斗八合五勺五才
 内式石
 三ヶ村 所惣高 郷士高 寺高

花之木村

富吉村

山之口村

用夫四百三拾式人

鹿兒島より 拾八里内海路九里陸路拾八里半
福山筋

蒲生 郷右衛門
高 城

郷士惣人数四百六拾七人

郷士人躰式百三拾九人

高九千五百五拾九石六斗壹升六合三勺七才

高千八百式拾六石六斗式勺四才

内式拾九石四斗八升四合

七ヶ村

石山村

穂満坊村

有水村

大井手村

桜木村

東霧島村

四ヶ村

用夫五百式拾人

野町用夫八拾式人

鹿兒島より 拾九里内海路九里陸路九里半
福山筋

島津 仲
穆 佐

郷士惣人数三百三拾式人

郷士人躰式百式拾人

高三千八百拾四石六斗式合八勺六才

高千四百四拾壹石式斗三升壹合式勺四才

内拾石四斗

三ヶ村

上倉永村

下倉永村

小山田村

用夫式百五人

野町用夫式拾六人

鹿兒島より 式拾七里内海路九里陸路式拾七里半
福山筋

高橋 縫殿
倉 岡

郷士惣人数式百六人

郷士人躰百式拾人

高千六百四拾六石九斗六合四勺七才

高五百三拾七石六斗四升六合式勺六才

内式石

式ヶ村

糸原村

有田村

用夫式百四拾八人

野町用夫四拾八人

鹿兒島より 式拾八里内海路九里陸路式拾八里半
福山筋

島津 石見
高 岡

郷士惣人数千三百六拾五人

郷士人躰七百五拾式人

高壹万九千四百五拾四石七斗四升四合四勺五才

高壹万三百五拾七石五升六合九勺

内百式拾三石四斗七升八勺三才

拾式ヶ村

浦之名村

花見村

高浜村

飯田村

用夫千式百式拾式人

野町用夫百五拾人

田尻村

五町村

南俣村

北俣村

向高村

内山村

入野村

深年村

所惣高
郷士高
寺 高

所惣高
郷士高
寺 高

鹿兒島より 福山筋式拾六里半内海路七里真幸筋
式拾八里内海路五里陸路式拾六里半福山筋

町 田 式 部

郷士惣人数五百式拾五人

郷士人隸式百九拾八人

高四千五百拾四石八斗六升八才

千三百式石四斗六升六合式勺式才

内六石

式ケ村

南俣村 北俣村

野 尻

用夫百五拾八人

野町用夫式拾七人

鹿兒島より 浜之市筋式拾五里半内海路七里福山筋
式拾八里内海路九里真幸筋式拾八里
内海路五里陸路式拾五里半紙屋筋

郷士惣人数五百三拾式人

郷士人隸式百七拾五人

高三千九百三拾八石八斗式升三合壹勺壹才

高千三百七拾八石四斗式升六合壹勺八才

内五石三斗

五ケ村

紙屋村 三ヶ野山村 江平村

笹水村 麓 村

用夫四百八拾九人

野町用夫五人

鹿兒島より 浜之市筋式拾里半内海路七里真幸筋式拾三里
半内海路五里陸路式拾里半浜之市筋

島 津 相 馬

高 原

郷士惣人数四百九拾九人

郷士人隸百七拾五人

高五千六百八拾八石八斗四升壹合六勺七才

高千三百九拾八石式斗八升式合九勺七才

内百六拾八石七斗八升六合四勺五才

五ケ村

水流村 広原村 蒲牟田村

後川内村 麓 村

用夫六百式拾式人

野町用夫拾人

鹿兒島より 浜之市筋拾八里半内海路七里真幸筋式拾
式里半内海路五里陸路拾八里半真幸筋

義 岡 藏 人

高 崎

郷士惣人数三百拾六人

郷士人隸百四拾式人

高三千九百四拾四石五升式合四勺五才

高六百拾四石壹斗七升六勺九才

内式石

三ケ村

大牟田村 前田村 繩瀬村

用夫式百四拾八人

野町用夫拾壹人

鹿兒島より 浜之市筋拾八里内海路七里加治木筋式拾
三里内海路五里陸路拾八里浜之市筋

森 川 利右衛門

小 林

郷士惣人数七百九拾九人

郷士人隼三百四拾九人

高卷万百七拾壹石貳斗貳勺四才

高千九百三拾八石七升三勺三才

内九拾四石貳斗八升貳合七勺七才

七ヶ村

細野村

東方村

水流迫村

用夫八百三拾四人

野町用夫七拾六人

鹿兒島より 加治木筋貳拾里内海路五里浜之市筋 貳拾里半海路七里陸路貳拾里真幸筋

奥 四郎

須 木

郷士惣人数四百七拾九人

郷士人隼貳百六人

高千九百九拾三石四斗壹升壹合九勺五才

高五百九拾六石五斗三升七合三勺四才

内貳石六斗

壹ヶ村

須木村

用夫五拾八人

野町用夫六人

鹿兒島より 浜之市筋貳拾里内海路七里加治木筋 貳拾四里内海路五里陸路貳拾四里真幸筋

大 野 多 宮

飯 野

郷士惣人数五百四拾七人

郷士人隼三百三拾三人

高卷万六百七拾三石七斗八升九合三勺八才

所惣高

郷士高

寺社高

真方村

南西方村

堤 村

北西方村

高三千八拾七石九斗四升三合四才

内百三拾五石四斗貳升九合壹勺七才

拾ヶ村

末永村

今西村

坂元村

杉水流村

用夫三百貳拾六人

野町用夫三拾壹人

鹿兒島より拾八里海路五里

鳥 津 勘解由

加久藤

郷士惣人数四百貳拾壹人

郷士人隼貳百五拾壹人

高八千九百四拾四石三斗七升貳合三勺六才

高千三拾三石八斗三升三合九勺

内七拾九石四斗三升三合三勺貳才

拾ヶ村

川北村

東永江浦村

湯田村

西永江浦村

用夫三百五拾九人

野町用夫貳拾三人

鹿兒島より拾六里半加治木筋内海路五里

仁 礼 小 吉

馬関田

郷士惣人数五百五拾六人

郷士人隼九拾壹人

高三千三百八拾九石三斗七升九合九勺三才

郷士高

寺 高

池島村

上江村

大河平村

前田村

原田村

大明寺村

大原村

永山村

栗下村

灰塚村

小田村

榎田村

西郷村

永山村

所惣高

郷士高

寺 高

高四百五拾七石式斗九升壹合七勺九才

内巻石六斗

四ヶ村

島内村

浦 村

柳水流村

川北村

用夫百九人

野町用夫壹人

鹿兒島より拾五里内海路五里

竹 下 仁左衛門

吉 田

郷士惣人数貳百七拾八人

郷士人躰百五拾人

高三千八百六拾四石三斗七升五合式才

高五百式拾七石五斗五升式合六勺六才

内式石

六ヶ村

昌明寺村

亀沢村

向江村

岡松村

水流村

内堅村

用夫百式人

野町用夫壹人

鹿兒島より拾五里加治木筋内海路五里

高老石壹斗九升七合九勺式才

合郷士惣人数壹万七拾人

合郷士人躰四千七百式拾五人

合惣高拾五万九千六百五拾石九斗三合三勺九才

合郷士高三万八千五百九拾六石八斗六升八勺

内寺社高六百六拾七石壹斗六合九才

合家中士惣人数五千四百式人

合家中士人躰貳千三百七人

合家中士高壹万三千貳百九拾六石六斗三升壹合四勺式才

郷士高 寺 高

内寺社高千三百七石五斗五合

合用夫壹万千拾人

合野町用夫千七拾六人

合浦用夫八百八拾六人

薩摩大隅升日向諸県郡

都合郷数百拾三ヶ所

内式拾壹ヶ所私領

外硫磺島竹島黒島七島屋久島

右同

都合郷士惣人数六万千七百七人

右同

都合郷士人躰貳万七千拾八人

右同

都合高七拾五万五千四百六拾壹石八斗八升三合四勺壹才

右同

都合郷士高拾貳万五千貳百八拾式石八升式合壹勺九才

内寺社高四千八百四拾石九斗六升三合四勺八才

右同

都合家中士惣人数貳万九千七百七人

右同

都合家中人躰壹万七千七拾四人

右同

都合家中士高四万七千七百七石六升三合八勺七才

内寺社高四千六百拾式石六斗六升八合七才

右同

都合用夫九万八千四百五拾三人

右同

都合野町用夫三千三百七拾四人

右同

都合浦用夫貳万七千五百七人

右同

都合諸島用夫千八百拾五人

外

国司領

琉球国 鹿兒島より海路貳百九拾五里半
琉球之内はてる間より琉球迄海路百五拾四里

取納代官支配

大島 七間切湊十八
鹿兒島より海路百四拾三里

右同

喜界島 五間切湊三
鹿兒島より海路百五拾八里

大島喜界島両島代官老人被仰付置候得共元禄六酉年より両島銘々代官
被差下候

右同

徳之島 三間切湊十三
鹿兒島より海路百七拾九里

右同

沖永良部島 五間切湊五
鹿兒島より海路貳百三拾四里半

内与論島鹿兒島より貳百四拾七里半

徳之島沖永良部島両島代官老人被仰付置候得共元禄四未年より両
島銘々代官被差下候

(後表紙・後人筆)

栴山家伝家

薩藩政要録 卷六

(要用集)

遠矢

(原寸縦二六・二種、横一九・五種)

「六十六」 鹿兒島中諸屋敷數之事

一	士屋敷千八百三ヶ所	上方
	内五百五拾五ヶ所	
	内貳ヶ所	佐土原飯屋琉球館
	八百六拾八ヶ所	下方
	五拾六ヶ所	岩崎東福ヶ城御城内
	三百三拾七ヶ所	新上橋・西田・高麗町・荒田・ 武村・中村・草牟田・吉野・ 上伊敷・下伊敷・犬迫・坂元
一	御藏地并御用地屋敷貳拾九ヶ所	御城内
	内貳ヶ所	上方
	拾四ヶ所	下方
	拾三ヶ所	
一	神社堂地百八拾八ヶ所	上方
	内九拾三ヶ所	近在
	内五拾壹ヶ所	下方
	九拾五ヶ所	近在
	内七拾三ヶ所	近在
一	寺社家并門前屋敷四百五拾壹ヶ所	上方
	内貳百五ヶ所	近在
	内七ヶ所	下方
	貳百四拾六ヶ所	近在
	内五拾七ヶ所	上方
	御納戸附屋敷三拾三ヶ所	近在
	内四ヶ所	
	内貳ヶ所	
	貳拾九ヶ所	
	内五ヶ所	

一	御広敷附屋敷四拾九ヶ所	上方
	内八ヶ所	近在
	内貳ヶ所	下方
	四拾壹ヶ所	近在
	内五ヶ所	上方
一	御厩附屋敷貳拾六ヶ所	上方
	内五ヶ所	近在
	内四ヶ所	下方
	貳拾壹ヶ所	近在
	内七ヶ所	上方但近在
一	御兵具方附屋敷百六拾ヶ所	上方但近在
	内貳拾八ヶ所	下方
	百三拾貳ヶ所	近在
	内貳拾五ヶ所	上方
一	御数寄屋附屋敷四ヶ所	上方
	内貳ヶ所	近在
	内壹ヶ所	下方
	貳ヶ所	近在
	内壹ヶ所	上方
一	諸職人屋敷三拾六ヶ所	上方
	内拾貳ヶ所	下方
	貳拾四ヶ所	上方
一	町屋敷千貳百四拾五ヶ所	上方
	内三百七拾八ヶ所	藍玉所
	内壹ヶ所	会所
	壹ヶ所	上町年寄支配屋敷
	拾三ヶ所	下町
	七百七ヶ所	御用宿
	内壹ヶ所	明攀会所
	壹ヶ所	

老ヶ所
拾五ヶ所
池田惣左衛門埋地
百拾七ヶ所
西田町
内ヶ所
会所
貳拾ヶ所
荒田町
貳拾三ヶ所
横井町
内式ヶ所
御飯屋并客屋
合屋敷數四千貳拾四ヶ所

「六十七」濃州勢州尾州川々御普請御手伝之事

一 宝曆三年酉十二月廿五日於江府西尾隱岐守様より濃州・勢州・尾州、川々御普請御手伝被仰付候段、御奉書御到来有之候事

一 右ニ付戌正月下旬御場所小屋御引渡、御取付ハ同二月中旬と被仰渡候事

一 右ニ付御場所被差越候間、役名左之通被仰付、姓名被書出候人数

惣奉行 平田 鞆 負
副奉行 伊集院 十 蔵
用人 堀 堀右衛門
近習役 諫 訪 甚兵衛
留守居 伊地知 新太夫
普請奉行 佐久間 源太夫
元 卜 山沢 小左衛門
目 付 川 上 彦九郎
場所奉行 石川 正右衛門
大野 鉄兵衛 山 元 藤兵衛
村田 源左衛門
五右衛門
大野 鉄兵衛

黒田 次郎兵衛

右之通被書出置、右外御役人之内并御馬廻新番小奉行之役名ニ而被差越、御歩行三百人、足輕五百人可差出旨、被仰渡候付、江戸御当地より段々被差越、其後被相重候付、又追々被差越候事
亥三月廿七日御普請御成就付、御引渡相濟候
但鞆負事右御引渡相濟病死

一 右相濟候ニ付 太守様御名代松平河内守様御登城、於御白書院縁頗、酒井左衛門尉様より川々御普請御手伝御勤被成候付、時服五十拝領被仰付候段、被仰渡候事

一 姓名被書出置候人数左之通登 城被仰付、拝領被仰付候

一 御時服六

一 白銀五拾枚

伊集院 十 蔵

一 御時服三宛

一 白銀貳拾枚宛

堀 堀右衛門
諫 訪 甚兵衛
伊地知 新太夫
佐久間 源太夫
山沢 小左衛門
川 上 彦九郎
石川 正右衛門
山 元 藤兵衛
愛申 源左衛門
村田 五右衛門
大野 鉄兵衛
黒田 次郎兵衛

銀拾枚宛

「六十八」 兩御目附衆被差越候事

一 宝曆五年亥九月廿二日於江府、御用番本多伯耆守様より 太守様御若年三付、御国元^ニ為御目附、御使番京極兵部殿・御書院番頭朽木和泉守様・御組御書院番青山七右衛門殿被差越候旨被仰渡候
一 右兩御目附衆于四月五日江府御發足、小倉筋御通、同五月廿三日御当地^ニ御着被成候

一 右二付兵部殿御事、客屋御繕方有之、被為居、七右衛門殿御事ハ評定所御取繕亦ハ御造添有之被為居候

兩御目附衆御手廻

- 一 家老壹人宛
 - 一 用人貳人宛
 - 一 給人貳人宛
 - 一 近習三人宛
 - 一 中小姓貳人宛
 - 一 徒士四人宛
 - 一 足輕小頭壹人宛
 - 一 足輕六人宛
 - 一 中間拾三人宛
- 一 子六月十一日兩御目附衆 御城^ニ御招請有之、御帰之節御兵具所^ニおひて御兵具御見分有之候
- 一 同六月十七日兩御目附衆南泉院 御宮^ニ初而御參詣、御太刀馬代御獻納、同九月十七日同斷御宮^ニ御參詣、白銀御獻納有之候
- 一 子六月廿日兩御目附衆南泉院 御位牌殿^ニ初而御參詣愼 御位牌^ニ白銀御獻納、夫より毎月御代々様御忌日御參詣有之、其以後福昌寺^ニ御差越 円徳院様御位牌所^ニ御香奠銀進納有之、直^ニ御拜礼、其外御寺方^ニ御差越、御城下土小路御巡見有之候事
- 一 子七月三日兩御目附衆、下瀉・向瀉為御巡見、御当地御立、同十一日

鹿兒島^ニ御帰被成候

- 一 子九月廿四日御城山御見分有之、同廿六日桜島^ニ御越被成候
- 一 同八月より同十月迄之間、兩御目附衆、御一門・大身分・御家老宅^ニ江招請有之候
- 一 同十月廿六日為御暇^ニ御城^ニ御出被成候
- 一 同十一月三日御当地御出立、小倉筋御通、同閏十一月十二日御帰府被成候

「六十九」 諸座附与力足輕御口之者御小人御広敷附足輕御

数寄屋仕坊主其外諸座附人数之事

- 一 御兵具方与力并足輕千六百六拾壹人
- 一 内百六拾九人
- 一 御譜代足輕 御兵具方与力
- 一 五百七拾九人
- 一 御雇足輕 御譜代足輕
- 一 御雇附与力并二代与力御口之者三百六拾六人
- 一 内五拾四人
- 一 御雇附与力 御口之者頭
- 一 内拾壹人
- 一 御口之者頭
- 一 貳人
- 一 宰相様御方掛 御道具附
- 一 拾貳人
- 一 但御切米貳拾表宛被成下候
- 一 貳拾九人
- 一 無役幼少者
- 一 六人
- 一 御雇附一代与力
- 一 但御切米貳拾表宛被成下候
- 一 三百四人
- 一 御口之者
- 一 内百九拾壹人
- 一 但御切米拾八俵宛被成下候
- 一 百拾三人
- 一 無役幼少者
- 一 御納戸附与力御小人并人足三百六拾壹人

内百貳拾五人

内百拾九人

六人

貳百三拾六人

内五拾六人

五人

但別段表方より被成下候

七拾四人

壹人

五人

四拾六人

三拾六人

八人

一 御数寄屋附与力并御数寄屋附仕坊主七拾壹人

内貳拾五人

内貳拾四人

壹人

拾五人

壹人

三拾人

一 御広敷附与力并足輕五百四拾八人

内百貳拾壹人

内百七人

御納戸与力

御切米四石宛

御切米四石取

御納戸御小人

御切米三石六斗取

御切米三石六斗取

御切米貳石取

御食焚

御駕籠者

御切米三石五斗宛

御挾箱持

御切米三石五斗宛

御等持

御切米三石五斗宛

御数寄屋附与力

御切米四石宛

御切米五石八斗

錢貳拾貫文宛

御数寄屋仕坊主

御切米三石六斗宛

御数寄屋炭焼

御切米四石

御数寄屋附御雇仕坊主

御切米三石六斗宛

御広敷附与力

御切米四石取

六人

八人

百九拾八人

内百七拾六人

壹人

貳人

五人

拾四人

貳百貳拾九人

一 御船手附与力并御船手附六百四拾五人

内百貳拾六人

内拾三人

貳拾壹人

拾人

八拾貳人

貳百六拾六人

内貳拾人

貳百四拾六人

貳人

内壹人

但一代御小姓与

壹人

但一代御小姓与

壹人

但一代御小姓与格

三人

内壹人

御切米三石取

御切米貳石取

足輕

御切米三石六斗取

御切米三石取

御切米貳石六斗取

御切米貳石取

御切米壹石八斗取

御雇足輕

御切米貳石八斗取

鹿兒島

御小姓与

御船手附与力

郡山郷士

御船手附

久見崎

御船手附与力

御船手附

御船頭

役料米六拾五俵宛

鹿兒島

久見崎

鹿兒島

御船頭格

役料米五拾俵

臨船頭

役料米四拾五俵宛

鹿兒島

但争力
 式人
 内老入
 但争力
 壹人
 但一代争力
 四人
 内式人
 但一代争力
 式人
 内壹人
 但争力
 壹人
 但一代争力
 式拾人
 内七人
 内壹人
 但争力
 拾三人
 内老入
 但争力
 三人
 七人
 内壹人
 但争力
 式百七人

久見崎
 久見崎
 鹿兒島
 御船手船頭
 御切米式拾六俵宛
 鹿兒島
 久見崎
 久見崎
 御船手重船頭
 御切米拾八俵宛
 久見崎
 御船手船頭助
 御切米拾八俵宛
 御船手水主

内八拾式人
 内八人
 拾五人
 式人
 郡山郷士
 久見崎
 御船手附争力
 御船奉行所并
 船藏手伝勤
 御船大工頭
 役料米五拾俵
 相勤候
 但代々御小姓争ニ而鹿兒島御船手江
 御船大工頭添役
 役料米三拾八俵
 相勤候
 但一代郡山郷士ニ而鹿兒島御船手江
 御船大工頭添役
 役料米三拾七俵壹斗
 内壹人
 但一代高江郷士ニ而久見崎御船手江
 相勤候
 壹人
 但水引郷士ニ而久見崎御船手江
 相勤候
 御船預り
 御切米拾八俵宛
 内壹人
 但市来郷士ニ而鹿兒島御船手江
 相勤候
 壹人
 但高江郷士ニ而久見崎御船手江
 相勤候
 一
 御台所附六人
 内式人
 御台所附足輕
 御切米拾八俵宛

但外ニ応勤日数一日ニ真米壹升三合宛

貳人

右同雜物蔵手伝

老人

御切米拾八俵

老人

御台所檜物師主取

老人

御切米貳石

但御細工相勤候節ハ外銀壹匁真米壹升貳合ツ、賃飯米被下候

老人

右同桶緒主取

老人

御切米貳石

但御台所ニ罷出相勤候節ハ外ニ銀壹匁真米壹升貳合ツツ賃飯米被下候

候

一 御細工所附四人

内壹人

代々諸組与力格

貳人

御切米三拾俵取

老人

代々諸組与力格

老人

御切米拾八俵取

老人

一代右同

老人

御切米拾八俵取

一 御代官所附三拾壹人

内三拾人

紙漉

老人

御切米不被下候

老人

当分紙細工不致候

老人

御春屋附

一 御春屋附并人足五百四拾四人

内拾壹人

砂精漬方

内壹人

御切米貳石取

四人

蠟燭作主取

六人

御切米壹石八斗取

五百三拾人

御切米不被下候

人足

飯米七合五勺宛

飯米七合五勺宛

一 物奉行所附拾四人

内貳人

砂官主取

貳人

御切米貳石七斗宛

九人

屋ね大工主取

老人

御切米壹石八斗宛

諸職人

御切米不被下候

幼少者

御牧数諸郷牛馬数并御馬追日執之事

吉野

馬数四百四拾七疋

青生之内

取駒貳拾八疋

青色野

馬数七拾六疋

曾於郡之内

取駒三疋

春山野

馬数貳百三拾六疋

福山野

取駒貳拾疋

末吉野

馬数千三百六拾五疋

鹿屋野

取駒百拾八疋

額娃野

馬数三百七疋

加世田之内

取駒拾貳疋

野間野

馬数三百五拾六疋

伊作野

取駒拾九疋

野間野

馬数貳百八拾三疋

取駒貳拾四疋

取駒三疋

馬数四拾貳疋

取駒三疋

馬数貳百六拾九疋

取駒三疋

取駒三疋

取駒三疋

取駒三疋

取駒三疋

取駒三疋

取駒三疋

取駒三疋

取駒三疋

取駒三疋

取駒三疋

市来野

取駒七疋
馬數四百四拾疋

高江之内

寄田野

取駒拾六疋
馬數四百拾壹疋

出水之内

瀬崎野

取駒拾貳疋
馬數五百四拾貳疋

長島野

取駒三拾九疋
馬數千四拾貳疋

上籠島之内
市山野

取駒五拾七疋
馬數百疋

比志島咬嚼吧野

取駒五疋
馬數七拾疋

佐多之内

立目野

但咬嚼吧野吉野之内有之候処、
当分比志島江有之
取駒貳疋
馬數百九拾四疋

東郷之内

笠山野

取駒七疋
馬數貳百貳拾八疋
取駒九疋

合牧數拾七ヶ所

合馬數六千貳百七拾三疋

合取駒三百八拾九疋

右嘉永四亥年馬數

外鹿尻島郡吉田之内

高牧野当分無之候

一 諸郷半馬數之事

一 牛四万五千六百七拾壹疋

一 馬拾四万六百八拾六疋

右嘉永四亥年改數

一 御馬追日執之事

四月中 辛丑日 辛巳日 辛酉日

若四月中右之日執無之節ハ五月差入而

乙亥日 丁亥日 己亥日 辛亥日

八月中 丙寅 戊寅 壬寅 乙酉

丁酉 己酉 辛酉

右春秋御馬追日執、前、卯辰之日為有之由候得共、寛陽院様御代、右日
執天和三年亥三月九日被仰渡、其以後右日執相考申上候

「七十二」 御船數之事

一 御関船拾三艘

内御召春日丸拾五反帆壹艘

但塗御船

御召替仙台丸拾四反帆壹艘

但塗御船

拾四反帆壹艘

但塗御船

拾三反帆四艘

但塗御船

拾三反帆五艘

拾壹反帆壹艘

塗小早小鷹丸九反帆壹艘

但御召船

右同万藏丸八反帆壹艘

但御召船

御足次塗早崎丸四枚帆壹艘

但御召船

右同塗小蝶丸四枚帆壹艘

但御召船

御挽船白木拾反帆式艘

小早船七艘

内八反帆式艘

七反帆式艘

六反帆三艘

右久見崎御船手

小早船拾艘

内住吉丸八反帆壹艘

但御召船

七反帆四艘

六反帆壹艘

四枚帆四艘

内壹艘

御召常盤丸
御召幡竜丸

右鹿兒島御船手

荷方船八艘

内式拾反帆壹艘

拾六反帆三艘

拾四反帆壹艘

右久見崎御船手

拾八反帆三艘

右鹿兒島御船手

式枚帆より四枚帆迄伝間船等之小船七拾六艘

内関伝間拾壹艘

荷方橋船五艘

段平船四艘

川小平太四艘

式丁立船式艘

御平太船壹艘

但御召

御馬平太船壹艘

使船拾九艘

釣流船壹艘

大四枚帆式艘

鯨船式艘

用心橋船壹艘

川平太船三艘

右久見崎御船手

川平太船三艘

三枚帆三艘

御駮船壹艘

丸木船三艘

内壹艘 御召船

御平太船式艘

車船壹艘

花ハツタラ船壹艘

御試船壹艘

御試四枚帆式艘

伝間式艘

右鹿兒島御船手

三間丸木船壹艘

右壹艘御納戸ニ而造立、彼方格護相成居候

川小平太船壹艘

右鹿兒島御船手ニ而造調、御作事方江相渡居候

諸所渡船式拾六艘

内壹艘

壹艘

壹艘

壹艘

水引大小路

国分新町川

帖佐上別府川

倉岡川

壹艘	山崎川
壹艘	吉田川
壹艘	諸県郡
壹艘	馬関田川
壹艘	高岡去川
壹艘	高岡大野丸川
壹艘	串良籠川
壹艘	野尻猿瀬川
壹艘	阿多方之瀬川
壹艘	隈之城向田川
壹艘	吉松川
壹艘	栗野大川
壹艘	穆佐倉永川
壹艘	湯尾川
壹艘	高山商人ヶ崎川
壹艘	帖佐高樋川
壹艘	高岡田尻村川
壹艘	東郷船倉町川
壹艘	大崎菱田川
壹艘	鶴田柏原村川
壹艘	出水黒之戸渡
壹艘	長島黒之戸渡
壹艘	宮之城川渡
六反帆以上之船八拾艘商売船	地方
内式拾三反帆三拾四艘	
内拾三艘三島方御用船	
式拾反帆七艘	
内四艘三島方御用船	
拾八反帆四艘	
内式艘三島方御用船	
拾六反帆拾式艘	

内式艘三島方御用船	内式艘三島方御用船
式艘日州御用船	式艘日州御用船
拾五反帆式艘	拾五反帆式艘
拾四反帆式艘	拾四反帆式艘
但三島方御用船	但三島方御用船
拾式反帆七艘	拾式反帆七艘
内四艘三島方御用船	内四艘三島方御用船
拾壹反帆壹艘	拾壹反帆壹艘
但三島方御用船	但三島方御用船
拾反帆式艘	拾反帆式艘
八反帆四艘	八反帆四艘
内壹艘關船島津豊前自船	内壹艘關船島津豊前自船
七反帆三艘	七反帆三艘
内式艘屋久島	内式艘屋久島
六反帆壹艘	六反帆壹艘
但屋久島	但屋久島
一 小船四千八百式拾艘	一 小船四千八百式拾艘
内四千七拾七艘	内四千七拾七艘
三百六拾五艘	三百六拾五艘
五拾八艘	五拾八艘
三百式拾艘	三百式拾艘
船頭水主并御船手手伝三百九拾式人	船頭水主并御船手手伝三百九拾式人
内百式拾六人	内百式拾六人
内御船頭壹人	内御船頭壹人
脇船頭壹人	脇船頭壹人
仮脇船頭式人	仮脇船頭式人
御船手船頭七人	御船手船頭七人
水主八拾式人	水主八拾式人
式百六拾六人	式百六拾六人
内御船頭壹人	内御船頭壹人
商売船	商売船
五枚帆以下	五枚帆以下
地方	地方
甌島種子島	甌島種子島
七島竹島黒島硫磺島	七島竹島黒島硫磺島
屋久島	屋久島
鹿兒島御船手	鹿兒島御船手
御船頭格壹人	御船頭格壹人
手伝四人	手伝四人
久見崎御船手	久見崎御船手
脇船頭式人	脇船頭式人

飯脇船頭式人

御船手船頭拾三人

御船手重船頭三人 船頭助七人

水主百貳拾五人 手伝式人

御船大工頭壹人

右代、御小姓与三而鹿兒島御船手江相勤候

御船大工頭添役壹人

右郡山郷士三而鹿兒島御船手江相勤候

御船大工頭添役貳人

内壹人

右一代高江郷士三而久見崎御船手江相勤候

壹人

右水引郷士二而久見崎御船手江相勤候

御船頭貳人

内壹人

右市来郷士二而鹿兒島御船手江相勤候

壹人

右高江郷士二而久見崎御船手江相勤候

右御船立之節相勤申者二而御座候

〔七十二〕 浦数并浦人数之事

一 浦数百四拾貳

内重富之内

脇元浦

国分之内

浜之内

国分之内

小村町

帖佐之内

松原浦

国分之内

永 浜

敷根之内

敷根浦

加治木之内

加治木浦

国分之内

福山之内

福山浦

牛根之内
境浦

垂水之内
中俣浦

垂水之内
町

鹿屋之内
南高須浦

小根占之内
町 浜

佐多之内
島泊浦

佐多之内
田尻浦

佐多之内
竹之浦

内之浦之内
内之浦

志布志之内
志布志浦

谷山之内
和田浦

今和泉之内
瀬崎浦

指宿之内
指宿之浜

指宿之内
尾掛浦

山川之内
浜

穎娃之内
川尻浦

穎娃之内
馬渡浦

穎娃之内
成浦

知覽之内
門之浦

垂水之内
浜平浦

垂水之内
海瀉浦

新域之内
新城浦

鹿屋之内
北高須浦

小根占之内
新 浜

佐多之内
尾波瀬浦

佐多之内
外之浦

串良之内
柏原浦

高山之内
波見浦

鹿兒島之内
荒田浜

谷山之内
平川浦

今和泉之内
高目浦

指宿之内
指宿之浜

指宿之内
田良浦

山川之内
浜見ヶ水

穎娃之内
脇浦

穎娃之内
石垣浦

穎娃之内
水成川浦

知覽之内
松ヶ浦

垂水之内
市木浦

垂水之内
柁原浦

花岡之内
古江浦

大根占之内
大根占浦

佐多之内
伊座敷浦

佐多之内
大泊浜

佐多之内
間泊浦

串良之内
唐仁町

大崎之内
菱田浦

谷山之内
松崎町

喜入之内
喜入浦

指宿之内
湊浦

指宿之内
宮ヶ浜

山川之内
町

山川之内
岡兒ヶ水

穎娃之内
長崎浦

穎娃之内
小川浦

穎娃之内
大川浦

知覽之内
東塩屋

知覽之内 西塩屋	鹿籠之内 枕崎浦	鹿籠之内 白沢津浜	知覽之内 西塩屋	鹿籠之内 枕崎浦	鹿籠之内 白沢津浜
鹿籠之内 塩屋八ヶ浦	坊泊之内 坊津浦	坊泊之内 浜	鹿籠之内 塩屋八ヶ浦	坊泊之内 坊津浦	坊泊之内 浜
久志之内 今村	久志之内 博ヶ多浦	秋目之内 秋目浦	久志之内 今村	久志之内 博ヶ多浦	秋目之内 秋目浦
加世田之内 大崎浦	加世田之内 小浦	加世田之内 小松原浦	加世田之内 大崎浦	加世田之内 小浦	加世田之内 小松原浦
加世田之内 片浦	加世田之内 小湊浦	田布施之内 塩屋堀浦	加世田之内 片浦	加世田之内 小湊浦	田布施之内 塩屋堀浦
田布施之内 竹原浦	田布施之内 京田村	伊作之内 入来浜	田布施之内 竹原浦	田布施之内 京田村	伊作之内 入来浜
伊作之内 華勢里浜	伊作之内 小野浜	永吉之内 永吉浦	伊作之内 華勢里浜	伊作之内 小野浜	永吉之内 永吉浦
吉利之内 吉利浦	日置之内 帆湊浦	日置之内 折口浦	吉利之内 吉利浦	日置之内 帆湊浦	日置之内 折口浦
伊集院之内 神之川浦	市来之内 湊町	市来之内 浦	伊集院之内 神之川浦	市来之内 湊町	市来之内 浦
市来之内 唐仁町	市来之内 崎野浦	市来之内 江口浦	市来之内 唐仁町	市来之内 崎野浦	市来之内 江口浦
市来之内 赤崎浦	市来之内 神之川浦	串木野之内 浦	市来之内 赤崎浦	市来之内 神之川浦	串木野之内 浦
串木野之内 島平浜	串木野之内 町	串木野之内 羽島浦	串木野之内 島平浜	串木野之内 町	串木野之内 羽島浦
隈之城之内 向田町	東郷之内 白浜浦	平佐之内 白和町	隈之城之内 向田町	東郷之内 白浜浦	平佐之内 白和町
水引之内 京泊浦	水引之内 船間島浦	水引之内 五代町	水引之内 京泊浦	水引之内 船間島浦	水引之内 五代町
水引之内 宮内町	水引之内 森尾町	水引之内 大小路町	水引之内 宮内町	水引之内 森尾町	水引之内 大小路町
水引之内 川畑町	阿久根之内 町	阿久根之内 浜	水引之内 川畑町	阿久根之内 町	阿久根之内 浜
阿久根之内 折口浜	高城之内 西方浦	阿久根之内 野口浦	阿久根之内 折口浜	高城之内 西方浦	阿久根之内 野口浦
出水之内 黒之内浜	出水之内 蕨島	出水之内 福之江浜	出水之内 黒之内浜	出水之内 蕨島	出水之内 福之江浜
出水之内 尾之島	出水之内 庄町		出水之内 尾之島	出水之内 庄町	

出水之内 今釜町	出水之内 名護浦	出水之内 米之津町	出水之内 今釜町	出水之内 名護浦	出水之内 米之津町
長島之内 浦之塩屋	長島之内 福浦	長島之内 三船浦	長島之内 浦之塩屋	長島之内 福浦	長島之内 三船浦
長島之内 本浦	長島之内 葛輪浦	長島之内 宮之浦	長島之内 本浦	長島之内 葛輪浦	長島之内 宮之浦
長島之内 塩追浦	長島之内 脇崎浦	長島之内 薄井浦	長島之内 塩追浦	長島之内 脇崎浦	長島之内 薄井浦
長島之内 和仁之浦	長島之内 小兵浦	長島之内 幣之串浦	長島之内 和仁之浦	長島之内 小兵浦	長島之内 幣之串浦
長島之内 片側浦	長島之内 平野浦	長島之内 御所之浦	長島之内 片側浦	長島之内 平野浦	長島之内 御所之浦
湯之口浦			湯之口浦		
外二			外二		
花岡之内 木谷	花岡之内 荒平	大始良之内 浜田村	花岡之内 木谷	花岡之内 荒平	大始良之内 浜田村
佐多之内 塩屋川	佐多之内 浜尻屋敷	加世田之内 越路塩屋村	佐多之内 塩屋川	佐多之内 浜尻屋敷	加世田之内 越路塩屋村
帖佐之内 十日町	帖佐之内 納屋町	鹿兒島之内 西田町	帖佐之内 十日町	帖佐之内 納屋町	鹿兒島之内 西田町
右九ヶ浦百姓二而本浦半分之賦相勤申候故、半浦と唱申候			右九ヶ浦百姓二而本浦半分之賦相勤申候故、半浦と唱申候		
上町	下町	南林寺門前	上町	下町	南林寺門前
南泉院門前	志布志 大慈寺門前	志布志 大性院門前	南泉院門前	志布志 大慈寺門前	志布志 大性院門前
志布志 永泰寺門前	桜島	上下飯島	志布志 永泰寺門前	桜島	上下飯島
志布志 海徳寺門前			志布志 海徳寺門前		
右拾ヶ所本浦同前水主役相勤候得共、御船手支配二而無御座候故 浦役一篇二八相勤不申候 但下飯島之内浜方之儀ハ御船手支配二而手札等申請候得共、浦方 一篇之勤不仕候			右拾ヶ所本浦同前水主役相勤候得共、御船手支配二而無御座候故 浦役一篇二八相勤不申候 但下飯島之内浜方之儀ハ御船手支配二而手札等申請候得共、浦方 一篇之勤不仕候		
谷山之内 平川浦	長島之内 浦之塩屋浦	長島之内 二船浦	谷山之内 平川浦	長島之内 浦之塩屋浦	長島之内 二船浦

長島之内 長島之内 薄井浦
葛輪浦 塩追浦
長島之内 長島之内
福浦 本浦 宮之内浦
長島之内 長島之内
脇崎浦 和仁之内浦

右拾壹浦之儀本浦ニ而御座候得共、作職高相付有之候ニ付、浦一篇之勤ニ而無之、百姓方之勤も仕候

鹿屋之内 高須新浜

右ハ半浦ニ而候処、天明七年未五月在郷ニ被召成候旨被仰渡候

浦惣人数男女四万六千九拾貳人

内千九人

雇水主百三拾八人

七島中 鹿兒島御船手

右ハ江戸大坂并近国行、御領内諸島行、三年廻にして壹ケ年分右之

通ニ而候

雇水主百八拾八人

久見崎御船手

右ハ大坂并近国行、三年廻にして壹ケ年分右之通にて候

〔七十三〕 年、江戸御統米并江戸大坂行船数之事

一 米九千八拾石

但江戸残米之員数次第仕登せ米年、増減有之

内四千五百四拾石

帖佐与方

四千五百四拾石

摸合方

一 船数三拾三艘

五艘

江戸行

内三艘

御香屋方

貳艘

帖佐与御代官方

貳拾艘

大坂行

但御代官方

右嘉永四亥年分而御船手より江戸大坂行申付候

〔七十四〕 金山之事并金山有所之事

一 長野・山ヶ野金山之基ハ島津図書久通御家老職以前私領郡寄院宮之城之内佐志村之川中ニ而真砂を取揚候者有之、其真砂をゆらせ候得ハ砂金有之候付、此川上ニハ金氣可有之と存寄候ニ付、為可尋之石見銀山江為罷居、内山与右衛門と肥後国宇都郡半屋為右衛門を宮之城ニ止置、二三ケ年之間曾木本城長野辺之山谷川迄も経歴させ候処、寛永十七年三月廿二日永野内於穴焼谷川中ニ被与右衛門金銀石を見付候より土中を披候付、図書為堀出候砂金を捧、太守光久公江御参府之時言上候、就夫猶以可為堀由、御説候付而為堀之候而砂金三百兩江戸江被差上、被相伺候処、六月廿五日伊勢兵部貞昌被為召、猶堀せ、追而御申候様ニと被 仰渡候間、段堀之、同十八年八月廿八日砂金九百八拾兩余被献之、翌十九年正月十四日金山被成御給之旨、被仰出、奉行北郷佐渡久加自他国之人數、貳万余人相集、佐渡も令在山堀出金不可勝計、道程壹里余山坂を越、大隅桑原郡横川之内山ヶ野迄一冊ニ柵を結其中を堀候、依之薩州之長野、隅州之山ヶ野而国境白仁田と申所境木有之候事

一 寛永貳拾年春天下飢饉人民惱候折節ニ而金山堀候儀被召留旨被仰出、被相止候、然処御借入銀及貳万貫目御返済之御方便無之付、再金山御免之御願、松平隠岐守様・神尾備前守殿御取次を以被 仰上候処、明曆二丙申年五月島津市正忠公・鎌田源左衛門政有 御城ニ被為召御免之旨被仰出候故、同年十一月より再堀披之候、此時より寛文年間迄奉行島津図書久通、後島津中務久茂・島津带刀久元・新納又左衛門久了・肝付主殿久兼・島津大学忠守・平田新左衛門宗正・禰寝丹波清雄・新納市正久珍・川上式部久重・種子島弾正伊時・堀四郎太夫與昌相勤候事

- 一 長野西田地を堀、金子出候付、宮之城佐志村迄堀潰候、宝ハ納候得共、御朱印之田地潰候儀、久通歎、其替地新田開初候由、金山玉金代之内五部銀と申ハ御領山ニテ金堀出候付御札銀、尙當銀と申ハ山師相勞可堀無助力者も有之候ニ付、米為可相渡納候、此尙當銀之余計を以、園分之郷中流れ廻り、地潰有之所を圖書見立を以、新川堀候入用銀ニ大分相払候、就夫古川田地ニ成、高五千石余出来候、今ハ金山之出金減尙當銀を以山師被下米不調、五部銀も加候得共、不足候、乍然右新田ハ此以前尙當銀之内ニテ出来候、納米過分候間、御損亡無之考ニテ候、且又元禄十二年之比迄ハ金山御利潤銀を以、時々銀三拾貫目程も古御借銀御成崩候間、残少ニ罷成候、然処漸々山相衰、正徳三年巳七月より同六年申六月迄山中三ヶ年廻にして尙尙年ニ銀百貫九百貳拾目余引入候事
- 一 長野山ヶ野金山正徳年間以來引入銀相立候処、延享四年より少々宛出金相増、明和元年申七月より同二年酉六月迄出金拾三貫四拾三匁九分有之、御利潤銀八貫七百七拾五匁五分九厘余有之候
- 一 芹ヶ野金山之儀、万治三年比、間見山堀被仰付候由、山先申候、山繁榮之時分凡人数七千人ニおよび候由申伝候、然処漸々山衰、至天和三亥年相覺候事
- 一 鹿籠金山問見堀天和三亥年より相始候、且又芹ヶ野も元禄十一寅年再金山堀候儀被仰出、連々被召立事候、是ハ諸国山堀候様ニと公儀仰渡之趣ニ付急度被仰付候事
- 一 右鹿籠金山・芹ヶ野金山之儀、此以前相替堀出候砂金繼故、漸々山衰正徳三年巳七月より同六年申六月迄、鹿籠金山本払三ヶ年廻にして尙尙年九拾六貫九百目余、芹ヶ野金山五拾四貫貳百九拾目余引入候付、芹ヶ野金山休山之願被仰上、享和二年之冬より休山ニ相成候事
- 一 鹿籠金山引入銀相立來り、明和元年申七月より同二年酉六月迄、出金百四拾九匁三分有之、引入銀拾六貫八百五拾八匁六分三厘余有之候
- 一 川辺之内神殿金山金氣過分有之場所ニ而御物より堀方被仰付置候処、水敷相成、被召止置、其以後段々堀方被仰付候得共、堀続難成、休山相成居候処、享保十七年子五月試堀被仰付置候得共、是又堀続かたく候

- 一 処、寛延元年辰九月堀方御免被仰付、吹金百目余吹出、当分堀子之者繼計相掛稼方仕居候、明和元年申七月より同二年酉六月迄、出金貳拾八匁九分有之、其以後堀方無御座休山ニ相成居候
- 一 大口之内牛尾浦金山、享保十三年申八月より試堀被仰付、元文四年未十二月山床御取揚被仰付候得共、宝曆十一年巳四月又々自分試堀御免被仰付置、繼計出金有之候、今以堀方仕候得共、当分出金無之候
- 一 田代之内前目高塚金山享保十五戌四月より試堀被仰付置候処、堀主相果、宝曆四戌四月山床御取揚被仰付候
- 一 大口之内大平金山金氣有之、享保十五戌八月試堀被仰付置候得共、金氣之場所切付不申、山床差上度旨願出候
- 一 坊泊之内広大寺金山享保二十卯八月より試堀御免被仰付候処、堀主相果、宝曆四戌四月山床御取揚被仰付候
- 一 阿多之内水無川原金山享保十三申十二月試堀被仰付、玉金九匁余吹出其以後稼方無之、今通ニテ被召置候
- 一 綾浦中尾筋大森元文二巳十一月より試堀被仰付、元文四未正月山床御取揚被仰付、延享二丑四月又々試堀被仰付候得共、本手ニ差迫、寛延元辰三月山床御取揚被仰付候
- 一 馬越山田村之内山飯屋金山寛延三年十一月試堀被仰付候得共、宝曆十年辰八月山床御取揚被仰付候
- 一 穆佐之内米山金山寛延二巳六月試堀被仰付候得共、宝曆十二年八月山床御取揚被仰付候
- 一 串木野西嶽之内唯越金氣有之、寛保三亥二月試堀被仰付、正金拾匁計吹調候得共、本手差迫、其以後山床御取揚被仰付候
- 一 右同所之内金氣有之、天明七年未正月より試堀被仰付置、致稼方候得共未無間も儀ニ而出金無御座候
- 一 恒吉御牧内鷹鳥金氣有之、寛保二年戌二月試堀被仰付候得共、本手差迫、其以後山床御取揚被仰付候
- 一 試堀尙尙所 伊作之内 場貫鹿倉
- 一 右金鍾有之由ニ而試堀御免、宝曆十年辰正月被仰付置、今以堀方仕候得共、金氣不相見得候

一 加世田津貫宇敷鹿倉之内小木場川内

右金氣有之由ニ而寛延四年未六月廿六日試堀御免被仰付候得共、金氣無之由にて宝曆四年戌四月山床御取揚被仰付候

一 金山寺ヶ所

薩摩国伊佐郡祁答院之内 長野村
大隅国桑原郡横川之内 山ヶ野村

右ハ長野村ニ寛永十七年三月金氣見出、阿部對馬守様ニ被仰上御免被仰渡、寛永十八年より同式拾年迄相稼申候処、被召留候得共、亦ニ御願被仰上、明暦二年申六月御免被仰渡候、山ヶ野之儀其以後相廣り一円にして數ニ御米被召入、又ハ自稼被仰付置候処、亥正月より同十二月迄出金五貫百三拾九匁七分、焼金にして四貫四百五匁四分、江戸おひて御引替、本代小判千五百四拾九兩貳朱ト銀六匁四分四厘

但先年よりも直段相進申候

外ニ正銀三百六拾七匁分五厘

右寺行去亥年中焼金製法之節、水塩銀出銀ニ而時々諸所御用等ニ差出相成申候

一 綾之内撰谷

右ハ前方金氣有之、試堀仕候得共、中絶ニ而明和三年戌十二月三日試堀御免被仰付、其上御物より堀方迄も被仰付、別而位宜候得共、差立候出金無御座被召止候

一 金山寺ヶ所

薩摩国川辺郡 鹿籠

右天和三亥年 公儀御免ニ而御取立有之、自前ニ御米被召入、堀方被仰付、又ハ自稼をも致来候処、出金薄、年々引入相成候付、享和元年酉九月より一往休止被仰付候、然共其後山師中依頼自稼之儀ハ勝手次第 被仰付候、然処
大御隠居様以思召以前之通御米被召入、堀方被仰付候、亥正月より同十二月迄出金六百六拾七匁六分五厘、焼金にして五百七拾貳匁式分有之、於江戸御引替本代小判貳百壹兩貳朱ト銀五匁九分貳厘
但先年よりも直段相進申候
外ニ正銀四拾七匁七分

右寺行去亥年中焼金製法之節、出銀ニ而時々諸向御用等ニ差出相成申候

一 金山寺ヶ所

始羅郡山田之内 木津志村

右ハ嘉永元年右諸所ニ金鏈段ニ見出、上町人原田政右衛門試堀願出候処、同二年酉四月自稼御免被仰付、致稼方候処、少々出金有之、右出金ハ山ヶ野藏上納ニ而吹方迄も彼元ニ而吹調候様被仰付置候処、去亥正月より同十二月迄出金貳拾八匁五分五厘、焼金にして貳拾四匁四分、於江戸御引替本代小判八兩貳朱ト銀四匁八分四厘
外ニ正銀貳匁

右寺行去亥年中、焼金製法之節、水塩銀出銀ニ而諸向御用等ニ差出相成申候

「七十五」 银山有所之事

一 高尾野之内伊良ヶ追享保十八丑六月より試堀被仰付、正銀貳百目余吹調、寛保二年戌十月山床御取揚被仰付候、寛延元年辰九月亦ニ試堀被仰付候得共、本手銀ニ差出、宝曆四年戌四月山床御取揚被仰付候

一 出水大川内之内高川高むれ享保二十卯年より試堀被仰付、元文三年午五月山床御取揚被仰付候

一 試堀銀山寺ヶ所

牛根之内 櫓木鹿倉

右銀氣有之宝曆七年丑四月十二日試堀御免被仰付、正銀拾九匁八分吹調、御物御買入被仰付、其外白目かね四百斤程も吹調候得共、御用無之、大坂持上り壳松候様被仰付、堀方之儀山主当分山ヶ野金山ニ堀方被仰付、取付居候故、中休ニ而召置申候

一 今和泉池田村之内大谷

右銀氣有之、宝曆六年子二月試堀被仰付、正銀三匁三分吹調、宝曆十年辰八月山床御取揚被仰付候

一 高限鹿倉之内このから

右銀氣有之、宝曆七年丑十二月試堀御免被仰付置候処、鉛少々吹調

宝曆十年辰八月山床御取揚被仰付候

一 吉松小平山馬越豎平山

右銀氣有之、寛延二巳正月試堀被仰付置候得共、銀氣無之二付、宝

曆四戌四月山床御取揚被仰付候

一 牛根之内櫓木鹿倉

右宝曆七年丑四月銀山試堀被仰付置候得共、為差立儀無之、長々堀

方無御座候

一 出水平岩御試銀山沓ヶ所

右加世田預り郷上知賢居住種子田元峻事去ル酉八月依願、御領國中

諸所銅山自分失脚を以、試堀御免被仰付置候処、其後支配人被相替

田中仁左衛門被仰付、稼人数相掛当分稼方仕候処、追々銀鉛吹調

相応之金高差出候得共、其後天保十五辰十二月御兵具所支配被仰付

候

一 加世田野間御試銀山沓ヶ所

右去ル子年要用集調被仰渡候節、銅山稼方仕、出銅も御座候得共、

其後本手不積候付、休山申出、取止ニ相成居申候

「七十六」 銅山有所之事

一 出水大川内之内銅氣有之、享保二十卯四月より試堀被仰付、元文三年

午五月山床御取揚被仰付候

一 加世田之内野間銅氣有之、正徳四卯年試堀御免被仰付置候処、出来銅

無之付、休山被仰付候得共、享保十九寅年より再試堀被仰付、銅拾四

斤吹出、元文三年午五月山床御取揚被仰付候

一 出水之内柴毛野川内卒礼五百山兩鹿倉享保八年卯九月吹例被仰付置候

処、辰十一月休山被仰付候

一 財部之内華多ひら谷銅氣有之、享保八卯年より試堀被仰付、元文三年

午五月山床御取揚被仰付候

一 阿久根之内田代山享保九辰年同十七子年同二十年三度御免被仰付、元文三年五月山床御取揚被仰付候

一 国分之内猿之木場銅氣有之、享保十巳年より試堀被仰付置候処、元文三年山床御取揚被仰付候

一 国分川内村之内天明三年卯三月より銅山試堀被仰付置、同七年未年迄、荒銅貳万四千五百斤余出来仕候得共、当分稼方無御座候

一 甌島銅氣有之、享保十七子四月より試堀被仰付、銅三拾貫目余吹調候処、本手ニ差迫、延享三寅二月山床御取揚被仰付候、亦々宝曆五亥十月試堀被仰付候得共、堀方取付及延引候ニ付、宝曆八寅三月山床御取

被仰付候

一 鹿屋牧内銅氣有之、元文三年二月試堀被仰付、銅拾五貫目吹調候処、元文五年申三月山床御取揚被仰付候

一 鹿屋之内大谷鹿倉
右明和四年亥三月銅山試堀被仰付置候得共、為差儀無之、当分堀方無御座候

一 野田鹿倉之内水無谷銅氣有之、享保二十卯八月試堀被仰付、元文三年午五月山床御取揚被仰付、寛延元年辰九月又々試堀被仰付、本手差迫、同三年午九月山床御取揚被仰付候

一 伊集院之内嶽銅氣有之、延享三年寅四月試堀被仰付候得共、本手銀ニ差迫、其以後山床御取揚被仰付候

一 試堀銅山沓ヶ所
出水之内 鬼原鹿倉
右銅鍊ニ相見得有之、試堀之願申出候処、明和二年酉四月御免被仰付当分堀方仕候得共、銅氣相見得不申候

「七十七」 錫山有所之事

一 谷山錫山明曆元年未九月より御取立、今以堀方被仰付置候処、宝曆四年戌七月より六月迄、出錫四千五百九拾八斤余有之、御利潤銀六百九

匁壹厘余有之

一 山崎之内白男川享保十七子年より試堀御免被仰付、元文三年午五月山床御取揚被仰付候

一 出水栗毛野谷牟礼五百山鹿倉之内錫山寛延三年午十月試堀被仰付候処、正錫九拾八匁吹調、其以後稼方不仕、其通ニ而被召置候付、宝曆十年辰八月山床御取揚被仰付候

一 川辺黒仁田鹿倉之内

右錫氣有之、宝曆十一巳四月試堀御免被仰付候得共、錫氣無之、明和二酉六月山床御取揚被仰付候様申上置候

一 谷山錫山安永六酉七月より同七戌六月迄、錫七千三百七拾斤五合九匁九才程出来仕候得共、銀壹貫百四拾四匁壹分七厘四毛程引入銀相立申候得共、御米直成依高下御損徳相并不申候

一 谷山錫山天明六年午七月より同七年未六月迄、錫五千五百三拾四斤七合五匁才程出来仕候得共、銀五貫百八拾六匁八分四厘程引入銀相立申候得共、御米直成、依高下御損徳相并不申候

一 谷山錫山享保二年戌七月より同三年亥六月迄、出錫五千四百七拾七斤九合有之、於御当地御払相成銀貳貫百六拾六匁四分三厘八毛御利潤相見得申候

一 谷山錫山文政九年戌正月より同十二月迄、出錫壹万五千七百四拾貳斤余、御払代銀七拾四貫五百七拾四匁余

一 谷山錫山文政九年戌正月より同十二月迄出錫壹万五千七百四拾貳斤余有之、於御当地御払相成、銀七拾四貫五百七拾四匁余御利潤相見得申候

一 谷山錫山天保十亥正月より同十二月迄出錫四万四千四百五拾九斤半、右之内式千貳百六拾壹斤半諸向御用ニ差出、残三万九千九拾貳斤御払代銀千八百拾貳貫文余ニ相及、錫山御本手諸雜費差引相成之御利潤ニ相成申候

但先年よりも直段相進申候

「七十八」 鉄山有所之事

一 志布志 三山
一 大村 一山

右ニケ郷四山地商賈鉄山仕込居申候

「七十九」 鉛有所之事

一 鹿屋之内高隈境白木鹿倉鉛氣有之、享保十八丑十一月試堀被仰付元文三年五月山床御取揚被仰付候

一 高尾野之内伊良ヶ迫鉛氣有之、享保十八丑六月試堀被仰付、鉛五拾斤余吹調、寛保二戌十月山床御取揚被仰付、寛延元辰九月又ニ試堀被仰付候得共、本手銀差迫、宝曆四戌四月山床御取揚被仰付候

一 田布施金峰山之内鉛鍾見出、文化元子六月より試堀被仰付、当分迄鉛千八拾六斤余取揚候得共、其以後水支ニ而取止候処、其後弘化四年より御内用計を以又ニ堀方被仰付候得共、指而出鉛も無御座候付、嘉永四年亥五月御取止被仰渡候

「八十」 水晶有所之事

一 高隈壹ヶ所

一 龜島之内

一 長浜壹ヶ所

出水之内

一 栗毛野壹ヶ所

右諸所御用外ハ一向被召留置候

右之通書載有之候得共、当分ハ水晶山無之候

「八十二」 硫磺并明礬有所之事

- 踊之内
- 硫磺山一山
- 右同所之内
- 明礬山一山
- 右三ヶ郷武山硫磺山并明礬山仕込居申候

「八十二」 炭楯粉山餅山之事

- 吉田 二山 一 長島 一山
- 蒲生 一山 一 重富 一山
- 串木野 一山 一 郡山 一山
- 平佐 一山 一 伊集院 七山
- 川辺 一山 一 伊作 二山
- 谷山 三山 一 知覧 一山
- 大始良 二山 一 牛根 一山
- 垂水 一山
- 右拾五ヶ郷武拾六山地商売薪山仕込居申候
- 山崎 一山 一 鶴田 三山
- 穆佐 一山 一 高岡 一山
- 右四ヶ郷六山地商売雜灰山仕込居申候
- 山崎 一山
- 右平佐皿山松灰山仕込居申候
- 蒲生 二山 一 伊集院 一山
- 川辺 一山
- 右三ヶ郷四山地商売鍛冶炭山仕込居申候

- 蒲生 二山 一 大村 一山
- 溝辺 二山 一 郡山 一山
- 知覧 一山 一 財部 三山
- 都城 一山 一 大根占 一山
- 牛根 一山 一 百引 二山
- 高隈 一山 一 垂水 一山
- 始羅郡
- 山田 二山 一 踊 一山

右拾四ヶ郷武拾山地商売炭山仕込居申候

- 大根占 一山 一 小根占 一山
- 一田代 一山

右三ヶ郷三山地商売楡木山仕込居申候

- 都城 一山 一 高原 一山
- 阿久根 一山

右三ヶ郷地商売粉山仕込居申候

但依願御証文を以他国出被仰渡儀も御座候

- 蒲生 一山 一 都城 一山

右二ヶ郷地他国商売山餅山仕込居申候

但依願他国出被仰渡儀も御座候

「八十三」 甕島網方之事

甕島漁獵冬春之間、四五ヶ月自他国之漁人八駄網を以罾取揚商売候由島津助之丞御物座勤役之節、天和二戌年比其間得候付、檢使差渡候処利潤銀島中ニ而令配分、津口銀上納迄ニ而候、依之翌年より毎年檢使差渡、致差引網方利潤銀惣而上納候様相定候処、島中神社仏閣修補ハ御物より被仰付、右之通御国遣座支配成候御ハ網数貳拾貳三帖ニ而納

銀も纒二候処、漸々相重、網數百四拾帖程、旅人七千五百九拾人余、取揚鱒七拾万俵程、元禄十一寅年之御利潤銀四百貳拾七貫目程、御壳米壹万石余之直増銀相込候、依之島中壳米壳竹木之儀ハ脇商壳被差留御物より被壳渡候、此外諸物問屋等之儀ハ漁人不勝手無之様ニト之儀ニ而未壳仰付候、若不勝手之筋ニ漁人不入来候得ハ自然と御利潤引入候付、余事ニ御構無之候事

但近年ハ前方之様鱒不相見得候ニ付、旅人も相減、享保元申年他国又ハ地方之諸浦、甌島地網數四百九拾八帖、取揚鱒六千九百九拾壹俵、御利潤銀凡三拾貫四百七拾目余為有之由候
右之通前方御利潤銀有之候処、当分ハ御礼銀文政九戌年壹ケ年分銀六拾四匁分壹厘有之

「八十四」 母駄他国江不出事

一 母駄他国江出、近国之馬多素立候得ハ雜小荷駄他国出漸々減少之筈候間、母駄他国出之願申出候而も取揚間鋪事
但年簡不相知候

「八十五」 他国江不出品之事

- | | | | | | |
|-----|---------|-----|---------|-----|-------|
| (朱) | 一 鉄炮 | (朱) | 一 刀 | (朱) | 一 塩硝 |
| (朱) | 一 琉球焼酎 | (朱) | 一 から桐の木 | | 一 樟腦 |
| | 一 掛物 | | 一 茶湯道具 | | 一 棕梠竹 |
| | 一 琉球草木品 | | 一 綾鳩 | | 一 狎犬 |
| | 一 御国火繩 | | | | |
- 右輪屋五品ハ他国出被差留置候得共、無拠依訳合ハ吟味之上御免可

被仰付儀も可有之候間、其通可相心得候事
鯨糞ハ於長崎阿蘭陀人并唐人方江被壳渡之候、乍然高直ニ申請者於有之ハ重而無紛様他国商壳申渡管候、依之見付候者より皆共上納仕置、達 貴聞御払物被仰付、其代銀之内三ケ壳見付候者江被下之御法ニ候故、脇商壳曾而不罷成通法之物ニ候事

「八十六」 御勝手方証文を以他国出品之事

- | | | |
|----------|----------|----------|
| 一 生蠟 | 一 芭蕉并芋芭蕉 | 一 黄楊 |
| 一 上布 | 一 藻玉 | 一 鍋地金 |
| 一 下布 | 一 洞貝 | 一 伊平貝のから |
| 一 やこ貝のから | 一 焼物壺 | 一 樽底樽 |
| 一 琉線子 | 一 琉表礎 | 一 銅 |
| 一 鉄地金 | | |
- 右品ハ御勝手方証文ニ而他国出被差免来候得共、一往不及証文被差通候
一 馬之尾 一 棕梠皮
一 錫 一 鉛 一 麻苧
一 平木 一 つく繩并つく 一 米雜穀
右品ハ御勝手方証文ニ而他国出被差免候

「八十七」 他国出御利潤有之品之事

- | | | |
|-------|-------|------|
| 一 米 | 一 粟 | 一 蕎麦 |
| 一 小麦 | 一 唐芋 | 一 生蠟 |
| 一 たは粉 | 一 菜種子 | 一 胡椒 |
| 一 鹽節 | 一 爵金 | 一 柴胡 |

芭蕉布	中本質紙	下小本質紙
宮古上布	豚	へにから糸
赤つく	もう類	八重山上布
肉桂	黒つく	毛氈
麝香	羌活	からかね
砂参	枳殼	木香
遠志	坊風	青皮
白鮮皮	金蠟	白芍薬
山査子	山茱萸	地黄
白朮	山帰来	大黃
枳実	雷丸	牛膝
白砂糖	甘草	貝母
連翹	まくり	黄苓
白芷	芭蕉芋	白豆蔻
升麻	雄黄	氷砂糖
黄茂	真綿	附子
芍薬	豚の油	茯苓
かうりの実	菜種子油	蒼朮
荏子	はんすいも	猪苓
鯨糞	和蜜	麻黄
白姜蚕	香粟	鉄釘
大麦	金銀花	春麦
小豆	縁豆	生姜
琉米	髭人参	大豆
山餅	明礬	檜底樽樽
椎皮	木の子	炭
塩鱈	堅鱈	柿粉
胡椒油	魚油	小魚
硫磺	黒砂糖	塩
我朮	牛皮	馬皮

蜜蠟	獨活	川骨	川棟子	商陸	牽子	枳核	薬本	山薬	薄荷	木通	瓜楼根	威靈仙	車前子	紫蘇	藍玉	ふたなり	延命散	推茸	小椎	茶家	飛紗綾	緞	人参	砥石	酒樽	五尺樽樽	おらんたしま	唐木綿	上小紙
蜜	黄壁	厚朴	苦棟根皮	葛根	ウト羌活	黄精	蘇子	狗把子	天南星	筒陳	天爪粉	蔓荊子	草没明子	益母草	苦辛	大丸	切石	紙	玉子	小すぼた	小杉原	紙帳	鉄	石燈炉	糠	四尺樽樽	奥島	卷物	小紙
釣藤釣	紫根	前胡	青箱子	草解	川原紫胡	香薷	菊華	地骨皮	何首烏	薏苡仁	風藤	瓜楼仁	生木香	天門冬	桔梗	油粕	蕪種子	木海月	鯉苞	胡麻粕	梔子	錫瓶	ひろふど	唐紙	琉球黄楊	醬板	黒竜爪	白糸	長ケ永紙

- 一 五倍子 一 山椒 一 貫冬
- 一 枇杷葉 一 桂心 一 縮砂
- 一 紅花 一 牛房 一 山梔子
- 一 天章子 一 白篇豆 一 黄芩
- 一 沢瀉 一 木瓜 一 石菖根
- 一 桑白皮

文銀八百五拾四貫七百三拾壹匁五分五厘
 内百八拾貳貫六百七拾六匁九分三厘六毛
 六百九貫五百六拾四匁六分壹厘四毛
 六拾貳貫四百九拾匁
 山奉行所 御船手
 町奉行所
 右品々御船手・山奉行所・町奉行所ニ而去ル亥年手形銀并運上銀相
 掛、他国ニ差通候、壹ケ年分太抵右銀高二而候

「八十八」 桜島并諸所垂蠟方御利潤銀員數

御物方
 一 生蠟五拾九方貳千貳百六拾六斤 桜島諸所
 内貳拾三万九千七百五拾八斤 大坂仕上せ方
 五万三千三百五拾七斤半 御香屋御用
 五百斤 御前御用
 八万八百八拾八斤 唐物方統
 貳拾壹方七千貳百九拾九斤半 申請松
 四百六拾參斤 御払残り
 代銀五百四拾參貫四百九拾三匁五分六厘九毛
 但諸上納銀込ル
 内五百三拾貫五拾七匁六分五厘九毛
 諸人目
 拾參貫四百三拾五匁九分壹厘 御利潤銀

合生蠟五拾九方貳千貳百六拾六斤
 合銀拾三貫四百三拾五匁九分壹厘
 御利潤銀
 右ハ文政八年酉八月より同九年戌七月迄御利潤銀如斯候

「八十九」 樟腦方御利潤銀之事

樟腦拾貳方貳千四百三拾六斤
 代銀三百六拾七貫三百八匁
 外ニ樟腦三万三千六拾八斤三合
 右壹行御買入元より出斤
 合樟腦拾五万五千五百四斤三合
 内八万六千六百九拾六斤 長崎松
 代銀三百拾七貫百八拾三匁貳分(八厘カ)六毛
 千八百四拾四斤半 (諸カ) 所御用
 八百貳拾七斤貳合 諸人申請松
 代銀貳貫四百八拾壹匁六分
 右代銀之内
 四拾六貫貳百五拾八匁三分八厘四毛
 外ニ
 貳貫八百貳拾壹匁八分貳毛 御利潤銀
 右嘉永四亥年中御利潤如斯候 諸人目

既刊史料名

三十四年	第一集	薩藩政要録
三十五年	第二集	丁丑日誌(上)
三十六年	〃	〃(下)
三十七年	第三集	薩摩国新田神社文書
三十八年	第四集	一向宗禁制関係史料
三十九年	第五集	薩摩国山田文書
四十年	第六集	諸家大概・職掌紀原
四十一年	第七集	薩摩国阿多郡史料・山田聖栄日記
四十二年	第八集	御登道中日帳御下向・列朝制度
四十三年	第九集	明治元年戊辰戦役関係史料
四十四年	第一〇集	伊能忠敬の鹿兒島測量関係資料並解説
四十五年	第一一集	管窮愚考・雲遊雜記伝
四十六年	第一二集	川上忠塞一流家譜
四十七年	第一三集	本藩人物誌
四十八年	第一四集	薩陽過去帳
四十九年	第一五集	備忘抄・家久公御養子御願一件
五十年	第一六集	鹿兒島県地誌(上)
五十一年	第一七集	鹿兒島県地誌(下)
五十二年	第一八集	薩藩☆士文章
五十三年	第一九集	薩藩先公貴翰 乾
五十四年	第二〇集	薩藩先公貴翰 坤
五十五年	第二一集	小松帯刀傳・履歴・記事
五十六年	第二二集	小帯刀日記
五十七年	第二三集	新修舊鹿兒島藩領圀・郡・郷・村・浦・町附(上)
五十八年	第二四集	新修舊鹿兒島藩領圀・郡・郷・村・浦・町附(下)
五十九年	第二五集	三州御治正要覽
六十年	第二六集	桂久武日記
六十一年	第二七集	明赫記
六十二年	第二八集	要用集(上)
六十三年	第二九集	要用集(下)

鹿兒島県史料刊行委員会

五十音順

川越政則	元南日本新聞社社長
芳即正	鹿兒島純心短大教授
桐野利彦	元鹿兒島女子短大教授
桑波田興	鹿兒島大学教授
五味克夫	鹿兒島大学教授
小西四郎	元東京大学授
犀川碓吉	元甲南高等学校長
竹内理三	元早稲田大学教授
原口泉	鹿兒島大学助教授
福満武雄	鹿兒島新報社専務取締役
宮下満郎	甲南高校教諭
桃園忠真	鹿兒島大学名誉教授
山田尚二	錦江湾高校教諭

要 用 集 (下)

平成元年三月

発行 鹿児島市城山町五の一
鹿児島県史料刊行会

鹿児島市錦江町二一五五番

印刷 (有) 互 助 印 刷

電話 二四一三三〇四

